

平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム」(教育GP)採択

「複視眼的視野を持つ国際的医療人の育成」

## 2009 年度後期 EMP 報告書



Matinee Maipang 医師 (EMP4)



池ノ上 克 教授 (EMP5)



Penny Murata 医師 (EMP5)



Sakchai Ruangsri 医師 (EMP5)

宮崎大学医学部社会医学講座英語分野

玉田吉行・横山彰三・Michael GUEST・Richard WHITE・南部みゆき・白坂佳代(非常勤)

# 目次

I	はじめに	玉田 吉行	
II	英語分野教員から		
	平成 21 年度 (2009 年度) EMP 報告	1	
	横山 彰三	3	
	Michael Guest	5	
	Richard White	7	
	南部 みゆき	8	
	白坂 佳代	10	
III	活動報告		
3.1	EMP 日程表	医学科 4・5 年生	11
3.2	EMP5 授業報告	医学科 5 年生	12
3.3	EMP5 2009 後期アンケート	医学科 5 年生	16
3.4	EMP4 授業報告	医学科 4 年生	20
3.5	EMP4 2009 後期アンケート	医学科 4 年生	24
3.6	EMP セッション見学の感想	医学科 1 年生	26
3.7	ENP3 授業報告	看護学科 3 年生	28
3.8	ENP3 2009 後期アンケート	看護学科 3 年生	31
3.9	ENP2 授業報告	看護学科 2 年生	33
3.10	ENP2 2009 後期アンケート	看護学科 2 年生	36
3.11	看護学科教員から		
	水畑 喜代子 (小児・母性 (助産専攻) 看護学講座)		38
	長谷川 珠代 (地域看護学講座)		39
3.12	N_ENP[A]授業報告	附属病院看護部 (A)	41
3.13	N-ENP[A] 2009 後期アンケート	附属病院看護部 (A)	44
3.14	N_ENP[B]授業報告	附属病院看護部 (B)	47
3.15	N-ENP[B] 2009 後期アンケート	附属病院看護部 (B)	51
3.16	N_ENP[C]授業報告	附属病院看護部 (C)	53
3.17	N-ENP[C] 2009 後期アンケート	附属病院看護部 (C)	55
3.18	N_ENP[D]授業報告	附属病院看護部 (D)	57
3.19	N-ENP[D] 2009 後期アンケート	附属病院看護部 (D)	61
3.20	N_ENP[E]授業報告	附属病院看護部 (E)	63
3.21	N-ENP[E] 2009 後期アンケート	附属病院看護部 (E)	66
3.22	O_EMP[A]授業報告	医学部事務局 (A)	68
3.23	O-EMP[A] 2009 後期アンケート	医学部事務局 (A)	71
3.24	O_EMP[B]授業報告	医学部事務局 (B)	74
3.25	O-EMP[B] 2009 後期アンケート	医学部事務局 (B)	78
IV	プリンス・オブ・ソンクラ大学研修・視察レポート		
	児玉 由紀 (生殖発達医学講座産婦人科学分野)		80
	堀内 真由美 (総合周産期母子医療センター)		82
	濱砂 馨 (総合周産期母子医療センター)		86
V	あとがき	玉田 吉行	

2009 年度後期の EMP と ENP の報告書です。

EMP を始めて 5 年が過ぎました。今年初めて実現したのは、以下の四つです。

- ①医学科 6 年生の成田くんをカリフォルニア大学アーバイン校に 4 週間派遣 (2 人枠)
- ②看護学科 4 年生の齋木さん、溝口さん、吉田さんをソククラ大学に 2 週間派遣 (4 人枠)
- ③事務局の EMP を開始
- ④看護学科 ENP を 2 年生から開始 (2 年生・3 年生各 4 単位)



元々、ソククラ大学との学生交換は、元学長の住吉さんなどの基礎医学の人たちの研究交流から始まったと聞いています。2005 年に医学部の予算から学生受け入れの際に予算を出すことと医局でタイの学生を受け入れることを決め学生交換が実現しました。統合後医学科に残ることになった英語科がタイに行く学生の英語研修をすることを要請されて生まれたのが EMP です。今から思うと、実際に英語での受け入れは大変ですし、よく決断したものだと思います。大抵は学生を派遣するだけの「国際交流」

(外圧を受けて受動的に動く国からの要請を受けての大学の受動的な「国際交流」だと思いますが) が多い中で、学生を受け入れての実質的な学生交換は貴重だと思います。

その思いもあって初年度から毎年 3 月か 4 月の教授会で EMP の報告をして来ました。今回も既に 3 月 8 日の教授会で報告しました。(「II 英語分野の教員から」の中に入れてます。)

始めた当初はみんなで創り上げるという気持ちもあって学生もかわりが濃かったと思いますが、慣れて来ると、制度があって当たり前というふうに考える学生も出てきているように思います。「今まで EMP の授業のことを、義務のように受けなければいけないもの、と思っていたが、今回は受けたいから行く、という感じだった。」と 5 年生の感想の中で書いていますが、5 年生でさえもこう考えていたんだと思うと少しかなしくなります。今回その感じを強く持ったのは医学科の 2 年生で、期間も最初から決めているのに、試験の間近には半数以上が欠席し、アンケートにそんな時間割を組むとはと書かれていました。結構欠席者や遅刻する人もいて、とても自主的に参加しているとは思えませんでした。連絡網もあるわけだから、気持ちがあればメールで欠席の連絡くらいは出来るのと思いました。4 年になってもこのような状態なら、続ける自信がないとも思いました。EMP を始める時に、学生次第でいつでもやめてもいいならお引き受けします、という条件をつけて引き受けましたが、本当に実行したい気分になったのは初めてです。そうならないことを祈ります。

看護学科の 2 年生もそうです。4 年生が無理してソククラの報告会をしてきているのに、ほとんど出席していませんでした。これからソククラに行く 3 年生と 2 年生のためにしているのに、それはないと思いました。

現在医学科はソククラ 8 人、アーバイン 2 人の 10 名枠、看護学科はソククラの 4 名枠ですが、去年も今年も枠が埋まらず、医学科では EMP に参加していない人に公募をして派遣学生の推薦をすることになりました。始めた当初 20 名近くの参加者がいたわけですから、2 年間続けるのはなかなか難しいということでしょう。

学生に比べると、看護部 ENP と事務局 EMP は、仕事のあとの時間をさいてやっているだけあって、真剣味が感じられました。まずは始めよう、という時期から、内容を工夫していく時期に来ていると思います。

あと二週間あまりすれば、6 年目が始まります。「複視眼的視野を持つ国際人的医療人の育成」の予算も 3 年目、最終年度を迎えます。折角大変な思いをして取った予算ですから、有効に使えたらと思っています。

2010 年 3 月 14 日

たま

## 平成 21 年度 (2009 年度) EMP 報告

2010 年 3 月 8 日教授会

英語分野 玉田吉行

## 2009 年度活動報告

&lt;今年度初めて実施したこと&gt;

- \* 医学科 6 年生 1 名をカリフォルニア大学アーバイン校に 4 週間派遣 (2 人枠)
- \* 看護学科 4 年生 3 名をソクラ大学に 2 週間派遣 (4 人枠)
- \* 事務部 EMP を開始
- \* 看護学科 ENP を 2 年生から開始

&lt;主な活動: EMP 講座・EMP (5 年目)・ENP (4 年目)・看護部 ENP (4 年目)・事務部 EMP(1 年目)&gt;

- \* EMP5 年: 前期夏休み・後期期間内・4 単位・参加者 10 名 (最終的に 7 名)
- \* EMP4 年: 期間内・4 単位・参加者 15 名 (最終的に 8 名)
- \* EMP2 年: 前期期間内・2 単位・参加者 9 名 (2 年目)
- \* ENP3 年: 前期期間内・4 単位・4 名参加
- \* ENP2 年: 期間内・4 単位・9 名参加 (最終的に 6 名)
- \* 病院看護部 ENP: 木曜日放課後・前期・90 分 10 回・3 グループ 23 名参加、後期: 木曜日放課後・90 分 10 回・5 グループ 34 名参加
- \* 事務局 EMP: 火曜日放課後・前期・90 分 10 回・2 グループ 15 名参加、後期: 火曜日放課後・90 分 10 回・2 グループ 15 名参加

2009 年度医学科 EMP、看護学科 ENP、附属病院 N_ENP 実施状況							
医学科	学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
	科目名	EMPAI	EMPAII		EMPAIII	EMPAIV	ソングラ・アーバ
	単位数	(2)	2 (前)		4	4	インで臨床実習 と、報告会
看護学科	学年	1 年	2 年	3 年	4 年	ソングラで実習	
	科目名		EMPBI EMPBI	EMPBI	臨床実習 と報告会	(昨年度初試行、今年度より 正式に開始)	
	単位数		(2) 4	4			
附属病院 看護部	前期 A グループ (Advanced)、B グループ (Basic) の 2 クラス、後期 A グループ (Advanced)、 B・C グループ(前期より継続)、D・E グループ (Basic) 各 90 分 10 回実施					ソングラで 2 週間研修 (昨年度初試行、今年度より 正式に開始)	
事務局	A グループ、B グループの 2 クラス、 前期・後期各 90 分 10 回実施						

### <実習・報告会>

- \* アーバイン校 1 名、ソンクラ大で 6 名が実習、報告会：参加者 34 名。ソンクラ大生 7 名を受け入れ。
- \* 看護学科ソンクラ大で 3 名が実習、報告会：参加者 38 名。ソンクラ大生 4 名（学部生 2 名、修士課程学生 1 名、博士課程学生 1 名）を受け入れ。
- \* 看護部 2 名が研修（2 年目）に参加し、報告会を予定。看護師 2 名を受け入れ。

### <経費>

- \* 平成 20 年度「質の高い大学教育推進プログラム」採択 分の 2 年目  
海外招聘 4 名（ソンクラ関係から 3 名、アーバインから 1 名）  
海外派遣 3 名（ソンクラ看護部 2 名、臨床 1 名）／国内招聘 7 名（うち卒業生 5 名）
- \* 冊子：前期報告書（94 ページ）、留学記・報告記（2）—PSU・UCI（85 ページ）、2005 年度報告書（再編集）を作成。後期報告書を作成中。

### <その他>

- \* 看護学科「JICA 中東地域 女性の健康支援を含む母子保健方策」に参加、EMP2・3 年：Job Report、病院案内等、EMP2・4 年：ディスカッション等。
- \* TOEFL の ITP テストを受験（17 名）

### <問題点・今後の課題>

- \* ソンクラ・アーバイン行きの枠を毎年満たすのは難しい（医学科：去年 10 人枠で 7 名、今年 7 名、来年未定、看護学科：一昨年 2 名枠で 1 名、今年 4 人枠 3 名、来年 2 名、編入生を入れて 4 名）その結果、今年はソンクラ行きの学生枠の 3 名を公募し、教務と国際交流と英語科で試験・面接をして推薦者を決定。色々することがある中で英語を優先して最低 2 年間継続するのは結構難しい。
- \* 時間割の中で空き時間を確保するのは難しく、今回は何とか確保した時間内で計画しましたが、4 年生が再試期間と重なり支障が出ました。外部から招聘する講師とは半年以上前から交渉していたので、日程の調整に難航しました。日程上の工夫が必要のようです。
- \* 今年も加藤教授・伊達教授・高宮教授・澤口准教授・池ノ上学部長が EMP の授業を担当し、長谷川講師・水畑講師が EMP の授業を担当して下さいました。今後お願いするとは思いますが、どうかよろしくお願いします。
- \* 学生交換での実習のための講座として始めた EMP も今年で 5 年、EMP も 4 年が過ぎました。今年は日頃受け入れでお世話になっている事務局の EMP も始めました。看護部・事務局の方たちは仕事のあとでの研修だけあって、学生よりも取り組みの姿勢も真剣です。



始めたころに比べるとEMPにかかわる人の数も増え（前期の報告書も参加者だけでも百名近くありました）、学部全体で、お互いに協力しようという姿勢が出て来たように思います。することは増えていますが、出来ることはやろうと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。



今年で 5 年目になる EMP (ENP は 4 年目) です。以下、全体から見れば一部のことでありますが筆者が招聘に関わったものについていくつか思い出すことなど振り返ってみます。

前期 (6 月) の EMP では筆者が学術振興会に申請して招聘した英国バーミンガム大学の John Skelton 教授に EMP2 および EMP4 のセッションを実施してもらいました。内容は Practice in basic Clinical Communication. Two role play scenarios worked through in detail: Breaking Bad News to a patient with probable lung-cancer and talking to a patient and his daughter about symptoms indicating early dementia について。Skelton は Clinical Communication を専門としており clinical communication の重要性や医療などの専門職に携わる者の実践からの省察(reflective practice)の必要性について言及しました。授業では実際に role play を通して doctor-patient communication の講義が行われ学生の反応も「これまでに経験したことのないもの」で非常によい機会になったと思います。

従来、言語教育においては language-as-code という考え方が主流であったわけですが、この EMP プログラムは他の招聘教員のセッションを含めて、本学で唯一 language for thinking and doing という視点から英語教育を提供していることを再確認しました。

同じく前期 (6 月) には「患者援助法」としてがん患者のメンタルケアを中心としたサイモントン療法の第一人者である川畑伸子さんをお呼びしてのセッションを実施しました。今回で 2 度目になります。実は後で伺った話ですが、講義当日の早朝にアメリカからサイモントン博士の突然の訃報を受け取り、「授業と講演はこんな不安定な状態で無理なのではと思っていましたが、鹿児島からの移動で涙曇りの霧島連山を眺めながら、カール (サイモントン博士) への敬意と偉業を讃えてしっかり講義をしようと決意し臨みました」と後日メールをいただきました。川畑さんにとってカールは心の父親のようなものでしたからきつと大変な状態だったでしょうが、それをみじんも出さない講義はあっぱれでした。サイモントン博士には何度かお会いしたことがありますが、真っ白なひげを蓄えてちょうどケンタッキーのカーネルサンダースみたいな方です (うちの長女はさんたくろーとよんでいました)。ジョークの好きなやさしい目をした穏やかな語り口の、存在自体が「癒し」のような方でした。今生でお目にかかれたことに感謝するとともに、心からご冥福をお祈りします。

近年では神経系やホルモン系の研究成果によって、私たちの心や感情が身体に及ぼす影響が科学的に解明されてきており、腫瘍学でもサイコオンコロジー (精神心理腫瘍学) という分野が確立され、ストレスとがんとの因果関係が明確になってきましたが、そのような考えもなかった今から 40 年も前に、太平洋を隔てたアメリカに、この分野に取り組み荒波にもまれながらも強い信念を持って、現在までその仕事を継続させてきた医師が Dr カールサイモントン (米国の放射線腫瘍医・心理社会腫瘍医) です。その療法のごく一部を EMP に取り入れています。

2009 年 2 月の EMP では当時の 5 年生が、「科学的でない」(!?(横))、「医学ではない」(!?(横))、「怪しい」(ま、たしかに(苦笑)でも怪しいのって興味ない?(横)) などなどの理由で、なんとこのセッションの受講を拒否するというアクシデントもありました。そのため講義は 4 年生のみを対象に実施されましたが、この講義内容の充実度と満足度は受講学生からのフィードバック (2008 年度後期 EMP 報告書、2009 年度前期 EMP 報告書) が示している通りです。全学生に受講させたい講義だとの感想もありました。卒業する 6 年生はこれからが本番です。どうか自分の狭い見識だけから判断するのではなく、与えられたご縁を生かし、患者さんへの思いやりと優しさをもった医師になれるよう願っています。

2010 年 2 月には日本赤十字国際医療救援部から加藤さんをお呼びして、これも 2 回目の講義を実施しました。加藤さんとは 2003 年 7 月に当時の勤務地である熊本日赤でお会いしたのが最初です。科研の調査で伺い、日本も近年積極的に参加している国際医療救援の現場において、英語がどのような位置づけで教育されそして実際に使用されているのかについていろいろと教えていただいたのがきっかけでした。そのときの調査から、そもそも英語を何のために学習・教育するのかの本質的な目的について喚起されたことを覚えています。医療という分野で世界の最貧国や戦場に出向き国際救援という銭金とは無関係の世界にあって—もちろんきれい事だけでは済まされないようですが—一時には命を危険にさらして働く人々の話は、これからの医学英語教育にとって大変示唆的でした。つまり、より現実的で人類に共通な目的のために英語を使うことの必要性です。EMP、また特に今回の教

育 GP ではこの「専門で」英語が使えて「将来国際社会で貢献できる」英語力を身につけることが大きな柱となっています。在学中にそこまでいくのは実際問題としてはかなりハードルが高いでしょうから、先端医療だけが医者の仕事ではなく医療にも様々な関わり方があることを学んでもらえたらと思います。今回は救援現場での ERM についての講義だったようです。

川畑さんにしても加藤さんの講義にしても、2 コマだけだと足りない感じは否めませんが、このような講義が国立大学の医学部で提供できること自体、画期的なことだと思います。6 年前の出会いがここでまたつながったことに感謝したいと思います。余談ですが、お互いアウトロー的人生を歩む加藤さんと玉田先生は話がかなり盛り上がっていたようです。

2 月の EMP4 は受講者のほとんどが再試験にかかり、大幅なスケジュールと参加者の変更がありました。結論から言うとすべて必要なことが起こったようですが、これも来年につなげたいとおもいます。

ENP について少し触れておきます。2008 年の麻生川さんにつづいて本学の看護学科生が PSU に 3 名派遣されました。前年に引き続き諸般の事情で今年も派遣が危ぶまれましたが、なんとか溝口さん、齋木さん、吉田さんを 9 月に PSU に送り込み 2 週間の実習を終えて帰国しました。しかしながら実習に対する単位互換が実現しなかったことは本当に残念でした。何度か看護学科に足を運びましたし学部長や教務委員長からも看護学科に対応を依頼しましたが間に合いませんでした。来年度は学生に対して「大学として正式な評価」ができるよう心底期待しています。最近では PSU からの看護学生・看護師受入れも始まって、今後ますます看護学科も交流が盛んになるでしょう。その意味で、常々看護学科・看護部との折衝や授業で汗を流している英語分野の南部さん、学務課の長友さん・坂井さん、看護学科の派遣の窓口である兵藤先生、看護部の日高部長、その他多くのみなさんに改めてお礼を申し上げます。

玉田先生もよく書いておられますが、やること増えるばかりで大変なのは実際そうです。とりわけ専門英語教育を謳う大学は全国あれども医学科・看護学科・病院看護部・事務部の全般にわたる英語教育を「実質的に」展開しているのは全国でも本当に数えるほどで、展開の規模から言うとひょっとすると本学医学部が唯一かもしれません。大変なことですがそれを様々な形でサポートしていただいている菅沼学長、池ノ上学部長、片岡教務委員長、事務部長、EMP に関わってくださる医学部教員、事務の皆さん、そして英語科スタッフとのよきご縁に感謝しながら、このプログラムを息長く続けていければと思います。

#### Poster Sessions:

For the first time, we had the 5th year EMP students create and carry out a poster session in the classroom. As you probably know, poster sessions are becoming an increasingly popular way of presenting one's research at international conferences. Unlike standard presentations, where the speaker is under pressure for a limited time in front of a large audience, poster sessions allow for a more visual presentation of research as well as the opportunity to discuss any or all of it with interested visitors.



Since students weren't initially familiar with the concept or format of a poster session I began with a demonstration using my own oversized Powerpoint slides but with an emphasis upon easy-to-read charts, pictures and visual connectors, many of which can be placed directly upon the poster sheet itself.

For successful posters there are several important considerations- all of which were imparted to the students. First, the flow and order must be clear. Second, it must be highly visual. Some text is necessary but not in too much detail. Details are to be explained when visitors attend the poster session and ask specific questions. Third, there should be some attraction techniques applied to capture viewers' interest- such as hidden Q&A's, highlighted information and such. Finally, the arrangements on the slide must be logical and not confuse viewers. Of course, the English too must be correct in all regards including formatting.

Our three preparation days went as follows:

Day 1- Introduction of idea of poster sessions.

- Sample poster

- Student research interest exchange Q&A

- Initial poster plan and design

Day 2- Sharing of basic posters with peers for suggestion and expansion

- English check and design suggestions from teacher

Day 3- Near-final poster version sharing with peers and teacher

- Discussion and explanation practice with peers (rehearsal)

Day 4- Final preparations for display

Actual poster session

On the 4th day, after students finalized their posters and placed them on the classroom walls, several teachers and professors visited, including Dr. Murata from UCI who also took several photos. 4th year EMP students also visited. Most visitors discussed the posters with the 5th year students in English in some detail, which gave the 5th year students a greater opportunity to ask questions and explain their research in more detail.

The 5th year students seemed proud of their work and satisfied with the learning experience that the poster session afforded. Not only was there a tangible product to their hard work but they also learned and carried out a viable professional skill, one that they are very likely to utilize in the future. It also gave them the opportunity to think in more detail about their research interests and thereby further their clinical understanding. Finally, in having to develop the posters and be able to explain or ask questions about them in English the students had to consciously upgrade their English skills. In combining English study with



clinical research and a 'presentation' format, we believe that an optimum learning opportunity for EMP students was achieved.

I am particularly proud that despite their otherwise heavy schedules the students were able to carry it out successfully, especially considering that they had only four days to prepare and complete the entire poster session. Well done, Kazunori, Takahiro, Ayano, Reiko, Masanao, Akane, Atsushi, and Chihiro! And I hope that Reiko Ishii and Fumiaki, who couldn't attend these sessions, will have a chance to do this in the future. And finally, thank you to all those who visited, supported, and engaged these students in discussion because it all helped to make these sessions very successful and satisfying.

In the first session students were required to list (in English) the names of the various departments at the University Hospital.

From this point students worked in pairs and were required to write a brief, general description of the primary function(s) of each department.

In the second session each pair chose one department of the hospital, and were required to a) identify and list common medical conditions dealt with by that department, and b) list and briefly describe various treatments offered by the department (including any special devices, machines, or technologies that might be employed.)

During the third session pairs finished writing up their work from the previous session and began preparing mini-presentations about their respective hospital departments. These presentations have to incorporate all the previous material they had worked on—a description of the department, the various types of medical conditions the department treats, and examples of various treatments offered for particular conditions.

In the fourth session students were given time to finish writing up their mini-presentations, and at the end of the session they presented their work to their teacher and classmates.

This was a smaller group than we had in the first-term (zenki) sessions. For these sessions they were much more focused and prepared to work. As a result, their performance in these classes was much better than in first term. They were active in class, asked a lot of questions, and worked well together. The quality of writing in their post-session reports was also much higher this time around.

St. Valentine's Day の翌日、2月15日の月曜から、2月20日の土曜までの1週間に渡って行われた医学科の4年生、5年生のEMP講座の終了をもって、2009年度後期の全てのEMPプログラムが終わりました。学外講師の方の招聘など、半年以上前から準備を進めてきましたが、全ての先生方が無事に帰国の途につかれ、まずは、ほっと胸をなでおろしています。



2月のEMPプログラムでは、国内外からMD (Medical Doctor) をお呼びしますので、様々な分野の先生と交流が持てる、学生にとってはこの上なく貴重な機会だと思います。今回、海外からは、タイ王国から2人、アメリカから1人、国内からは4人を招聘することができました。現在バンコクでお勤めの、小児科医の Metinee Maipang 先生は、今回2度目のEMP講師としての来日となりました。腫瘍医の Sakchai Ruangsinsin 先生は、英語科のゲスト先生がソクラ大学に視察に行かれた際に話をまとめてきてくださって来日が実現しましたが、Matinee 先生のかつての教え子だったそうです。全くの偶然でしたが、お二人とも久々の再会を喜んでいらっしゃいました。前回、Matinee 先生に来て頂いたときは、お1人で8コマ担当して頂くという多忙なスケジュールでした。そこで今回は、看護学科4年生の溝口春香さんと空港にお迎えに行き、EMPプログラムの前日の朝に宮崎入りされたのを機会に、青島神宮に足を延ばしてつかの間の観光を楽しんで頂きました。2月の半ばでしたが、春のような陽気に、ジャケットを手に持ちながらの海岸散策となりました。(日本では、それからしばらくして、チリの大地震による津波の影響があり、この青島も、波が押し寄せ、青島神宮に行った観光客が、一時島から戻れず、立ち往生したという話を聞きました。) その日の夜遅い時間、Sakchai 先生が空港に到着され、学務課の長友係長さん、坂井さんがお迎えに行ってくださいました。こうして今年も、後期2月のEMPがスタートをしたのです。

プログラム3日目に、カリフォルニア大学・アーバイン校の小児科のドクター、Penny Murata 先生が宮崎入りされました。今年度、第1号としてカリフォルニア大学に研修に行った成田健太郎さんから、「今後の留学関連で窓口となってくれそうな方です」とお話に聞いていた方でした。第2号の留学生として、今年、渡米予定の別所和典さんと篠原正尚さんにとっては、留学前に直接 Murata 先生から話を聞ける大変良い機会になったと思います。去年、留学手続きの事務が難航したこともありましたので、私自身も Murata 先生が来日してくださり、とても助かりました。これからキー・パーソンとなられる方ですので、この出会いを大切に信頼関係を築いていけたらと思っています。Murata 先生の来日にあたっては、池ノ上先生のご紹介で、大阪のベルランド総合病院の村田院長先生と、事務の満壽川様にも、事務連絡等で大変お世話になりました。

国内からお呼びした、千葉県こども病院の蓮見先生、札幌医科大学の夏目先生、京都桂病院で研修医として勤務している野溝さんも、EMP講師として授業をしてくださることに快く応じてくださいました。また、今回2度目の招聘となった赤十字医療センターの加藤安孝先生は、ハイチ地震の影響で、現地に赴く可能性が直前まであったという、ご多忙なスケジュールの中での来学となりました。再試験のために貴重な講義を聴ける機会を失ってしまった4年生は、惜しいことをしたと思います。再試験を望んで受ける学生さんはいないと思いますが、該当者がこれまでになく多かったこともあり、「再試験は絶対に受けないのがEMP受講の前提」と理解している5年生との意識の差を感じたことは否めません。今回のことで15名いた受講生が8名に減りましたが、結果的には良かったかもしれません。自らスタディ・グループを結成して、学期中にも週1回の英語のディスカッションに取り組んでいる学生さんもいましたし、英語のスピーキング能力も伸びています。残った8人はプログラム中も、真摯に取り組んでいましたし、これからに期待したいと思います。

EMP実施期間中には、産婦人科の先生方が、宮崎観光ホテルで歓迎会を主催してくださいました。「学生は無料です」というお心遣いも頂き、5年生のほとんどが参加することが出来ました。学生さんたちも、授業とはまた違った面持ちで、楽しそうに先生方と話を楽しんでいました。今回、再試験と重なった4年生が

誰も歓迎会に来ていなかったのが、少し気になりつつも、終始、和やかな雰囲気、楽しい時間を過ごすことができました。「食事」について、印象に残ったことがもう1つあります。1日だけ、Matinee先生、Sakchai先生、Murata先生を、お昼ご飯に宮崎大学附属病院の食堂にお連れしました。“宮崎で有名な食べ物”と知った3人の先生全員が「じゃあ、チキン南蛮！」とおっしゃったので、私の同じものを注文しました。灯台もと暗しというのでしょうか、宮崎大学附属病院の食堂の、「チキン南蛮定食」はとても美味しいのです。3人の先生も、大変喜ばれていました。去年も、ソククラ大学の先生を食堂にお連れしましたが、大変好評でした。病院の中に、家族や職員の方も一緒に食べられるカフェテリアがあること自体、珍しいそうです。珍しいと言えば、病院内の床屋、美容院にも驚いておられました。「宮崎大学に来ているのに、まだ、あまり大学内の施設を知らなかったから、見るのができて良かった」とおっしゃるMatinee先生は、お弁当にも興味津津のようでした。

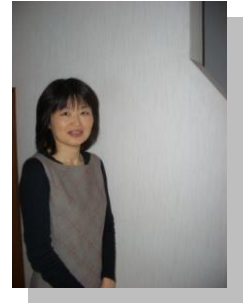
こうして今回も、無事にEMPを終えることができました。医学部長の池ノ上先生も、お忙しい時間の合間を縫って、5年生の授業を担当してくださいました。学務課や総務課の方々、英語事務の長友さんにもたくさん助けられました。このように考えますと、色々な方々に支えられてEMPのプログラムが実現することを、改めて実感します。

学期中のENPについても少し振り返りたいと思います。まず、看護学科の3年生は、実習スケジュールとの調整が必要であったため、かなり変則的にENPを実施しました。アンケートに書いてあったように、全員でENPウィークとして集中する時間を持てたのは良かったと思いますが、それに満足してしまうことがなく地道に学習を継続しているか否かで、留学先での充実度が大きく違ってくることは間違いのないでしょう。留学まであと数カ月ですが、自主的に計画を立てて勉強会を行うようです。私もなるべくバックアップをしていくつもりです。2年生については、数名はソククラ大学への留学という具体的な目標がありますが、そうでない学生さんは、「自分は何のためにENPを受講するのか」が明確でない限り、「受け身」の姿勢から抜け出せないと思います。この2月にソククラ大学から学生を受入れた2週間においては、ENPの学生さんが中心となって色々なイベントが動いたと聞いています。この経験がENP3につながる動機付けになったことを期待したいと思います。ENPの2、3年の授業では、今回初めて、看護学科の水畑喜代子先生が3年生を1回、長谷川珠代先生が2年生と3年生をそれぞれ1回ずつ、講師として授業を担当してくださいました。看護英語の授業を看護学科の教員が行うのは、とても理想的な形だと思いますし、学生にも大変好評でした。水畑先生、長谷川先生、ありがとうございました。来年度も、是非、お願い出来ればと思います。

看護部ENPは、5グループ編成で行われました。基礎クラスで学ばれていた看護師のほとんどの方が継続を希望されたため（看護部ENP発足後、継続組の設定は初めてです）、上級グループと、新規の2グループを加え、5グループとなりました。前期に引き続いて、永射紀子さん、浅賀智絵さん、そして、今回から、県立看護大学の白坂佳代さんにも講師の応援をお願いしました。後期は看護部の行事と重なることが多かったこともあり、特に師長さんクラスの方の出席率が芳しくなかったということがアンケートから明らかとなりました。来年度は、グループ数の増加を踏まえて、看護部の教育担当の久保副部長さんと連携しながら、スケジュールや計画等の見直しをしたいと思います。

事務局EMPも、1年目を終わりました。受講生の勤務部署がそれぞれ違うというのは、看護部ENPと共通する部分でもありましたし、試行錯誤しながらの1年間でした。2年目を控え、学習内容を明確化、具体化する必要性が見えてきました。来年度は、個人の希望により応えられるような形で実施できるようにするつもりです。

この度、付属病院看護部の英語クラス (Basic 継続コース) を担当させていただきました。初めての ENP 参加のため、受講する方が現在どのような英語を使い、何を目的として参加されているのか、講義でお会いするまではよくわからない状態でした。



このクラスの看護師の皆さんは、前期に Basic コースを修了しその後も更に継続して学びたいという方たちでした。数回お会いすると、「このコースで自分の所属部の説明をできるようになりたい」、「日本語を話せない患者さんとの意思疎通ができるようになりたい」という意欲が強く伝わってきました。講義の第1回目～3回目は、テキストを中心に語彙補強やロールプレイを行いました。また、どの状況でも文が作れるよう、文法を取り入れました。文法は基本的には宿題とし、講義内では不明点の確認のみとしました。このような講義を重ねるうちに、このクラスの看護師の皆さん (7名) は全員の所属が異なり、立場も異なること、つまり必然的に使う英語の語彙や表現が異なるということがわかってきました。そこで、使用していたテキストから離れ、看護師の皆さんが英語で説明したいこと、会話したいことを思いきり表現し挑戦できる場を設けることとしました。

こうして始まったのが「Hospital Tour」です。講義の第4回目～9回目に取り入れました。始めの約30分で文法と前回の復習をし、残りの時間を Hospital Tour として全員で病院へ出向いたのです。私を英語しか言葉の通じない海外からの訪問者と設定し、病棟内で実物を用いながら英語で案内をしてもらいました。主な内容は医療機器の説明、手術室、内科、産婦人科の案内、病院玄関での受付・会計の説明でした。看護師の皆さんは、事前に施設使用の許可を取り、先ず日本語で何を説明したいのかを考え、英語で案内するという流れで臨まれたので、準備には時間がかかったことと思われます。

5回の Hospital Tour を続ける中で、次第にどんなところを難しく感じているのかが見えてきました。講義を始める前は、医学や看護に関する専門的な用語が難しいのではないかと考えていたのですが、看護師の皆さんは用語への関心が高く、また用語によっては薬品名や器具名とリンクさせて覚えられるものもあったので、特に苦労している様子はありませんでした。それよりも動詞の使い方、前置詞、会話のつなぎ方で悩んでいるようでした。Hospital Tour でうまくいかなかった箇所についてはメモに残し、翌週の講義で復習を行いました。

最後の講義の日には、身体検査、採血、手術前の指示、注射など患者さんへの指示を英語でロールプレイしてもらいました。既成のテキストを暗記して演じるのではなく、このクラスの看護師の方たちにとって必要な指示や説明を英語で作成しました。その自分たちの文章を使ってロールプレイをしたのですが、演じているうちに、患者さんを落ち着かせ、安心させることのできる言葉かけも英語で言えるようにしたい、という新たな目標も出てきました。

このクラスの看護師の方々は積極的に参加し、英語が必要な状況を自分で考え、英文を作成し説明を試みました。今後も、いつでも英語で対応できるよう継続して積極的に英語に触れてくださることを期待しております。

III 活動報告

EMP 日程表 医学科4・5年生

EMP'09年度 Februaryスケジュール				
Feb 15 (Mon)	8:40~10:10	10:30~12:00	13:00~14:30	14:50~16:20
M5				
M4			Kato (Red Cross)	Kato (Red Cross)
Feb 16 (Tue)	8:40~10:10	10:30~12:00	13:00~14:30	14:50~16:20
M5	Guest	Dr. Hasumi		Dr. Ikenoue
M4	( C	B	T	試験 )
Feb 17 (Wed)	8:40~10:10	10:30~12:00	13:00~14:30	14:50~16:20
M5	Dr.Matinee	Dr.Matinee	Dr. Sakchai (Dr. Natsume 地域医療)	Guest
M4				
Feb 18 (Thur)	8:40~10:10	10:30~12:00	13:00~14:30	14:50~16:20
M5	Dr.Sakchai	Dr.Natsume	Guest	Tamada
M4	Dr.Matinee	Dr.Sakchai	Dr.Murata	White
Feb 19 (Fri)	8:40~10:10	10:30~12:00	13:00~14:30	14:50~16:20
M5	Dr.Murata	Dr.Murata	Tamada	Guest
M4	Dr.Nomizo	White (再試験日)	Dr.Murata	White (再試験日)
Feb 20 (Sat)	8:40~10:10	10:30~12:00	13:00~14:30	14:50~16:20
M5	Dr.Nomizo	Tamada		
M4	White	Yokoyama White Nambu	Yokoyama White Nambu	



## EMP5 授業報告

16-Feb-10- (1st)



Akane SUGINO

We made rough power point slides before the first class. First we checked them by ourselves and after that we checked each others.

16-Feb-10- (2nd)

Subject: Pediatric physical assessment

Objective: To be familiar with PALS (pediatric advanced life support)

Content:

1. PALS is a standardized approach to pediatric physical assessment and management, probably the most standard and widely accepted in the world.

2. PALS is compose of the following 4 steps

①general assessment②primary assessment③secondary assessment

④tertiary assessment

3. General assessment means to judge how ill he is by rapid check. The followings below are check points for general assessment.

Appearance: Standing? Squatting down? Laying down? Smiling? Crying? etc.

Work of Breathing: Tachpynea? Retractions? Wheezing? etc.

Circulation: Pale? Bleeding? Extremities? etc.



Fumiaki IKAWA

If you judge his or she condition is life-threatening, you must start life-saving interventions. If not, go to the next assessment (primary assessment).

4. Primary assessment means to judge briefly what his problem is, using ABCED.

A: Airway B: Breathing C: Circulation D: Disability E: Exposure

5. Secondary assessment is composed of SAMPLE history and focused physical exam including bedside quick glucose test.

S: Signs and symptoms A: Allergies M: medications P: Past medical history

L: Last meal E: Events leading to presentation

6. Tertialy assessment includes various examinations for diagnose. For examples, CBC, X-ray, Ultrasonography, CT scan etc.

7. Through these steps, you should categorize his or her illness and start the suitable treatment without delay.

16-Feb-10- (4th)

Subject: ER (TV drama)

Object: to be familiar with the gynecological diseases, the symptoms, and pitfalls in the case of consulting pregnant women

Content:

Fumiaki IKAWA

1. When a pregnant woman presents proteinuria, you have to think of pregnancy induced hypertension (PIH). Dr. Green misdiagnosed it as just a cystitis.
2. Epigastric pain sometimes precedes eclampsia, seizure mainly due to PIH.  
So it can be a clue for diagnosis.
3. Eclampsia can lead to ischemia of the infant through apnea of the mother.  
So you have to administer magnesium sulfate and, if possible, you should think of the labor.
4. As a doctor, you have to be able to read FHR monitoring.

17-Feb-10- (1st)



Kazunori BESSHO

Dr. Matinee showed us the importance of history taking. She said that good history taking can lead us to the right diagnosis 70-80% of the time, and we can add 10-15% to this with a good physical examination. She insisted that we should pay much more attention to history taking. After that, she showed us some patient profiles, and we practiced history taking as if she were the patient. During discussions, we happen to find out about routine vaccination schedules in Thailand. They are quite different from those in Japan. We were surprised that even small children have to be immunized for hepatitis

B in Thailand. (We immunized for hepatitis B just before clinical practice, one year ago.) Of course, we have to know about routine vaccination schedules in Japan, but we also have to know about foreign schedules of vaccination for places that we study in.

17-Feb-10- (2nd)

Kazunori BESSHO

Miss Higashimura and Miss Ishii did a presentation for us and Dr. Matinee. The theme of the presentation was "Medication errors and adverse drug events in pediatric inpatients", which was based on a paper Dr. Matinee gave us beforehand. We all read the paper beforehand, which was about trials to decrease medical errors in pediatric inpatients. When giving drugs to children, physicians have to calculate the amount of drug by their weight. This can be a cause of medication errors. There are two main prevention strategies. One strategy is a computerized drug ordering system. (Miyazaki University hospital has already introduced this) The other prevention strategy is to have a ward-based clinical pharmacist on-staff. He/She checks all the medications which physicians prescribe, helping to reduce errors. In fact, there are some clinical pharmacists in PSU hospital, and they find hundreds of errors in every month, Dr. Matinee told us. We were very surprised at the effectiveness of having a ward-based clinical pharmacist. The biggest problem is the labor cost, Dr. Matinee said.

17-Feb-10- (3rd)

Chihiro Higashimura

Dr. Sakchai

He presents us with a case of a gastrointestinal bleeding in this class. First, one student volunteered as a patient. We asked him some questions in order to make a diagnosis. As the next step, we discussed the physical examination and investigations. Lastly, Dr. Sakchai told us the connections of all the findings.



18-Feb-10- (1st)

Dr. Sakchai

We had another case study in this class. The case was about breast mass. We discussed the diagnosis, physical examination and investigations. Then Dr. Sakchai told us about the stages of breast cancer by TNM

classification and the treatment.

His lectures were more clinical and practical than I had learned before. I became more interested in thinking about differential diagnosis. Thank you for giving us this chance to take his lectures

18-Feb-10- (3rd-4th)

Akane SUGINO

Mr. Guest corrected the English on our slides while we practiced describing our topics to each other. After that we made final versions of our posters.

19-Feb-10- (1st)

Reiko NAGOSHI

Dr. Murata showed us how to use PubMed. PubMed is a database of publications in life sciences and biomedical information. It is freely accessible to everyone on the internet. Students can also use this tool during bed side learning to write reports.

Let's say you want to compare the examinations of a patient suffering with myocarditis. The recommended examinations will be electrocardiogram and echocardiogram (ECG). You begin by typing in relevant keywords. In this case, you'd type "myocarditis AND electrocardiogram AND ECG". This yields 93 results. However, you still need to look at the "Search details" box on the right side. In this box, it shows you the MeSH terms of each key word you typed in. MeSH stands for 'Medical Subject Headings' and you will be able to come up with even more results if you use this. In this case, you should type 'echocardiography' instead of 'echocardiogram', and 'electrocardiography' instead of 'ECG'.

The results for "myocarditis AND echocardiography AND electrocardiography" came to 315. You can either start looking at all the results, or you can narrow down the results using two tools. One tool is 'limits'. You can see this in the upper right side of the search box. There you can narrow down your search with the details of particular patients, types of article, etc. For example, if you limit the search to "clinical searches, English, Humans", the results will be 7. The second tool is 'Clinical queries'. You can find this page from the PubMed top page. On this page, you can narrow down the search results by 'Category' and 'Scope'. In this case, you want to search the diagnosis of the patient, so you check the 'diagnosis' button. And since you want to narrow down the results, you check the 'narrow, specific search' button. However, this search result was 0. In this case you need to broaden the search by removing some key words or changing the conditions.

Since there are huge numbers of papers published every single day, it is impossible to keep track of every paper. Using PubMed's database effectively is an essential skill for doctors.

19-Feb-10- (2nd)

Masanao SHINOHARA

This was the second lecture from Dr. Penny Murata.

Dr. Murata taught us about bedside manner and how to take history based on the OSCE. She emphasized that when doctors communicate to the patients, the "5Es" are very important. These are:

1. Engage
2. Empathize
3. Educate
4. Enlist
5. Expect



These ideas are the basis of communicative skill. The 5E's help us to create a good relationship between

doctors and patients. The 5E's are very useful not only medical in interviews but also in daily conversations.

When taking the history of adolescents, the HEADDSS Model questions are very important. These are:

H: home / health

E: education / employment

A: activity

D: drugs (smoking, alcohol)

D: depression

S: sexual activity

S: suicide

These questions are very confidential but we can not diagnose without asking for this information.

Dr. Murata showed us examples of UCI OSCE students. The OSCE program in the US is very different from the OSCE program in Japan. These ideas were new for us and because of that we enjoyed her sessions.

19-Feb-10- (4th) (the day of poster session)

Akane SUGINO

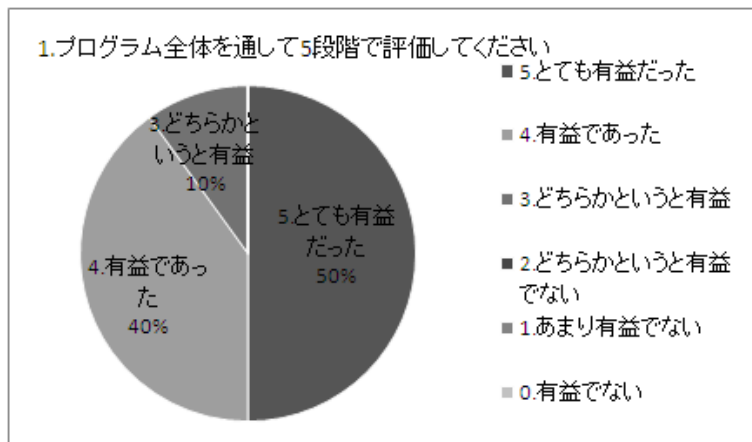
Dr. Murata, Dr. Nomizo, Mr. White, Mr. Yokoyama and 4th year EMP participants came to the poster session.

We didn't have a lot of time to prepare for the poster session, and we have never had an opportunity to do this before, but we enjoyed it a lot. I think poster sessions are more enjoyable than oral presentations for a big audience because we can directly communicate with visitors. We can immediately see what visitors understand and what they don't understand. During the session, I noticed that more people visited posters containing a variety of illustrations. Clearly illustrations not only help us understand things more easily but are also attractive for us. This experience will be of benefit to me in the future.



## EMP5 2009 後期アンケート

### 1. プログラム全体を通して5段階で評価してください。



5.とても有益だった	5
4.有益であった	4
3.どちらかというとして有益	1
2.どちらかというとして有益でない	0
1.あまり有益でない	0
0.有益でない	0

### 2. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ポスターセッションは英語での発表の仕方などを学ぶことができとても良かった。
- ・ソクラのドクターが実際に来て授業をしてくださった点。ソクラで学生に教えていることをしてくれましたので、有意義であった。
- ・ポスターセッションは将来のプレゼンテーションにもつながるし、勉強になったので今後も続けてほしいです。
- ・勉強する何よりのモチベーションになった。いろいろな方に出会えた。
- ・ただ講義を聴くだけではなく双方向で対話形式の授業が多かったこと。
- ・蓮見先生の授業は、救急の初期治療の知識を復習・固めるのにぴったりでした。
- ・再ポリクリのため、すべてのプログラムに参加できていないので何とも言えないが、自分が出ていた範囲内ではどの授業もためになるものだったと思う。自分は除くが、みんなよく勉強していたようだったのも良かったのではないかなと思う。
- ・論文検索について今まできちんと教えてもらったことがなかったので、Dr.Murata の PubMed の使い方の講義が最も良かったと思います。
- ・Dr. Murata の Pubmed についての講義が最も印象に残りました。これから何度となく使うことになる Pubmed を上手く使えるようになれば、英語の授業としても内容の面からとても実用的で良かったです。
- ・EMP 5 だからなのか、去年よりも症例の鑑別を挙げさせたり病態について考える授業が多く、英語のみならず医学の勉強にも直結した。また PubMed の使い方の授業も非常に有益だった。EMP 前と後でステップアップできた気がする。

### 3. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・日程が詰まりすぎだし、予定変更とかあつてきつかったです。
- ・最終的な選考基準を明確にした方がいいかなと思います。
- ・夏目先生の授業自体は面白かったが、あくまでEMPなので英語で話して欲しかった。
- ・学生同士英語でディスカッションする時間もあってもよかったな、と思いました。
- ・今回授業中は英文を話す時間が短かったの。 (welcome party ではたくさん話せてよかったです)
- ・相互の連絡がうまくいっていなかったからなのか、直前に多くの課題が出たため、EMP 期間中かなりの負担になった。次の日の準備に追われその日の復習をする時間が無かった。連絡係の負担も大きいと思うので、重要な事は F c で全員に伝えて詳しい事は連絡係に聞く、などとした方がいいと思う。

### 4. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？



- ・ この時期しかないので良いと思う。
- ・ 内容が濃いのもっと長くても良いと思います。
- ・ いろいろな先生の講義が聞けたのでよかったと思う。
- ・ 最終的に臨床講義と被らないように組んでもらっていたので、良かったと思う。
- ・ 最も適当。
- ・ 適切な時期だったと思います。
- ・ 適切だと思います。
- ・ 今回の実施時期は補講、再試験などとの兼ね合いがあり、難しいところだったと思います。
- ・ 一週間でちょうど良いと思う。

## 5. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。

### (ア) 中期的目標

- ・ 今回途中からであるが、参加できたので、これを契機に英語を勉強し続けていきたいと思う。英語の討論ができるようになる
- ・ とにかく積極的に英語を話す。英語を話す時は話す内容をある程度組み立ててから話しだすよう心がける。
- ・ 医学英単語を習得すること
- ・ 行くと決まっている科の医学用語はしっかり覚えようと思います。
- ・ 4月にPSUへ行くので3月中に実習する科の勉強と英単語の暗記と発音の確認をしておこうと思います。
- ・ アーバインで充実した実習ができるように、6月までに可能な限り多くの医学的知識と英語力をつける。  
具体的には、内科、産科、小児科の教科書と国家試験用問題集を最低2周と英語は医学英語の単語集をあと2周は繰り返すとともに、スピーキングはアウトプットの訓練を重ねる。

### (イ) 長期的目標

- ・ 将来的に海外での研究や臨床には興味があったので、それを目指していきたい。英語が日常会話、医療現場で困らない程度で話することができる
- ・ いろんな知人を利用して英語でメールや電話などで英語に慣れていこうと思います。
- ・ クリクラでも英語論文を定期的に読む。
- ・ タイに行った時、先生方の言っている内容をしっかり理解して、質問などができるようになりたい。タイの学生とある程度コミュニケーションがとれるようになりたい。
- ・ EMPを通して学んだことや人とのつながりを大切にしていこうと、国試に受かることです。

### (ウ) その他

- ・ 医学英語をしっかりと身につけていきたい。
- ・ このまま突き進みます。医学英語の総復習中です。
- ・ 去年のEMPに比べ、英語に対する不安はかなりなくなった。これからは英語を仕事に生かすことができればいいと思う。

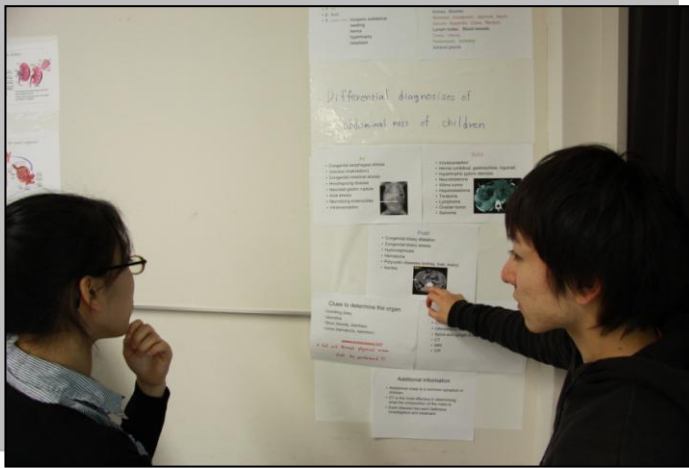
## 6. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。

- ・ とてもハードな一週間であったが、充実していて自分のためになった一週間だったと思う。
- ・ 今回、授業がとても楽しかった。今までEMPの授業のことを、義務のように受けなければいけないもの、と思っていたが、今回は受けたいから行く、という感じだった。
- ・ 自分の英語力がある程度ないと授業も楽しめないし、やっと自分の英語力が授業に追いついたから、今回楽しめたのではないかなと思う。ありがとうございました。
- ・ 4年生までにwritingの授業も組み込むと、より英語力アップにつながると思います。
- ・ 今回も、おもしろい講義がたくさんあり、本当に充実していました。
- ・ 英語科の先生方、南部さんありがとうございました。



- ・ あっという間にEMP 5も終わってしまいました。今回もまた様々なバックグラウンドを持つ先生方の授業を受けることができ、英語はもちろんのこと、
- ・ それにとどまらない多くのことを学ぶことができました。本当にありがとうございました。

~ EMP 5 : Poster Session ~



## EMP4 授業報告

15-Feb-10(Mon)



Takayuki Suzuki

Today, we took a class from Mr. Kato. He works for Red Cross and he told us about its activities. In the 1st. term, at first, he told us how Red Class unit react when disaster or incident occurs in brief. After that, we had a group work. The subject he gave us was “where should we put base of basic healthcare ERV(emergency response unit) in the site of disaster” he handed us the map of the site, there was refugee camp, police, hospital, and more facilities were placed in the map. We talked each other and made a decision.

In the 2nd.term he told us about the refugee camp. He told us how is the life like in the refugee camp and what kind of facilities are there . At the end of the class we did the group work again. This time, the subject was where we should we place various facilities(such as school ,police station, garden, market, and more) in the refugee camp.

It was precious experience for us taking his class. His job seemed very exciting for me. I become interested in working as Doctor in Red Cross.

17-Feb-10- (1st)

Dr. Matinee's Class

Before the class began we asked Dr. Matinee some questions. There were three main points to the class itself: differences in consultation and treatment for children and adults, emergency medicine in pediatrics, and how to establish a trusting relationship with children and their families.

Dr. Matinee used a PowerPoint presentation to show us some differences in treating children and adults. The biggest difference is that children often don't or can't explain their chief complaint to doctors. They can only cry or remain still from fatigue. This means that doctors have to carefully ask questions of the family. They need to find out if there is anything wrong or unusual when compared to their regular routine. Children over 4 years old can tell doctors about some simple symptoms. It's also important to observe how the parents attend to their children in the consulting room. If the mother doesn't try to carry the baby in her arms or doesn't have maintain close physical contact during the clinical examination, the child's family life may need to be looked at.



Maroka Hosoya

A medical interview is a significant thing, so it's important for doctors to ask appropriate questions about patients' symptoms. For example, if they have reason to believe a congenital disease is the cause of the problem, they have to take the family history. They should not ask meaningless questions because the time for consulting with patients is limited. Doctors should also find out about things like immunization, family environment, milestones, etc. If a child's development is lagging behind standard milestones, doctors have to take note of this.

Finally, we learned a very useful technique. I was very impressed. It can be difficult to check the inside of a child's mouth. To get children to cooperate, we can say, “open your mouth s you can eat me!”

18-Feb-10- (2nd)



Today we learned about breast mass.

If we examine a patient who has a breast mass, there are several differential diagnoses, such as a benign breast cancer, malignant breast cancer, fibroadenoma, and inflammation.

Dr.Sakchai also showed us the steps to treat these conditions.

First we take a patient's history. For example, we ask her the location and properties of the breast mass. Then we give her a physical examination. Thirdly we check her breast mass with Mammography and Ultra sound. If we find a spicule and/or microcalcifications in the images , it means that this is a malignant cancer. Fourth, we do a biopsy. A biopsy involves cutting the tissue of the breast mass with needles or surgery and checking its status. After all this we determine the best course of action. Treatments include surgery, radiotherapy, chemotherapy and hormone therapy.

### 18-Feb-10- (3rd)

Today, we learned about EBM (evidence based medicine) in Dr. Murata's class. I have heard about this before, but I didn't understand it clearly. Today, we were able to grasp the meaning of EBM, and I think if we begin using this system, it will be very useful for clinical diagnosis and treatment.

EBM is a process that leads to a satisfactory conclusion to a problem by using evidence. To search for evidence, we can use "Pub Med", an internet site. When we employ EBM, we first plan PECO (Patient Exposure Control Outcome). PECO shows us for a particular type of patient what kind of intervention we should do, and what kinds of outcome we can expect compared with other controls.

Here is one example:

P: 30-year male suffering from CML (chronic myelogenous leukemia).

E: use Drug-Glivec (Imatinib) as treatment.

C: use Drug-Interferone + Ara-C.

O: Glivec is more effective than Interferone + Ara-C.

After planning PECO, we should check if it holds good or not with Pub Med. Pub Med has a lot of studies, theses, etc. From these studies, we can choose reliable articles.

Problems can be categorized. The categories are clinical findings, etiology, differential diagnosis, prognosis, therapy, prevention, and cost-effectiveness. If we can categorize problems, it's easier to achieve an outcome.

EBM and Pub Med are not easy to use, but they are very useful in clinical situations. We should acquire knowledge of EBM.



### 18-Feb-10- (4th)

In this class we learned several ways to briefly explain the activities and functions of the various hospital departments. Working in small groups we wrote down the names of the hospital departments in English. Then we were asked to give a brief description of each department's primary function(s), and then we shared our ideas with other students.

There are many ways to express things in English, but it is important to choose the correct vocabulary and grammar according to the situation. I found it difficult to explain things in correct English.



### 19-Feb-10- (1st)

**Ayato OGATA**



Dr. Nomizo is a graduate of our university, so this class was conducted in a very good atmosphere. We began by introducing ourselves, and then Dr. Nomizo told us about her experiences with EMP and exchange with PSU. After this the main part of the class started.

In this class, she told us about some basic English terms that are used in clinical examination. We had clinical examination practical training just 2 months ago, so we were able to understand those terms. Dr. Nomizo asked us many questions, and we asked many questions of her, so the class was very active. Besides medical terms, she showed us a medical device used for checking the concentration of oxygen in human blood, and she showed us how to use it.

Her class seemed like clinical examination training in English, so we enjoyed both the English and medical content very much. I hope we can have this kind of meaningful class often, and I hope future members of EMP will also come back to give a class to their juniors.

### 19-Feb-10- (2nd)

**Ritsuko Kaga**

Mr. White,

During the previous class, we listed the major departments/sections at the hospital and wrote one sentence about each of them, describing in very general terms their primary function.

Today we chose one of departments from our list and made lists the common medical conditions for which people come to this department for diagnosis/treatment. We picked ophthalmology: cataract, glaucoma, allergy and retinal detachment.

Then we wrote sentences about various treatments offered by the department and for what conditions. (e.g. surgery, drugs, glasses, etc.)

Finally, we made sentences to give a brief presentation about the department for our classmates. For example, ophthalmology handles the diagnosis and treatment of eye conditions. Some of more common conditions we treat include cataracts and allergies. Some more unusual conditions are glaucoma and retinal detachment. Cataracts cause cloudy lenses and visual impairment. We perform surgery to recover eye sight. Patients with allergies have inflammation, itch and watery eyes. For these symptoms, we prescribe anti-allergy drugs such as TXA2. The symptoms of glaucoma are hypertension of the eyes, visual impairment and narrowing of the visual field. To remove these symptoms, we prescribe drugs such as  $\beta$ -blockers, and we perform surgery in emergency cases. Retinal detachment needs surgery.

Other group members picked psychiatry and urology.

### 19-Feb-10- (3rd)

**Hozumi KAWAGOE**

Today we learned how to communicate with children and their parents from Dr. Murata. To communicate with them, 5E and HEADDSS are important. The 5 E's are Engage, Empathy, Educate, Enlist, and Extend. We engage with patients at the beginning of taking a history in order to remove patients' tension. We can tell children, for example, "you are very cute." Or give compliments like "your watch is nice." With empathy we show patients that we care about their problems. We educate patients by giving them useful information and advice. We enlist patients when, for example, we ask them to categorize their wishes. For example, we might ask a patient "how do you stop smoking? If you want to stop smoking, choose level 10. But if you don't want to stop smoking, choose level 0. Which level do you think will stop your smoking?" Extend refers to offering



treatments.

HEADDSS is Home, Education, Activities, Diet, Drug/alcohol/tobacco, Sex/abuse, and Suicide/depression. These are very useful to keep in mind when asking about a child's life style problems. When we ask a child about their problems, he/she may not want to answer honestly in front of his/her parents. So, to open a child's heart, it's better to ask the parents to leave the room.

In this session, we practiced these skills. It was very difficult, so we need to keep practicing.

#### 19-Feb-10- (4th)

**Ryo YAMASHITA**



Topic: Poster presentation

The 5thgrade students gave poster presentations. The topic included, HIV, gout, and analysis of DNA. We 4<sup>th</sup> grade students along with some teachers, went around to see each student's poster; we asked questions about the poster. The posters were easy to understand and allowed us to review knowledge that we had learned in medical class. Next year, it will be our turn to make poster presentations and show them to current 3<sup>rd</sup> grade EMP students. We look forward to presenting our research to students next year.

#### 20-Feb-10- (1st)

**Kinuko Yamamoto**

Mr. White,

This was our final EMP4 class. We worked in groups of three, and each group gave a mini-presentation on the hospital department they had chosen. The presentations were brief, and we used material that we had discussed and learned about in the previous classes. The departments we chose were Ophthalmology, Urology, and Psychiatry.



#### 20-Feb-10- (2nd-3rd)

**Maroka Hosoya**

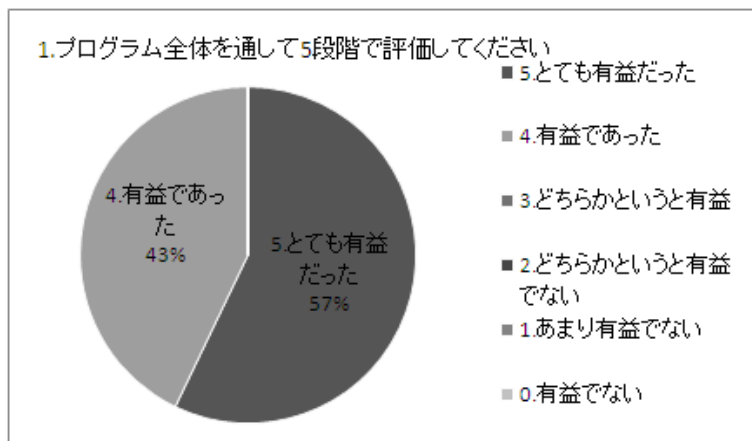
The Last day of the EMP session, we did interviews in English. Mr. Yokoyama, Mr. White and Ms. Nambu interviewed each of us. We were informed in advance about the main questions we would be asked, as well as the schedule of the interviews. One at a time we visited each teacher's office and had 10-minute interviews. Besides the main interview questions we also were asked about other things. The interviews were held in a peaceful atmosphere so we could express ourselves without being too nervous.





## EMP4 2009 後期アンケート

### 7. プログラム全体を通して5段階で評価してください。



5.とても有益だった	4
4.有益であった	3
3.どちらかという有益	0
2.どちらかという有益でない	0
1.あまり有益でない	0
0.有益でない	0

### 8. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 普段関わることのできない先生方の貴重なお話を聞いたり、実際に医者として働いている方々と英語を使って話す機会をもてたことがとても良かったです。
- ・ 英語のみならず医学の勉強ももっとしていかなければいけないと思ったことです。
- ・ 普段受けている講義と違い、自分たちが自発的に意見を出しやすい環境でした。
- ・ 4月からポリクリが始まるこの時期に実際に臨床をしてらっしゃる先生に講義していただく意義は大きいと思いました。
- ・ 後期の EMP のクラスはどれも良かったと思います。理由は EMP メンバーの数が減り、グループワークをするにはちょうどいい人数になったからです。みんなやる気が有る人ばかりなので授業も活気がありましたし、みんなでやっという団結感もあってよかったと老います。
- ・ 最も良かった点は、少人数でできたことです。また、毎日セッションがあったので、英語がどんどん楽しくなりました。先生たちの期待には答えられませんが、次のセッションに生かすために、とてもいい機会になったと思います。また、医学における内容を授業してもらったので、今までの復習や、新たな知識を得るのにいい機会でした。
- ・ ほとんど丸一日英語漬けであったので力にもなったと思うし自信もついた。今回のように集中的に授業がつまっているのは大変だが良いのではないかと思います。

### 9. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 今回 EMP の授業に出席できない学生は辞めてもらいましたが、これと公募制度が共存することには疑問を感じました。
- ・ 面接でも述べましたが、もっといろいろな科の先生をお招きしてほしいです。
- ・ 仕方がないのだという事は分かっていますが、産科や小児科の先生ばかりだったのが多少気になります。(前期にあったサイモントン療法の川畑先生のように MD じゃなくても医療に関係するような講師と言うのもいいと思いました。)
- ・ これは前期だけの話ですが、先生を呼んで授業をしてもらうのは刺激になっていいと思いますが、学生のレベルがあまり追いついてない状態でやっても消化不良かなという授業が多かったような気がします。学生のレベルを上げろという話になるとは思いますが、そんなに簡単にレベルアップはできないと思うので、最初はまだもう少し英語になれてとにかく使うような授業を入れるといいかなと思いました。
- ・ とくに思い浮かびません。強いて言うならば、1年生のときから授業があれば、もっと楽しめたと思います。
- ・ 小児、産婦以外を専門にする講師も来てくれたらよいと思う。

### 10. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？

- ・ 再試験を受けることになり、この日のために宮崎大学に来てくださった先生方や、準備をしてくださった先生方に迷惑をかけてしまったので、申し訳なく思っています。
- ・ 3月の最終週などに日程をずらしていただければ、EMPで勉強したい学生が多く参加できるのではないかと思います。
- ・ 再試験と重なってしまった点を考えると、ちょっと厳しい部分がありました。
- ・ 1週間集中的に講義を入れるやり方はいいと思います。他に行事（CBT等）がない時期にできればベターだと思います。
- ・ 後期の授業日程が厳しかったです。
- ・ 再試験期間を自覚していなかった私たちが悪いのですが、再試験期間を避けてもらえれば、ありがたいです。
- ・ 再試験期間中にあるのは少しきつかった。

#### 11. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。

- ・ 医学英語の記憶が不十分なので、勉強を継続すること。わからないことがあっても、もっと積極的に質問したり、発言したりできるようにすること。そのためにも、スピーキング力をしっかりつけること。TOEFLの勉強をすること。
- ・ 単語、特に医学英単語を覚えることと、NHK ビジネス英会話を聴いて、もっと話せるようになることが目標です。
- ・ 海外の医療情報を得ることや、海外の医師との交流ができるようになりたいです。
- ・ 医療英語のおさらい。（横山先生お勧めの）NHK ラジオのビジネス英語を始める。USMLEの勉強。
- ・ 去年一年で英語を話す環境づくりをしてきたので、今年はそれを駆使して英語の語彙をとにかく増やすことに集中したいです。単語数と、スムーズな言い回しができるように毎日英語を聞いて話して頑張りたいです。TOEICが750点くらい取れるようになるといいかなと思います。今年は夏にアフリカに短期の臨床留学にも行くのでそこで英語と知識を得て、EMPのみんなに還元できるようにしたいと思っています。
- ・ 医学知識の確立と、英語レベルの向上を目標とします。医学知識は、5年生時に、ポリクリでしっかり臨床について学んでいきたいと思いました。今回、自分の足りないところを確認するいい機会になったので、反省して前向きに頑張ります。英語に関しては、医学英語を中心に、先生たちから紹介してもらった学習法を利用したいと思います。
- ・ 海外の現場で医療活動をする際に不自由のないようになりたい。今回の加藤先生の授業で赤十字の医師の活動について学んだが、紛争や災害時に現地にいった医療行為を行う活動にもすごく興味がわいた。

#### 12. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。

- ・ 今回は、私たちの都合で、先生方にご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。
- ・ 今後がんばっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。
- ・ 今回、4年の再試やCBTのために、EMP授業が差し迫った時期にも関わらず、大幅な変更をしていただきありがとうございました。
- ・ 特にありません
- ・ 回答なし
- ・ 特にありません。
- ・ やればやるほどできるようになり、できるようになればなるほど楽しくなる授業だと思うので、これからも自分なりに工夫してやっていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ これからもよろしくお願いします

## EMP 授業見学の感想

\* 今回、池ノ上教授のセッションに、1年生が3人見学に来ました。以下は学生から送られてきた感想文です。

### 医学科1年 峰間博子

5年生向けの EMP ということで、求められる英語のレベルや授業の雰囲気なども全くわからない状態で聴講させていただいたが、これから医学を学ぶのが楽しみになるような、充実した90分間だった。日ごろからアメリカの医療ドラマは見るようにしていたが、実際に産科医である池ノ上先生が解説をしてくださったことで、「実践の医療」を、「英語で」学んでいるという充実感があつた。また、ご自身の若い頃のアメリカでの留学経験を語ってくださったことで、のんびりとした宮崎での毎日とは違う世界を身近に感じられ、英語を学び続けたい、というモチベーションが上がった。普段の授業では得られない体験だった。

聴講を許可してくださった先生方、本当にありがとうございました。

### 医学科1年 成田秀文

今回は玉田先生の厚意により、五年生の EMP の授業を受けさせて頂きました。授業の内容は、ER の Dr.Green さんが医療ミスをしてしまうシーンを見て、Dr.Green さんがなぜ誤診に至ったかを考えるというものでした。この授業を受けて、次の二つの点が特に印象に残りました。一つ目は、医学の面白さです。今回の授業では、どういった症状から子癇だと判断できるのか、どのデータから胎盤の早期剥離が読み取れるかといったことを解説して頂きました。医学の授業を受けたのはこれが初めてだったこともあり、非常に興味深く感じられました。二つ目は、EMP の授業の様子です。EMP の授業は全て英語で行われており、授業では、教授が学生に疑問を投げかけ、学生がそれに答えるという時間が多く取られていました。EMP の授業では、英語で自分の意見を的確に表現し、相手に伝えるということに重点が置かれているのだと感じました。五年生の先輩方が積極的に質問されていたのも印象的でした。今回の授業を通して、医学や英語の学習に対する意欲が湧くと同時に、EMP の授業に大変魅力を感じました。今後は、EMP の受講などを通して医学知識や英語力を一層強化していきたいと思います。

### 医学科1年 力武雄幹

今回五年生向けの EMP に御厚意で参加させて頂いたが、90分があつという間と感じられるほど中身が詰まっております。得る物が多かった様に思う。

テーマは ER の緊急出産のシーンで、それを産科の最前線を走る池ノ上先生に解説して頂きながら見た。初めの胃痛は何のサイン？感染症のためだと診断した蛋白尿は果たして本当にそのため？一瞬映った胎児モニターは何を示唆しているんだろう？主人公は何に気がつくべきだった？

まるで推理小説を読んでいるかのような感覚だった。すべての出来事、患者さんからのサインには必ず理由があり有機的に繋がっている。そしてそれを一つ一つ解きほぐしながら本質へと近づいてゆく。外の気温さえ病状に影響してくるのだ。ER は全体の半分ほど見たがそこまで緻密に出来ているとは思わず驚いた。内容は刺激的で興味を十分にひくものだったのだ。

英語に関して述べると、聞く分にはさほど困らなかったと思う。というのも難解な語句は詳説して頂けたため、理解できずに考えがそこで止まってしまうと言うことがなかったからだ。馴れれば、辞書を引きながらではあるが、内容を楽しむことに終始できるようになると思う。ただしアウトプットは相当大変そうだ。質問に対し即興で医学的な考えを行い、なおかつ語彙を選択して組み立て話さなければならない。これは当然必要とされることであるし、十二分に訓練の余地がある。

総括すると良い経験であった。医学への興味を掻き立てられ、と同時に先の目標を見据えることができた。たった 90 分で普段の何倍も濃い経験をできたと思う。

## ENP3 授業報告



**9-Nov-09**

**Shizuka MATSUDA**

Today's sessions were with Ms. Nambu and two graduates of this University. Their names were Ms. Asogawa and Ms. Mizoguchi. They were ENP students in this University. Now, Ms. Asogawa works as a nurse in Osaka and Ms. Mizoguchi works as Cabin Attendant. Today, we had two classes, 8:40 a.m. to 10:10 a.m. with Ms. Asogawa and 2:50 p.m. to 4:20 p.m. with Ms. Mizoguchi. But Ms. Mizoguchi had influenza. So, instead of her, Ms. Nambu did the session.

In the first class, Ms. Asogawa talked about the University of Prince of Songkla to us. At PSU, there will be something scheduled every other day. For example, we will have classes about "REIKI". Ms. Asogawa said to us not to be shy. We don't have to be afraid of speaking English. Next, we learned some ways to study English from Ms. Asogawa and Ms. Mizoguchi. It is important that to find an effective ways to study for ourselves.

In the next class, Ms. Nambu taught instead of Ms. Mizoguchi session to. We saw a DVD about the University of Prince of Songkla made by Ms. Mizoguchi. It was very easy to understand about life in Thailand. After I saw the DVD I felt that I should study English more.

**11-Nov-09**

**Chiemi FUKUMOTO**

Today, we had ENP class at 1pm to 4:20 pm. But, Makiko caught a cold, so she couldn't attend class. And, Nana had a nursing technical test, so she attended ENP class for 1 pm to 2:30 pm.

This time, we would watch ER DVD, so first, we read summary of ER, and made clear that story. Then, we watched ER DVD without subtitle. We practiced to listen to English and to understand that story. Also, we practiced to explain what happens on the drama.

English was very fast for us, but we tried to listen it again and again, then we could almost understand that story. I think to repeat it was very useful to adapt English. ER story is medical, so we could know medical English and pronunciation. I like this practice because I can study English with enjoyment. I'm going to continue it.

**30-Nov-09**

**Makiko YOSHIDA**

Today's session started with a guest teacher, Ms. Hasegawa from the community health nursing course. She talked to us about many interesting ideas, so we felt more encouraged.

First, we talked about our previous weekend's activities before getting to main theme. Each member seemed to enjoy their own holiday.

After that, we discussed the main theme: "bone-marrow transplantation (BMT)" based on an article. I participated in this discussion as the chairperson. All members had experienced some volunteer activities, but nobody had registered as a BMT donor yet. Why hadn't we registered or why couldn't we do it? There were various reasons. For example, we have some negative ideas about BMTs such that it might be risky, painful, horrible etc. We also didn't have correct or sufficient information about BMT. Another opinion was that Japanese people tend to think that volunteer activities are special things or a kind of tasks compared with Westerners. So we exchanged our opinions and shared meaningful ideas.

**4-Dec-09**

**Shizuka MATSUDA**

Today's session was with Ms. Nambu. We started the session with three students because Ms. Fukumoto had caught a cold so, she couldn't attend this class.

We discussed about the "nurses' high turnover rate" based on an article. This time the chairperson was Ms. Gotanda. She gave a summary of the nurses' high turnover rate to start the session. And then we wondered, why do so many nurses leave their job? One of the reasons is that nursing is hard work. For example, they have night shifts so, they can't leave their children at home alone during night shift. We thought of another reason. New nurses feel a gap between their dreams and the reality. Sometimes when they work as nurses they will have many patients during a night shift. It is too much pressure for them. So, we have to decide on either night shifts or day shifts during our training as nurses.

**24-Dec-09**

**Chiemi FUKUMOTO**

Today is Christmas Eve. First, we talked about our plans for the 24<sup>th</sup> and 25<sup>th</sup>. And, we sent Christmas cards to Ms. Nambu teacher and Mr. Tamada. They always help us and teach us with intensity, so we told them thank you in the cards.

We had a special guest in today's class! It was Ms. Hasegawa! She taught us about Community Health in Thailand. There are Community Hospitals, Community Health Centers, and Family Care Centers there. Each center communicates with the others. They support people's health. The most surprising thing that Ms. Hasegawa told us was, there are many Health Volunteers. They don't have licenses like nurses, but they check people's temperature, blood pressure, and general condition. This class was very useful for us because we'll go to Thailand next year. Finally, after this class, Ms. Hasegawa presented us with Christmas cake! We had a good time with Ms. Hasegawa.

**8-Jan-10**

**Shizuka MATSUDA**

Today's session, from 4:40p.m to 6:10p.m was with Ms. Nambu. She couldn't join the previous class because she had to attend a meeting and this meeting had dragged on till about 4 p.m. So, we talked with her about breastfeeding. We had learned about breastfeeding from Ms. Mizuhata in the last class. Breastfeeding has many good points. For example, breastfeeding has a good lot of vitamins. Breastfeeding is very economical so it is useful for people in developing countries. And, breastfeeding provides a good temperature for babies to drink mother's milk. In addition to this, there are ten steps to successful breastfeeding. Every facility providing maternity services and care for newborn infants should;

1. Have a written breastfeeding policy that is routinely communicated to all health care staff.
2. Train all health care staff in skills necessary to implement this policy.
3. Inform all pregnant women about the benefits and management of breastfeeding.
4. Help mothers initiate breastfeeding within half an hour of breastfeeding.
5. Show mothers how to breastfeed, and how to maintain lactation even if they should be separated from their infants.
6. Give newborn infants no food or drink other than breast milk, unless medically indicated.
7. Practice rooming-in that is, allow mothers and infants to remain together 24 hours a day.
8. Encourage breastfeeding on demand.
9. Give no artificial teats or pacifiers (also called dummies or soothers) to breastfeeding infants.
10. Foster the establishment of breastfeeding support groups and refer mothers to them on discharge from the hospital or clinic.

So when we support mothers for breastfeeding we had to consider many steps.

**8-Jan-10**



Today, our guest instructor was Ms. Mizuhata from the maternity and midwifery course. She mainly talked about global activities for promoting breastfeeding. Breastfeeding has a lot of benefits for both mothers and babies; for example, it is convenient, economical, and nutritional. It is also good method for them to establish a relationship each other.

The Baby-Friendly Hospital Initiative (BFHI) is interesting for me. There are hospitals affiliated with BFHI in Nichinan and Ebino, which are therefore bases for the promotion of breastfeeding in Miyazaki.

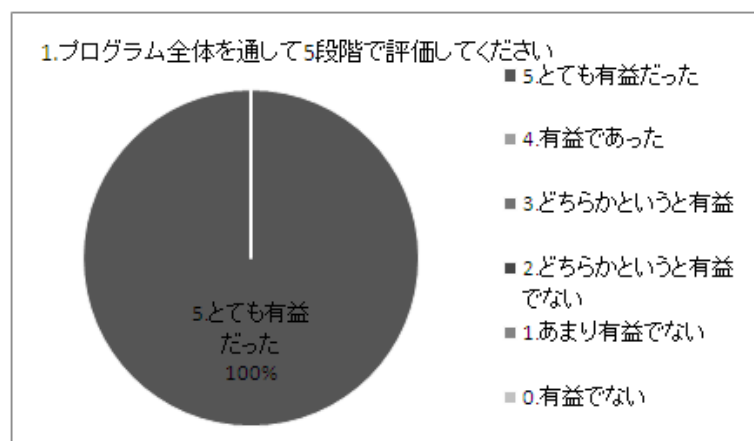
Today's session was the last for us. Considering the activities in ENP3 until today we realize that we have had many good opportunities for studying English. So, from this point on I would like to continue to learning privately.



## ENP3 2009 後期アンケート

### 1. プログラム全体を通して5段階で評価してください。

(未提出1名)



5.とても有益だった	3
4.有益であった	0
3.どちらかという有益	0
2.どちらかという有益でない	0
1.あまり有益でない	0
0.有益でない	0

### 2. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 一人ずつ chairperson になってテーマについてディスカッションしたこと。
- ・ Chairperson であれば進行役としての力も身に付くし、話を要約したり、発表された意見をまとめる力がついたと思う。
- ・ また、ほかの参加者も聴く力や自分の考えを伝える力が身につけられたと思う。
- ・ 英語科の先生ばかりでなく、他の教科の先生方（地域や母性など）の講義を英語でやって下さったプログラムと
- ・ 事前にERのDVDを渡されて自宅でその事前学習のあとに、ENPの講義の中でそのDVDの聞き取りと、シーンのレクチャーをしたこと。
- ・ 前者は、専門科目の講義を英語で行う機会はほとんどなく、その専門科目の単語も一緒に覚えやすかった。
- ・ 後者は、事前にDVDを渡されて予習ができた事（自宅にて自分のペースで何度も繰り返し聞くことが出来た）で、
- ・ 比較的速さの早いERでも聞き取りがしやすく、内容も理解しやすかった。
- ・ 看護学科らしく、後半は看護学科の先生も交えての授業であり、医療面での話を英語でできたのでよかった。

### 3. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ プログラムの実施期間。
- ・ 看護科の生徒では、なかなかENPの活動を知られていないようで、1年生などは特になにも知らないみたいなので、もっと活動を知ってもらえるようにアピールしていけたらと思います。

### 4. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？

- ・ 適切だったと思います。実習中だったのでセッションの日が続くこともありましたが、それはそれで英語ウィークになってよかったと思います、
- ・ ENP3のプログラムが終了してからソクラ大学に行くまでの間に空白の期間があるため、その空いた時間が英語学習しにくい。
- ・ そのため、もし7月にいくのであれば、希望を言えば6月位のギリギリまでプログラムを組んでいただくととても助かります。
- ・ 英語のレベルアップという点では授業の回数は少ないと思いますが、時間の確保については各自が自分で積極的に学ぶことなので、全体の回数としてはちょうどいいと思います。
- ・ 今回だけでも、なかなか予定を合わせて実施するということが難しかったので。

### 5. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。

(ア) 中期的目標

- ・ 春休みを利用して集中して英語学習を進めたい。特に語彙力と表現のバリエーションを増やしたい。積極的に話す機会を設けて話す力もつけたい。
- ・ ソンクラ大学に行くまでに一度TOEICを目標にして文法の強化・基礎を固めていきたいと思う。
- ・ ソンクラに行くまでに、日常会話以外に、医療用語の英語も習得していく。

(イ) 長期的目標

- ・ ソンクラ大学に短期留学した時に相手の話を理解し、自分の意見も述べられるようにしたい。
- ・ ソンクラ大学に行った時に英語を使って会話が出来、学んで帰ってくることである。
- ・ 読む力をつける。

**6. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。**

- ・ 今年はソンクラに行くだけでなく、受け入れも行われるのでとても楽しみです。こういった機会を大切にしていきたいと思います。
- ・ 昼食時間にENPの部屋を使用し、ERのDVDを日本語字幕→次の週は英語の字幕といったように使わせていただきました。ありがとうございます。
- ・ 今後も使用させていただき、少しでもリスニング力をつけていきたいと思います。
- ・ 看護科では、医学科ほどみんな活動を把握していないようなので、実際に2年生から学ぶときに生徒一人一人の意欲に違いがあったり、クラスに求めるものが違うように感じました。
- ・ より多くの人にENPについて知ってもらえるといいなと思います。

## ENP2 授業報告

17-Jul-09

Saki NISHIYAMA

Today , we presented our opinions on the following themes .

- 1, What is your impression of the JICA session?
- 2, What is your mid-term objective?
- 3, What is your long-term objective?
- 4, What is your general impression of ENP?

My impression of the JICA session was very fun.

I thought everyone had a good time.

My mid-term objective was to learn many medical English words.

My long-term objective was to go to PSU to learn about Thai nursing skills and gain more English communication experience.

Finally, my general impression of ENP was that it is hard, but speaking a little English was fun.

6-Oct-09

Shino ISHIGAMI

In this first session, we talked about our program for the second semester.

Everyone listened to each others' ideas. We are going to do "role plays about nursing" while making scripts too.

I think we can improve our speaking ability, as we learn and review medical English vocabulary.

Each group, consisting of three members, will present these several times.

Although we have a little anxiety about this, trying something fresh is making us excited.

2-Nov-09

Yusuke SHIBA

Today, we met Mr. Tamada for the first time in a long while. He asked us how we've been doing recently. The ENP members have been very busy preparing for the school festival, but that doesn't allow us to forget our English studies. He said that at first, we must get used to speaking English and listening to English. I've always understood that it's necessary to study on our own.

9-Nov-09

Kei TANIO

Haruka Mizoguchi

She talked about surgical ward, surgery visit, attend AE class, OBGYN class, health promotion, rehabilitation center and emergency room. She told us what she studied, such as the number of patients, patient's condition, construction of ward, and construction of team. She said it is important that we have pride as Japanese, human relationships. She also said the important things are consideration and compromise.

Nozomi Yoshida

She talked about OBGYN, traditional midwives activity, and community health service.

They talked us in detail what can we study at Prince of Songkla University.

There were some difficult of medical word, but they explained in clearly.

**16-Nov-09**

**Saki NISHIYAMA**

Today's 1 minute's speech theme was about the School Festival.  
We have School Festival on 21th and 22th November, so, we are very busy now!  
We did group work today.

**25-Nov-09**

**作者不明**

In this class, at the first we each gave a speech for one minute about "our Christmas". Someone spoke about the memories of Christmas, and another spoke about plans for next Christmas. Christmas is a day in which we can spend a very happy time with our precious people. I hope everyone will be have a very happy Christmas every year.

In this class, there were only 4 people, because the others had caught the flu. So, we couldn't do group works. Then, we did some discussions. Recently the opportunities to speak in English are increasing. I think we have come to be able to speak in English well little by little. I really noticed it was very important to speak in English on our own, and we should try to increase the opportunities to speak in English more and more.

**26-Nov-09**

**Nozomi YUASA**

The theme of today's "speak for a minute" was "Christmas." We talked about how to spend an ideal Christmas and our memories of Santa Claus and Christmas presents.

We also prepared for our presentation. Our group's topic is breast cancer. We have to make up a situation and then perform a skit in English. This is difficult for us, because we have to study many medical terms in English ("lumpectomy," for example).

A few people have given up on ENP, and it's hard for us to make up a skit for our presentation, but we want make a good effort to succeed.

We've been busy lately because we have some group work in nursing class, but we should try to be enthusiastic and use English every day.

**9-Dec-09**

**Shiho ISHIGAMI**

During this session, we were scolded for being lazy because we weren't present at the presentations given by ENP students returning Sangkla on December 3.

Our professors brought each of us to account. Professor Yokoyama said to us "College students don't have enough money but have much time. So, you should spend your time on something other than your usual experiences; for example, going to Songkla."

Most of us felt our motivation was beginning to decline because of our nursing studies and other things. Now, however, we have a renewed sense of purpose.

**16-Dec-09**

**Yusuke SHIBA**

Today, the seniors, Ms.Mizoguti and Ms.Yoshida, came to the class of ENP2. They told us about their experiences at PSU, and gave us a good image of it. For example, the structure of wards at Songklanagarind Hospital is different from that at Japanese hospitals. The nurse's station is surrounded by sickrooms at Songklanagarind Hospital.

In Japan, serious patients are near the nurse's station, so patients might feel anxious.

I think that in this case, the nursing system in Thailand is better than Japan's. There are good and bad points of nursing in foreign countries. I want to see these with my own eyes. Going to PSU is my aim now, so I must study English hard.

We are sorry that we forgot to see the presentations about PSU. We will study harder with renewed energy.

**10-Jan-10**

**Saki NISHIYAMA**

Today, Miss. Hasegawa came to our class and she introduced us to the role of caregivers.

Why did she start the program?

Because people are in different situations. For example, someone needs medical care or someone has a disability.

They need someone's help .

So the number of caregivers actions in foreign countries, such as Australia and the U.S. is quite high...

Next , she introduced her health care art program using examples such as a calligraphy program and art with blowgun .

I interested in arts programs.

If I get a chance to join the program, I want to do it.

Finally, we announced our own programs. Everyone had exciting ideas .

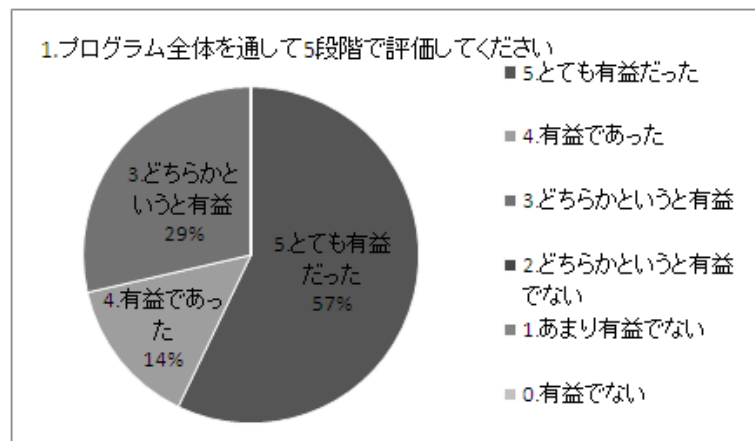
We had a good time, thanks to Miss Hasegawa.





## ENP2 2009 後期アンケート

### 7. プログラム全体を通して5段階で評価してください。



5.とても有益だった	4
4.有益であった	1
3.どちらかという有益	2
2.どちらかという有益でない	0
1.あまり有益でない	0
0.有益でない	0

### 8. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 自主的にしたいことができたところ（最終授業の発表など）
- ・ 自分たちがやりやすいことを行うことで、学習しているということが実感することができ、身に付いたことも多かったため
- ・ グループワークで、看護の場面を自分たちで構成して発表できたのは良かった。
- ・ 地域看護の先生がきてくださって、看護に関する面白い取り組みを聞いたこと。
- ・ ロールプレイを自分たち主体でできたこと。
- ・ 自分達で発表テーマを決めて発表したこと。自分で作るということで勉強になったし、他のグループの発表を聞くことで勉強になったこともあった。
- ・ 医療におけるテーマでのロールプレイというのが楽しかったし、興味深かった。
- ・ 田村先生による講義が日本語でしたが、おもしろかったし PCM についてサイモントン療法について学びたいと思った
- ・ 1 分間スピーチを含め、JICA の方々へのプレゼンや看護に関するテーマでの発表など、他者に向けて英語で何かを表現し、感想や質問を聞いて、フィードバックをもらうという形は、比較的楽しく行えたし達成感が得られたので、とても良い学習方法だった。
- ・ 自分たちで計画して授業が進められたこと。
- ・ 自分たちの興味のあることについて勉強することができたので、意欲も湧き取り組みやすかったです。
- ・ 学生が主体的に取り組める点

### 9. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 時間割が変更になること
- ・ 2年生のカリキュラムをあまり考えていてくれないと感じる場面があったこと
- ・ 困惑したままで途中やめた人がいたのは、プログラム側としてはいいかもしれないけど、おそらくその人には何らかの不全感や傷が残るのではと心配しています。事後対策は先生たちみんなが一貫した基本的考えをもって対応してほしいです。
- ・ 学祭やインフルエンザの流行などによって発表回数が大幅に減ってしまったことが残念でした。
- ・ 2年生は忙しい時期ですが、もう少し回数を増やしても良かったかなと思います。
- ・ 問題は私たち側の自主学習の不足にあると思うので、プログラム自体の改善点は特にありません。ただ、先生はあまりコロコロ変わらない方がやりやすかったです。
- ・ 今回はインフルエンザなどのせいもあり、計画していたように進まず、発表が一回しかできなかったですが、もっと授業以外の時間を有効に使って、あと一回ぐらいは発表をしたかったです。
- ・ 週1回なのが少ないと感じます

**10. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？**

- ・ 週一回で、空きコマにできるので、丁度いいです。
- ・ 短い
- ・ 実施期間はよいと思いました。
- ・ 授業外になることがなく、空きコマに入っていたので良かった。
- ・ 試験前はきついなと思いましたが無事乗り切れたし、特に問題なかったと思います。
- ・ 空き時間に組み込んでもらっていたし、5コマ目などに入ることもなく、すごく助かりました。

**11. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。**

(ア) 中期的目標

- ・ タイのソンクラ大学に行くことができるよう、コミュニケーション力を身に付ける
- ・ 英語の討論ができるようになる
- ・ 3年生ではディスカッションがあるということなので、臨機応変に自分の考えを適切でできるだけネイティブに近い表現でディスカッションできるようになること
- ・ TOEFL で半分以上とれるようにする。
- ・ 以前からいつかは TOEIC が受けてみたいと思っています。
- ・ TOEFL で 500 点以上の点数を取る。
- ・ 日常的に積極的に英語とかかわりたいと思います

(イ) 長期的目標

- ・ ソンクラ大学に行く
- ・ 英語が日常会話、医療現場で困らない程度で話すことができる
- ・ 外国のどの場でも英語を自在に使うことができるレベルまで達すること
- ・ 将来医療現場で使えるような英語力を身につける。JICA で協力できるようになる。
- ・ 調べてみると英検 2 級が TOEIC では 650 点で、仕事や海外で最低限のコミュニケーションがとれるのが 700 点だと書いてあったので、TOEIC で 650 点をクリアすること。
- ・ 自分の興味を持っている分野の看護について知識を深め、それを英語で表現できるようにする。(スライドなども作成して人に伝えられるようにする。)
- ・ 日常的に積極的に英語とかかわりたいと思います

**12. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。**

- ・ 結構、ネイティブに英語をもっていったら、「ネイティブに見てもらって言われたの？」って毎回聞かれたので、そこらへんはネイティブとどのような連携になっているのか気になります。忙しい時とかはちょっと怖かったりもするので….
- ・ 1 年間ありがとうございました。プレゼンをしたりロールプレイをしたりと、英語だけで行ったことは初めてだったし、楽しかったです。
- ・ 1 年間お世話になりました。自主学习・・・毎日英語に触れることの大切さを実感しました。
- ・ 学祭やグループワーク、試験、実習などを理由にして後回しにすることが多かったのですが、英語の勉強は日課にすべきものだなと思いました。
- ・ 2 年後期の ENP の授業のおかげでかなり英語をしゃべることに対する抵抗がなくなってきたように思います。これからはしゃべることを中心の授業をやっていけたらいいなと思います。

### I. 授業の目的・目標

対象学生が3年生および編入生であることより、既習の母性看護学の内容から「母乳育児推進における世界的な活動と宮崎県内での活動、母乳育児成功のための10か条について」の理解を目的・目標に授業を行った。

母乳栄養の利点およびUNICEF/WHOによるBABY-FRIENDLY HOSPITAL INITIATIVE (BFHI)を中心に、BFHIが始動するまでの経緯と日本・宮崎県におけるBFHI、母子の健康に関わる看護職者の実践として母乳育児成功のための10か条について、ディスカッションをしながら授業を進めていった。

### II. 授業の自己点検・自己評価

学生からの授業のフィードバックでは、母乳栄養の利点、BFHIと母乳育児成功のための10か条についての理解がみられ、授業目標は概ね達成できていた。しかし、学生とのディスカッションの中で、教員である私の語彙数の少なさや英会話能力の不足のため、十分に説明できないことがあった。今後、授業内容に即した英会話力等の向上が必要であると痛感した。

（ここからは不要かもしれませんが…）

### III. 授業を担当した感想

授業を担当することになった当初、授業のすべてを英語で行うということに自信もなく、おそろおそろのチャレンジでしたが、少人数でのクラスであり、学生の学習意欲も高く、相互にサポーター的な場で楽しく学習できました。授業の目的・目標および内容の設定、教材収集・作成に短い時間での準備ではありましたが、自らも学習する機会となりました。英語科の先生方には調整・相談にのっていただき有難うございました。

平成 21 年度看護学科 2 年生および 3 年生の ENP において、それぞれ 1 コマずつ講義を行った内容と、講義を実施して感じたことを報告する。

### 【ENP 2 年生】

参加者は 5 名であった。2 年生には「楽しい話を英語でする」機会になってくれると良いなあという期待を抱き、私自身の研究テーマである、ケアする人のヘルスケア・アートプログラムについて講義した。講義の流れとしては、はじめに私がこれまで行ってきた「ケアする人のケア」にアートをを用いるヘルスケアプログラムについて質疑応答を受けながら説明した。次に受講生が考えたヘルスケア・アートプログラムのアイディアを発表し、意見交換を行った。ヘルスケア・アートプログラムを考えるときの条件は、私自身が企画する際に大切にしている、1、大きな動作を伴うもの（身体活動を伴う）、2、やって楽しいと感じるもの（爽快感やリラックスできるもの）という 2 つである。

学生から出されたアイディアは実に奇抜なもので、『宮崎の田んぼにミステリーサークルを作る！』『大きな紙に、色んな色で、沢山の道具を使って色をつけてみよう！』『みんなで絵のお家をコーディネート！』等々、それぞれが考えて来た自由で、楽しいアイディアを出し合うことができ、是非、次の研究イベントで学生のアイディアを基にした企画を実践してみたいと思っている。

このクラスで講義を行ったとき、研究プログラムの説明をしている間は、反応が乏しく、このまま続けて大丈夫だろうかという不安を抱きつつ進行した。しかし自分達のアイディアを通して意見交換する時は、実に楽しそう、このテーマを選んで良かったと安心した。聞き取りはできているように感じ、英語で表現することを躊躇っていたために反応が乏しくなってしまったのではないかと思う。しかし私は英語でも日本語でも、コミュニケーションにおいては人を意識することが大切で、「自分は貴方の話を聞いていますよ」という表現として傾きや視線を合わせる等の行動が重要だと思っている。特に英語での意思表示が難しいと感じている場合は、なおさら、この行為が心を通わせる重要なツールになり得ると思う。英語で上手く話せる、表現できることも大切だけど、それにこだわり過ぎて固まってしまっている面白さも半減してしまう。まずは、言語が通じなくても、人間同士のコミュニケーション、つながり、関わりを楽しむことに挑戦して欲しいと感じた。

### 【ENP 3 年生】

参加者は 4 名であった。3 年生には次年度ソンクラ大学に看護研修に行く機会があることを想定し、タイにおけるコミュニティヘルスについて講義した。これは平成 20 年度 3 月にソンクラ大学で研修を行った際に学んだことをまとめたもので、タイにおけるコミュニティシステムの紹介を行った後、日本とタイの共通点・相違点と、両国の共通した問題である高血圧患者数を減少するための方法について意見交換を行った。このクラスはタイの地域システムについて、いくつも質問がでて一緒に考えることができた。十分な時間がとれなかったが、説明後のディスカッションについても各自の意見を述べ、日本語同等に意見交換を行うことができたと思う。また、これまで気づけなかった点（患者輸送の方法など）を質問してもらえたことで、自分自身が今後調べてみたい課題を見つけることもできた。

このクラスの学生達は、英語を勉強したいという意識をしっかりとって ENP に参加していると感じた。英語表現のたどたどしさや、『ん〜・・・』と言葉が出てくるまでに時間がかかっていたりすることはあるものの、それは「お互いさま」で、楽しく講義をすることができた。受け身ではなく主体的に講義を受けている姿勢は、これまで沢山の看護の課題がある中で ENP を続けきた成果であり、ソンクラ大学での看護研修に行きたいという目標を持った活動を通して培われたものであると感じた。

### 【ENP 講義を担当して】

『講義』という形で、好きな英語に浸れる時間をもらえたことは、大変ありがたく、貴重な経験でした。ENP で接する学生達は、看護の講義でみている表情や態度と違った一面があって、とても興味深いものでした。また、私は 2 つの学年に講義をさせてもらえたことで、それぞれのクラスの特徴を感じることもできました。まだまだ

英語を話すことが少し恥ずかしいなと感じて躊躇している 2 年生と、躊躇する気持ちから一歩抜け出して英会話をしている 3 年生と、それぞれの段階とカラーがありました。

私は自分自身、うまい下手に関わらず、英語を使うこと、話すことが楽しいと感じています。先にも書きましたが、言葉が違っていても、表現が違っていても、「分かりあう」ことがコミュニケーションであり、その楽しさを是非学生にも味わってほしいなあと思っています。偉そうなことは言えませんが、この感覚は、国際化に対応できる看護職の育成ということだけでなく、人間を相手にする職業である看護職・医療職には大切なものなのではないでしょうか。患者さまの中には言葉が話せない、目が見えない方など、様々な方々がいらっしゃいます。そうでなくても、同じ言葉を聞いて、お互いが同じように理解することは日本人同士でも難しいものです。ここ宮大で、私たちが目指す職業である看護・医療職者は、その努力を避けては通れないものであり、ENP を受けることは、国際的にも、将来的にも、そして今の瞬間にも、学生達にとって、きっと豊かで大きな何かを得られる時間になっていると思います。

#### 【最後に】

本年度、看護学科の 2 つの学年における ENP 講義に参加する機会を提供して下さった英語科の先生方に感謝いたします。看護学実習の最中で十分な準備体制がとれないまま講義をしたにも関わらず、楽しく参加してくれた学生の皆さん、ありがとう。そしてお忙しいなか、講義準備から私の拙い英語力をフォローして関わって下さった南部先生の御支援と優しさに感謝します。

## N-ENP[A] 授業報告

8-Oct-09

Yoshimi TANAKA

Today, we learned how to ask basic patient information. It calls Anamune in Japan. This is first communication when the patient admission. So I need practicing these questions for getting fidelity and relieving patients

It was the most interesting thing was foreigner don't know their blood type. In Japan, blood type is very important thing unless blood transfusion. Sometimes Japanese classify personality blood type. For example, you are type A. So you must be nervous.

These days the book named 'usage different blood type' is selling like fun. I feel Japanese character from foreign. I want to know difference of sense in studying English.

15-Oct-09

Miho IWAKIRI

We enjoyed today's class. Attending were Ms. Kubo, Ms. Sato, Ms. Horiuchi, Ms. Hamasuna, Ms. Kuramoto, Ms. Tanaka, and myself. The teacher was Mr. White.

At the beginning of class, Mr. White asked "What do you want to learn in these ENP classes?" This question was last ENP's homework, so we gave our responses.

- We want to learn about meal planning/nutritional therapy in English (ex. nutritional education for pregnant women with gestational diabetes)
- We want to learn about cultural differences between Japan and other countries.
- We want to learn polite/formal expressions in English.
- We want to have discussions on many different topics.
- We want to learn English adages/proverbs.

Later in the class we asked some questions of Mr. White. He taught us many expressions in English. We also heard (for most of us for the first time) that English doesn't really employ any sort of "keigo". For example, Japanese has honorific words, modest words, and polite words for use in particular situations. English has polite/formal forms, but in most situations they are less important than one's tone of voice in particular circumstances. Mr. White showed us some polite expressions, which were easy for us to understand.

At the end of class we asked Mr. White some questions about Canada, and we learned a few basic things about life in Canada. For example, Canada's food staple is the potato and most people are Christian.

Today's ENP was very interesting and we had good time. I want to talk more about differences between Japan and other countries. I'm looking forward to the next class.

29-Oct-09

Mayumi HORIUCHI

Today in Mr. White's class we read an article about scientists' advice to avoid catching colds. Their main advice was that we should keep warm in winter (wear warm clothing, stay dry, etc.).

We also looked at how to give advice for other conditions (the flu, insomnia, hiccups, etc.). It was especially interesting to see the correct English for giving advice about the hiccups.

I thought that advice for the flu and colds was useful with the season for these conditions

4-Nov-09

Kaoru HAMASUNA

At the beginning of the class we discussed the questions we bring to class each week, and talked about our "news" from the past week.



I was impressed that Ms. Tanaka's hobby is making handicrafts. On her last holiday she made a zabuton. I'm not good at handicrafts, but I'd like to learn.

In the last class we learned some words and phrases related to harmful drugs. Today we read an article that argued alcohol is more harmful to society than marijuana. After we read and discussed the article, we had a discussion about alcohol. I like alcohol sometimes, but I realize that it's necessary to know our limits and use alcohol carefully.

I'm looking forward to the next class.

**19-Nov-09**

**Atsuko KUBO**

Today at the beginning of class Rick answered our questions about polite expressions in English, year-end parties and sales, and the sense of time. I was interested to learn about differences between Japan and Canada.

Rick told us a bit about university life in Canada. In Canada, anyone who graduates high school can enter university (there are no entrance exams). Canada has some cram schools, but not nearly as many as Japan. In a Canadian university every student has his or her own unique weekly class schedule (and Rick said that at his university there were about 40,000 students). This makes it nearly impossible to have an event like Miyazaki University's School Festival. However, there are many smaller events through the year that students can participate in if they like. National university sports championships are very big events for students all across Canada.

In Canada the government and banks provide student loans for those entering university. Most students pay their own expenses by working part-time through the school year and full-time for the four months of summer vacation (even most students from "rich" families).

In today's handout there was an article about "hangovers." I thought this was a very timely topic, since this is year-end party season in Japan. We discussed different ideas for coping with a hangover and decided it was best just to be careful!

今日のEnglish questionのテーマは、敬語、時間感覚、忘年会、年末のバーゲンについてなどでした。私は、テーマの中の大学生活における日本とCanadaの違いに大変興味を持ちました。

Rick先生は、Canadaにおける大学生の生活について説明してくれました。高校を卒業していれば誰でも、いつでも大学への入学可能である。大学入学のための学習塾もあるが、日本よりかなり少ない。大学の学生数は、40000人くらいいる。一人ひとりの学生ごとに授業内容やスケジュールが違うため、宮崎大学のような「学園祭」はない。しかし、national leagueなどスポーツのフェスティバルは開かれる。銀行や政府が、学生のために多くの奨学金制度を準備している。しかし、ほとんどの学生は学費を自分でアルバイトをして払っている。学生たちは約4ヶ月間の夏休み中、アルバイトしている。お金持ちの家庭の学生であっても同じ傾向である。

今日の学習テーマは、“Hangover”についてでした。これから、忘年会が多く開かれる時期です。それはとてもタイムリーな内容だと思いました。

みなさん、Hangoverの対処について学びましたが、Hangoverで失敗をしないよう注意しましょうね！

**10-Dec-09**

**Miho IWAKIRI**

We enjoyed today's class. Attending were Ms. Kubo, Ms. Horiuchi, Ms. Hamasuna, Ms. Kuramoto, and myself. The teacher was Mr. White.

At the beginning of class, Mr. White asked us for our weekly homework questions. We all had questions, but I think Ms. Kubo's was the most interesting.

She asked if burial methods in Canada were different from those in Japan. In Japan, most bodies are cremated after death, and each family has its own burial site in a cemetery. When a family member dies, the ashes are placed in an urn and the urn is placed into a sepulcher. This is the most common method in Japan.

In North America and Europe, most people are placed into a coffin and buried under the earth after they die. Each body has its own burial plot. Some people choose to be cremated when they die. Often it is their wish to have their ashes scattered in the ocean or a river, etc. Japanese tomb is like a monument. Every family has a tomb. In Canada, all people have their own headstones. This was a very interesting topic for me.

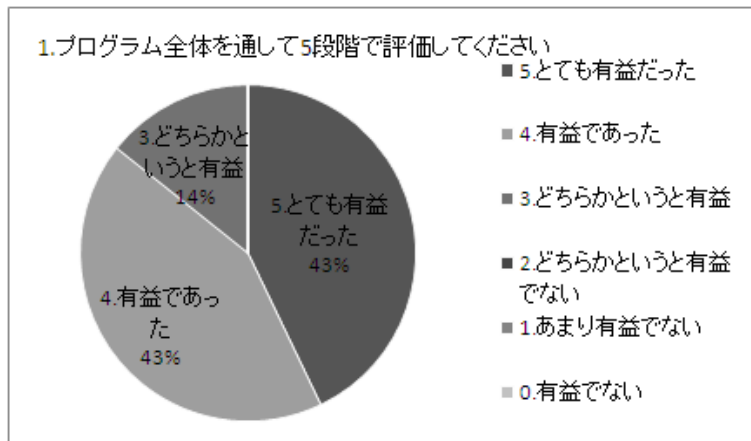
Today's ENP class was very interesting and we had good time. I want to talk more about the differences between Japan and other countries. Today's class was the last one this year.

Mr. White, thank you very much for your class. We want to have your class next year, too. Thank you and have nice New Year.



## N-ENP[A] 2009 後期アンケート

### 13. プログラム全体を通して5段階で評価してください。



5.とても有益だった	3
4.有益であった	3
3.どちらかという有益	1
2.どちらかという有益でない	0
1.あまり有益でない	0
0.有益でない	0

\*3.「どちらかという有益」と答えた中で、『自分自身の積極性があれば、もっと上がる』とコメントを寄せているもの有り。

### 14. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 今回は毎回、それぞれが質問や疑問を考えてきて、それを元にディスカッションできたので、知らなかったことを知りつつ、色々な表現を考えて話し合うことができた。看護のことだけでなく文化の違いなども出てきて、より身近な表現を学ぶことができてよかったと思います。
- ・ 外国人講師であるため、外国における文化、日本との習慣の違いなど、大変興味深い内容の話が聞けたこと。
- ・ 自分のつたない英会話でも講師が理解してくれることに、とにかく話すことが大事だと気づきました。
- ・ ネイティブの先生がレッスン期間を担当したこと。理由：先生の早い **speaking** に集中することができたから。
- ・ 医療に関する最近のテーマについて、英語を用いてディスカッションできたこと。
- ・ 日頃、接することのないネイティブのかたの英語が聞けることが家で言う学習とはちがい大変勉強になりました。
- ・ 同じ先生からの授業であったため、色々な項目（ドラッグやインフルエンザなど）について、統一した方法・形式で学習できた。資料・テーマは、先生が準備してくださっていたが、毎回、質問を1人1問考えてくることになっていたの、考えるのは大変だったが、受身ばかりにならず、よかったと思う。
- ・ ディスカッションをしたいという意向をくんでいただいて、話す時間を多くとれるような工夫を用意していただけた。
- ・ 90分という時間が適切であった。

### 15. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 今回、アドバンスは1グループでできていて、人数も話しやすい人数だったのでよかったと思います。ただ、今後より希望者が出てくる場合は、ベーシックの人数を考えると、日にちを週2回くらいに分けたほうが良いかもしれないかと思いました。（勤務希望などの調整が上手くいかず、何回か休んだ人もいたと聞いているので）
- ・ ヒアリングは、訓練されますが、話すということに関しては本人の自主性に任されるので、個人により習得の度合いは変わると思います。1で述べたように、積極性が必要かと思います。ある程度コミュニケーションがとれる人は有意義だと思います。学習方法としては、「このフレーズは覚えておこう」的なものを加えて、毎回練習できると自信がつくかもしれません。（これは、ベーシックレベルでしょうか？）
- ・ ベーシックで使用したCDは、日々耳を鳴らすのに必要だったので、アドバンスでも欲しいと思います。
- ・ 内容が難しかった。理由：私たちのレベルが先生の用意する課題に合っていないと思うから。
- ・ 参加者自身の問題で申し訳ないですが、どうしても参加できないやむをえない場合以外は、最優先で参加できるようにしたい。参加者が全員毎回当たり前にそろうと良いなと思います。以前実施したような、患者

が本当に目の前に来たときのリアリティあふれるロールプレイングのような事もできたらいいのかなと思います。様々な科があると、内容は難しくなるかもしれませんが、自分のしたい場面を出し合ってもいいのかなと思います。せっかくネイティブの先生がいてくれるなら、良いのかなと思います。

#### 16. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？

- ・ いつも先生方に遅くまでしていただきありがとうございます。開始時間はこのままで良いと思います。
- ・ 90分という時間も、ディスカッションしていても丁度区切りがつく時間で、このままが良いかと思いました。
- ・ 自分自身が、会議等のために半日を欠席してしまうことになった。個人のスケジュールもあるが、前期に比べて、後期は看護部内の研修の計画が多く、特に木曜日の研修が多く ENP の日程と重なった。
- ・ いいと思う。
- ・ ちょうど良い。
- ・ 妥当だと思います。
- ・ いいと思う。
- ・ 90分で丁度良いと思います。10回は、あつという間な気がします。あと2、3回あってもいいのかなと思います。

#### 17. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。

- ・ ソンクラ大学での研修を目指して、日本とのがん看護の違いについて調べ、日本のことが紹介できるようにしてみたいと思っています。
- ・ さまざまな表現（たとえば症状や気持ちなど）について調べ、それを使えるようにしていきたいと思います。また、できれば、日本で行われるがん関係の国際学会などにも来年度可能であれば参加しに行きたいと思います。
- ・ 英語は、離れてしまうと話せなくなると痛感しています。自分を英語にふれる環境におくことが日々の目標です。最終的な目標としては、外国からの研修生に対し日常会話に不自由しないレベルの会話力を持てるようになることです。
- ・ 仕事しながら継続することは大変だけど、継続は力なりを信じて続ける。いつかは外国人患者さんと不自由なく英語で会話し看護を提供できるようになる。
- ・ ソンクラで実習を受け、医療・文化の違いなどを学ぶ。プーケットである学会に参加する。
- ・ いつか短期留学をしてみたい。
- ・ 2月にソンクラ大学に研修に行くために準備をしていますが、早い英語もきけるようになりたいし、きちんと英語で自分の考えを伝えられるようになりたい。
- ・ 中期目標：タイで疑問に思うことや、日本での事を伝えることができる。現在の仕事のチーム内のメンバーが、患者対応に困らないような程度のマニュアル作成や実際の会話の練習などを行う。
- ・ 長期目標：自分の気持ちを日本語のニュアンスで伝えられるようになる。

#### 18. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。

- ・ 現在、アドバンスコースとベーシックコースが授業の中で関わることはないのですが、後半あたりで一度合同（メンバーを何人かずつ入れ替えて）でディスカッションなどをしてみるといいのかなと思いました。ベーシックコースの人が「アドバンスはまだかな」というような発言もあったと聞いているので、実際に一緒にしてみるとアドバンスコースのイメージが付きやすいのかなと思いました。
- ・ 将来、社会は、英語が話せて当たり前・・・になると思う。ENPの良さは【無料】ということもありますが、職位を超え、楽しく、無理せずに学習できていることがメリットです。
- ・ 他のclassの先生はどんな授業をしているのかも気になります。
- ・ 授業初日に先生より「どのように勉強していきたいか。」を聞かれディスカッション式の授業形態に相談の結果なったのですが、思ったことが英語で表現出来ずに意見を述べるのが少なく、先生がお困りになられたらと思います。申し訳ありません。
- ・ 授業の参加者が極端に少ないことがあったので先生に対して申し訳なかったです。前もってそれがわかるといいのですが、勤務中だと連絡も難しいのかもしれない。
- ・ 今回は、ネイティブの先生が進行をしてくださって、とても気楽でしたが、徐々にでいいので、自分で今回

はこんな場面がしたいとか、提案をして実施できればいいなと思います。が、仕事しながらですと、自分の首を絞めることになっていく気もしますが。。。でも、10 回中 1 回とかであれば、できなくないのかなとったりしています。

## N-ENP[B] 授業報告

8-Oct-09

Mihoko NAKAMURA

Today is our day 11<sup>th</sup>. We are five members.  
Two months had passed from the first course, so we introduces ourselves.  
We also asked each other about our hobby and the constellation etc.  
Our teacher speaks slowly in English and it was easy to listen.  
But, I don't know if I could understand all of them.  
We returned to the office repeating "Let's practice more." pleasantly on the way.

継続コースの 11 回目の E N P が始まりました。5 人のメンバーでした。  
第 1 回のコースから 2 ヶ月過ぎていたので、まずは自己紹介を行い、お互いに趣味や星座などの質問をしました。  
先生はとてもゆっくり話してくださるので、わかりやすかったです。しかし、聞き取れたかどうかは自信がないです。授業が終わって帰る時に、メンバーで復習をしよう！と言って帰りました。

16-Oct-09

Mika SHIOTSUKI

Today was the second English conversation class.  
I felt nervous as usual.  
At first, Miss. Yukizaki and Miss Nishitsuruzono, who could not come on the first day, introduced themselves.  
After that we learned how to guide an outpatient in the hospital.  
90 minutes passed away in no time again.  
I want to do my best happily next week.

今日は 2 回目の授業でした。  
私はいつも通り緊張しました。  
今日は初めに前回休みの、柚木崎さんと西鶴園さんの自己紹介をしました。  
そのあと、病院の外来受付の仕方を学びました。  
今回も 90 分があつとゆう間に過ぎました。  
来週も楽しく、頑張りたいです。

22-Oct-09

Mika NISHITSURUZONO

Today, four people, Ms.Okumura, Ms.Nakamura, Ms.yukizaki, and I attended the class.  
We mainly learned how to answer on the telephone about the first examination in each department. We practiced conversation based on the situation where a patient with a letter of introduction and a patient without one. Each of us was questioned in English and we answered in English.  
We enjoyed the story of wisdom tooth. It was very interesting .  
I'll look forward to the next class.

今日の英語のクラスは奥村さん、中村さん、柚木崎さんと私の四人でした。主に各々の診療科での電話での対応について学びました。  
初診時と再診時、紹介状がある場合とない場合についてです。それぞれについて英語で質問され答えました。



親知らずと知恵熱の話も盛り上がりました。それはとても興味深いものでした。  
次のクラスも楽しみです。

**29-Oct-09**

**Miwa FUKUMITSU**

Firstly, today's English class started with review from the last week. Afterwards, we talked about things what each participant felt about "Autumn" or favorite food in autumn. Some person seems to eat persimmon every day. When autumn comes, some person seems to become melancholic. Next, we began to talk about each participant's "Custom" because the word "Custom" came out during our conversation.

In this class, we learnt "pet one's head" including two other words: "caress" and "stroke". In addition, we learnt expressions like "Upper Lip" and "Lower lip", as well as "Upper jaw" and "Lower jaw". I strongly feel I want to express my idea and feelings in English more as the class progresses. I will keep reviewing without being shy and prepare for the next time.

今日の英語の授業は、まず、先週の復習を行ないました。その後、「秋」について、受講生が各々感じていることや好きな秋の食べ物の物について語り合いました。ある人は、毎日柿を食べているそうです。ある人は、秋になると物悲しくなるそうです。次に、会話の中から、「習慣」と言う表現が出てきたため、受講生各自の「習慣」について語り始めました。今回の授業では、「頭をなでる」の単語には、「caress」、「stroke」の2つの単語があることを学びました。また、「あご」には「上顎」と「下顎」の表現の違い、それと同じように、「上唇」と「下唇」の表現を学びました。授業が進むにつれ、自分の考えや気持ちを、英文で表現したいと強く思うようになっていきます。恥ずかしがらずに、復習をしながら次回に望みたいと思います。

**5-Nov-09**

**Tomoko YUKIZAKI**

Today was the fifth class.

The contents of the class is how to inform the outpatients about medical payment in University of Miyazaki hospital.

I think those are very useful when we explain to the outpatients about the payment window.

We will continue to study the same topic next week.

We had a lot of fun as we always do.

今日は、5回目の授業でした。

授業内容は、外来患者さんへの会計の案内でした。

外来患者さんへ会計窓口の案内をするときに使える！と思いました。

来週は続きをする予定です

今日もとても楽しかったです。

**12-Nov-09**

**Tomoko TANIGUCHI**

The members didn't show up at beginning of the class, so I chatted with our teacher and Mrs. Nishiturozono. Then, our teacher proposed that we introduce our Christmas memories in English. I introduced my memory about Christmas when I was a university student. I miss it very much. But Christmas can become very tough when we become an adult. For example, we become Santa Claus and should prepare for expensive present for children. But we can have a dream of Christmas forever. I am thinking about how I'll spend Christmas this year.

最初は、メンバーが集まらず、先生と西鶴園さんと3人で談笑をしていました。そこで、先生からの提案で、クリスマスの思い出を英語で紹介することになりました。私は大学生のころの思い出を紹介しました。とても懐かしくなりました。しかし、大人になれば、クリスマスは大変なことが多いようです。例えば、サンタクロースになったり、高価なプレゼントを用意しないといけません。でもクリスマスはいつまでも夢をみれるものです。今年のクリスマスはどのように過ごそうかと考えているところです。

## 19-Nov-09

**Tomoko OKUMURA**

Today was our day 7. Four members could come to the class. Today, there is a special guest teacher from University of Miyazaki. His name is Tessai Yamanaka. He worked around the world after he graduated from college, and is attending Graduate school now. He is going to be one of the lecturers of ENP next year.

We introduced ourselves. And Mr. Yamanaka talked about his experience. His story was very interesting from his working experience at Mother Theresa's hospital in India, to his favorite fire performance. His group's name is fire poi Embassy.

Conversation in class without using a textbook makes me feel much closer to English. I want to enjoy learning English to be able to guide visitors inside the hospital.

今日は7回目の授業でした。メンバーは4人でしたが、特別ゲストの方が宮崎大学から来ていました。山中鉄斎氏は大学卒業後仕事についていましたが、その後数々の国を回り多くの経験をして、現在大学院に在学しているそうです。来年度のENPの講師になる予定だそうです。

私たちは自己紹介をしました。そして山中氏もいろいろな外国での経験を話しました。マザーテレサの病院の話やファイヤーダンスの話などとても楽しい話でした。チームの名前はファイヤーボイ大使館だそうです。

ワークブックを使わない会話の授業は英語に私をととても近づけてくれています。外国からの訪問者に案内ができるように英語に親しみたいです。

## 10-Dec-09

**Mika SHIOTSUKI**

We talked about what we had done at work for the past week.

I was not able to speak well in English again.

It is not possible to improve my English easily.

Next week, it will already be the last class.

## 17-Dec-09

**Mihoko NAKAMURA**

Today was Day 9 and our last study. There was no absentee.

Today, we studied English expressions on kenko-shindan system, or general physical check-up. Essential items for physical checkup are a blood-test, eye-sight, hearing, chest-ray, electric cardiogram, etc.

Optional items are gastroendoscopy, mammography, etc.

Lastly, we described our impressions about 2nd round of N-ENP course.

Some said that they enjoyed studying English, some said they are ready enough to welcome foreign patients.

継続コースの10回目で、今日が最後の授業でした。欠席者はいませんでした。

今日は、「健康診断」に関する英語表現を学習しました。

健康診断の必須項目は、血液検査、視力テスト、聴力テスト、レントゲン、心電図等があります。

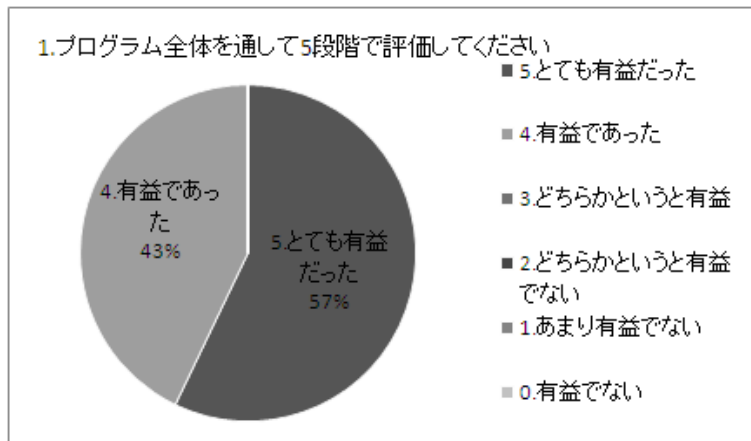
オプションは、胃カメラ、乳房健診等があります。

最後にENPの継続コースを受けての感想を述べました。メンバーの感想は、楽しかったとか病棟に外国人が来てもウェルカムという気持ちになった等の感想でした。



## N-ENP[B] 2009 後期アンケート

### 19. プログラム全体を通して5段階で評価してください。



5. とても有益だった	4
4. 有益であった	3
3. どちらかという有益	0
2. どちらかという有益でない	0
1. あまり有益でない	0
0. 有益でない	0

### 20. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 講師の先生がとてもやさしくてわかりやく英語で話してくださりわかりやくい授業でとてもよかった。
- ・ 実際に患者さんの病院内など実践的な内容が入っている授業でとてもよかった。
- ・ 前期と後期にわたり同じメンバーで学習できてよかった。
- ・ 週末の過ごし方や趣味のことなど、とても身近な話題から英語に触れることができ、テキストを読みながらではなく、会話としての英語を感じることができた。
- ・ テキストなどの型にはまらず、みんなの会話の流れの中で英語が学べたことが楽しかった。看護師として働く場面を想定した授業内容がすばらしかった。
- ・ 授業が充実していたのも先生が楽しく盛り上げてくださったからだと思います。
- ・ 病院内を案内できる授業内容があり、実践活用できることを学ぶことができ非常に良かったです。また、会話は全て英語という授業方法も良かったです。
- ・ 外国人が病院にきてすぐに役にたつような内容のプログラムであったこと。
- ・ 英語で質問されて、メンバーが理解できない内容の時は分かりやすい簡単な内容に言い回しを変更して頂き、分かりやすかったこと。
- ・ 英語の発音がとても分かりやすかった。
- ・ テキストの内容だけでなく、受講生が日常の業務の中で行なっていることを紐解きながら、英会話に結び付けていただいた点。
- ・ 患者さんに対応する場面設定で授業をしていただいたので、実践で活用できること。

### 21. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 改善点は特にありません。はじめに CD をいただいたことで自分がまず 1 歩、ヒアリングで英語に近づけたと思います。
- ・ 特に改善点はありませんが、受講生の学習意欲を引き出すために、時々、学習グループのメンバーチェンジ（もしくは 2 グループ全員でも可）など、メンバー構成を変化させるのもいいのではないのでしょうか。
- ・ 実践で活用できる内容で面白く授業を進めていただいたので、とても楽しくできました。もちろん、南部先生の授業の進め方がよかったと思います

### 22. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？

- ・ 実施期間については前期と後期にわたり 1 年できたことは良かったです。講義時間などは問題なかったと思います
- ・ 適当だと思います。遅刻者が多く先生にはご迷惑をおかけしたと思いますが、それ以降になると体力的に無理があったかと思います。その後も仕事が残っていることも、特にスタッフは多かったようですので。
- ・ ちょうどよい

- ・ 90 分は妥当だと思います。
- ・ 今回は自分の都合で欠席したことが残念でしたが、1 回の時間は良いと思います。期間は 10 回ではなく、一人の先生にもう少し長い期間に教えて頂くといいのではないかと思います。
- ・ 現在の実施期間でよいと思います。
- ・ 妥当と思います

## 23. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。

- ・ 実際に英会話を必要な患者さんや研修生などの看護場面で活用できるようになりたいです。
- ・ これが最も辛い質問です。長期的には高校生の息子と英語で話せるようになりたいです。自宅にある英語の絵本の hearing を目指します。中期的には、もちろん、病院にみえる英語圏の方々に対し、自分で案内ができるようになりたいと思いますし、ならなければならないと思います。
- ・ ゆっくりでも外国人に伝わるレベルの英語が話せると同時にリスニングができる。
- ・ 具体的な目標はないのですが、英語力をあげスムーズに日常会話が聞き取れ、話せるようになりたいと考えています。
- ・ 配布された CD を聞いて勉強すること、論文を読めるように常に英語に触れる機会を日常的に作りたいと思います。
- ・ 最終目標は、研究論文を英文で発表したいと思うことです。中期的には、海外から見える患者や研修の方に、自分の部署の特徴くらいは英語で説明できるようになりたいです。
- ・ 中期目標：基本的な日常会話ができる。長期目標：外国の方とコミュニケーションがとれる。

## 24. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。

- ・ 今回 1 年間を通して講義に参加でき、貴重な機会をあたえてもらえて本当にありがとうございました。今回の学びを今後に役立たせていきたいです。
- ・ 通じない英語も笑ってごまかし、身振り手振りで大きな声で話します。分からないと言われたら、アイムソーリーと言って絵を描きます。一種の開き直りかもしれませんが、笑ってそうできるように頑張ります。先生の英語はとても聞き取りやすかったのでありがたかったです。本当にありがとうございました。
- ・ とても楽しく英語の授業に参加させていただきました。後期は事情があり、なかなか参加することが出来ず残念でした。また、機会があればぜひ参加したいです。有難うございました。
- ・ 外国人から質問されても身振り手振り、英語の単語でウェルカムの気持ちで対応できるのではないと思うようになりました。
- ・ 4 でも書きましたが、もう少し期間の延長を希望します。(予算の関係で難しいのかもしれませんが) 今後、予算の人数以外での参加したい時は授業料(1 回分ずつ)をだして出席できるシステムになると継続できるのではないかと思います。
- ・ ENP の良さは、英会話への興味を深めることができる事だと思います。それは、講師の先生方のご指導の賜物だと思います。途中で、出席できない事もありますが、リタイヤする気にはなりませんでした。
- ・ いざ英語を話すとなると、単語、基本的な文法も話せない。最初の単語からでてこないの、会話するという目標は果てしなく遠いです。人の会話は聞くのが好きでした。不出来な生徒で申し訳ないと思います。でも、授業は楽しかったです。ありがとうございました。

## N-ENP [C] 授業報告

8-Oct-09

Toyoko MIZUNAGA

The latter term ENP class stated.  
Our new teacher is Ms. KAYO SHIRASAKA.  
She said "It is important to continue your studying." That right.  
I did not continue studying English.  
But this time I am going to enjoy myself and continue studying English.

後期の ENP のクラスがスタートしました。  
今回のクラスの先生の名前は白坂かよ先生です。  
先生は「英語の勉強は続けることが大事です」と言われました。その通りです。  
私は英語の勉強を続けていませんでした。  
でも、今回のクラスでは楽しみながら英語の勉強を続けるつもりです。

15-Oct-09

Tomomi KUBOTA

We had ENP class yesterday.  
In the beginning, we studied grammar.  
We learnt some sentences and the phrases.  
Next, we studied our textbook, the page of the medicine.  
We role-played and read each part.  
I think I was good at playing patient role.

19-Nov-09

Shiho HIDAKA

In today's class we practiced expressions for international students from Thailand.  
We actually went to the ICU ward and guided our teacher, who played the student.  
It was very difficult to use right expressions or to explain medical equipment in English, so I just said words, not sentences, with gestures.

タイからの留学生への案内という設定でした。  
ICU 病棟へ実際行き、ICU 病棟の案内をしました。  
英語での表現や医療機器の言葉がとても難しかったです。  
単語やジェスチャーでの表現になってしまいました。

26-Nov-09

Tomomi KUBOTA

Two students came to the class yesterday.  
We started the class by asking question about grammar.  
Next, we guided Ms. Shirasaka inside the hospital from the first floor to the third floor.  
It was not possible to explain well in English.  
We found ourselves having spent more time than usual. It was already 7:40 p.m.  
We were tired very much.

2-Dec-09

Kazuko SHIMAMOTO



We sang Carpenters [Top of the world] in the beginning. Next, we studied English grammar. Because we didn't grammar for a long time, we found it very difficult.

Ms. Shirasaka from Operation Room guided her working place. There were various machines in the operating room. The operating room seems to be a very busy place.

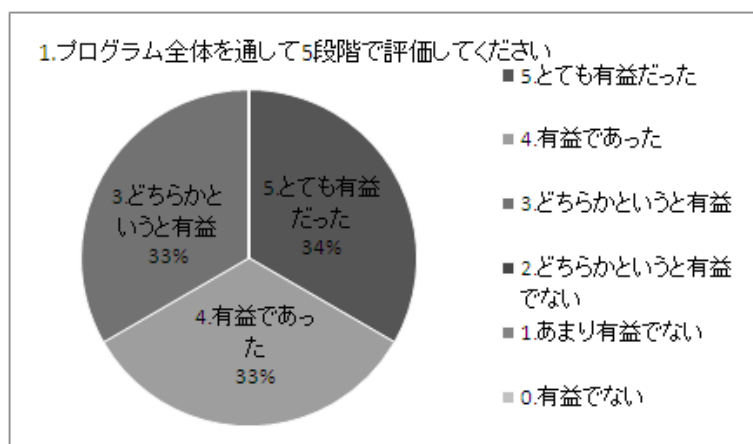
はじめに私たちはカーペンターズのトップオブザワールドを歌いました。次に、英語の文法の勉強をしました。英文法はひさしぶりだったので難しかったです。最後に手術室の案内を、白坂さんにしてもらいました。手術室にはいろいろな機械がありました。手術室は大変忙しいところだそうです。



## N-ENP [C] 2009 後期アンケート

### 25. プログラム全体を通して5段階で評価してください。

(未提出1名)



5. とても有益だった	2
4. 有益であった	2
3. どちらかというと有益	2
2. どちらかというと有益でない	0
1. あまり有益でない	0
0. 有益でない	0

### 26. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ グラマーを再学習できたことが良かった
- ・ プログラムの中で、英語で、病棟の案内を行うことができました。どう伝えたらいいか、いつも悩んでいたことが解消でき、外国の患者さんがみえたときにすぐに活用できるので、
- ・ とてもいい勉強になりました。
- ・ 良かったこと：文法の学習ができたことと、病棟案内が実践できたこと。
- ・ 理由：英文を考えるのに一番文法の基礎がわかっておらず、悩んでいた。今回その学習が深められたことがよかった。
- ・ また、英文での病棟案内を実践することで、貴重な体験ができ、自信につながると感じた。
- ・ 受講者が部署を案内する企画は、説明する者は自分で事前学習をすることにより実際に役立つものになったし、他の者も興味深く、楽しかった。
- ・ 文法の学習は、基本的なもので役立った。昔を思い出しました。
- ・ 苦手な文法を学べたこと。分かりやすく教えていただきました。
- ・ 基本的なグラマーを教えていただき、改めて勉強できた
- ・ メンバーの働いている部署に行き施設説明を受けたのが、実践的で、身についたような気がした

### 27. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 毎回のプログラムが私たちの意見を取り入れた内容でした。臨床ですぐに用いることができる内容で、非常に良かったです。
- ・ 特に思い当たりません。実際に使えるものという観点でよかったと思います。

### 28. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？

- ・ 前期、後期と参加したので期間については特に何も感じなかった。時間は、90分と延長したので充実できた。
- ・ 実施期間は現状のままでよいと思います。
- ・ 業務の関係で開始時間に遅れることがありますが、今までの時間でよいと思います。
- ・ 年末から新年にかけて、他の行事と重なることが多く、できれば11月中に終わってもらいたいと思います。1回、90分は適切だと思います。
- ・ 時間は問題ないと思います。ただ、自分の仕事が忙しく思うように参加できませんでした。申し訳ないと思います。
- ・ 90分で適当です

### 29. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。

- ・ 長期目標は、日常の会話ができること
- ・ 日ごろより、自分で意識して英語と接しなければ、せっかく教えていただいたことも身に付かないことを実感しました。そのため、日常の生活にもっと英語を耳にする機会を増やしていきたいと思います。そして、いずれは日常会話を難なく行えることを目標にしたいと思います。
- ・ 中期目標：毎日英語に触れ、毎日1個以上は新しい単語を覚える。長期目標：病棟で海外の人と接する機会があれば、英語でのコミュニケーションや病棟案内を行う。
- ・ 英語で自己紹介や簡単な仕事や場所などの説明ができ、相手の話の大筋を理解することができるよう、TV番組等も楽しみながら英語に接することをしていきたい。
- ・ 今回は自分に余裕がなく中途半端に終わってしまいました。まずは、テキストを読み返し、また、CDを聴いて英語に触れていきます。
- ・ 英語で、日常会話や看護行為の説明ができる

**30. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。**

- ・ 先生が、毎回工夫してくれて楽しく学習できた
- ・ 非常に勉強になりました。外国の方と今よりコミュニケーションをとれるようにこれからも頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。
- ・ 楽しい時間でした。
- ・ 熱心な指導をしていただきありがとうございました。その指導に答えることができず、申し訳なく思います。
- ・ 後期の研修は、業務の忙しさで出席が悪くて失礼しました

## N-ENP[D] 授業報告

8-Oct-09

Sayoko NAKAMURA

At last, lesson ENP started.  
I went to the classroom with some nervousness.  
Miss ASAGA takes charge of the class.  
She welcomed us with a big happy smile.  
I'll look forward the ENP class.  
The number of group D is seven.  
Ms. Asaga teach Japanese to foreign students in Kibana campus, at the University of Miyazaki. Her students are Chinese and Korean.

Firstly, we introduced ourselves in English.  
I talked about my job. I am the head nurse of psychiatry ward, and I keep eight cats at home.

Everyone was very surprised to know that I keep eight cats!  
Their name are Marron , Leon , Chatrann , Eri , Mammie , Jack , Macc and Musashi.  
Only Musashi has Japanese-like name . He is a naughty boy but very charming.

After self-introduction, we made many sentences using with 5W1H.  
I worked hard , because my English vocabulary is very limited.  
Lastly, we confirmed the next a schedule.  
Next week, we will study Day2(P14~)[Facilities in the Hospital] in the textbook.  
I will study hard the next week!

いよいよ ENP の授業が始まりました。緊張して教室に行くと担当の浅賀先生が、とても元気に楽しく迎えてくださいました。これからの授業がとても楽しみです。  
我々D グループメンバーは7名です。担当教官は宮崎大学木花キャンパスの浅賀先生です。浅賀先生は宮崎大学の外国人留学生達に日本語を教えています。彼らは中国や韓国の学生です。  
まず、各自が自己紹介を英語で行いました。私は精神科病棟の看護師長をしていること、自宅に猫8匹と暮らしていることを紹介しました。猫8匹に、メンバーの皆は驚いていました。猫の名前は、マロン、レオン、チャトラン、エリー、マミー、ジャック、マック、武蔵です。武蔵の名前だけが日本らしい名前です。武蔵はやんちゃ坊主でとても可愛いです。  
自己紹介のあと、5W1Hの質問項目に沿って例文を作成しました。私は英単語がなかなか出てこなくて苦労しました。  
最後に、次回以降のスケジュールを確認しました。次週はテキストのDay2 (p14~)「病院施設」について学習予定です。

15-Oct-09

Manami FUJIURA

We studied Day2(p14~) "Facilities in The Hospital" today.  
We studied them by using cards and a map.  
Miss Asaga taught us in plain English.  
I thought that If I can talk about hospital facilities in English, it is possible to guide foreign patients at any

time.

But I was embarrassed because English words don't come out easily.

Studying in Group D is very happy, and pleasant.

I'm sure this lesson is fruitful.

I look forward to the next week.

We'll study Day3(p18) of the text "Medical department" next week.

今日は、テキストDay2 (p14～)「病院施設」について学習しました。カードや地図を使って浅賀先生がわかりやすく教えてくれました。病院施設内をこれだけ英語で喋れば、いつ外国人の患者さんが来られても院内を案内できるような気分になりました。しかしながら、私はなかなか英単語が出てこなくて苦労しています。でも、このDグループでの学習は、とても楽しく笑いが絶えません。とっても実りのあるレッスンで、また、来週行くことを楽しみにしています。

次週は、テキストのDay3 (p18～)「診療科」について学習予定です。

## 22-Oct-09

Tomoko MIYAHARA

Today we studied Day3(p18) "Diagnosis and treatment department" in the textbook.

We made pairs and answered alternately using words and picture cards.

I felt I understood when I saw written words, but words didn't come out of my mouth at once when pictures were given.

A nurse from Thailand will come to our ward next week, so I feel very nervous. Listening is the most difficult part.

We will study Day4(p22) "Part of the body", next week.

今日は、テキストDay3 (p18～)「診療科」について学習しました。2人ずつのペアで文字カードや絵カードを見て交互に答えていきました。文字を見ると分かったような気分になりますが、絵カードを見てもすぐには英単語が出てきません。来週はタイからの留学生が病棟に見えるのでとても緊張しています。リスニングが一番難しいですね。

次週は、テキストのDay4 (p22～)「身体の部位」について学習予定です。

来週も頑張ります！

## 29-Oct-09

Ayumi YONEI

In today's class, we reviewed what we learned last time, and then learned English words of body parts with a song.

My vocabulary is increasing little by little.

I'm becoming getting used to speak English.

The class creates a homelike atmosphere, so it is easy to ask questions.

I will do my best from now on !!

今日の授業では、前回の復習と、身体の部分の英単語を覚えました。英単語は歌で覚えました。分かる英単語が少しずつ増え、英語を話すことにも慣れてきました。

アットホームな雰囲気のおかげで、質問もしやすいです。

これからも頑張ります。

**5-Nov-09**

**Naoko YAHIRO**

I studied Text Day6 "Patients' Units". We learned about orientation for inpatient and conversation which we use in the hospital. We role-played that conversation.

I'm very happy because I feel like I become an English native speaker.

I look forward to the next class.

Thank you!

今日は、テキストD a y 6 の「入院患者の身の回り」について学習しました。入院患者さんのオリエンテーション時や、入院生活中によく使う会話を英文を学び、ペアでロールプレイングを行いました。英語が話せるようになった気分になり、とても楽しかったです。

次のクラスも楽しみです。

**12-Nov-09**

**Chihiro ONO**

In today's class, we reviewed what we studied in the last class, and learned English words for patients' units. We were able to review it happily while playing a game.

I feel it is difficult to speak in English because I can't say properly what I want to say in English.

But I can study English happily thanks to the bright atmosphere of this class.

I want to get to speak more English. I'll do my best from now on.

今日の授業では、いままでの復習と、患者さんの身の回りについての英単語を覚えました。いままでの復習ではゲームで楽しみながら復習することができました。

言いたいことを英語でどのように言っているかわからず、難しいと感じることもありますが、クラスの明るい雰囲気のおかげで楽しく勉強することができています。もっと英語を話せるようになりたいです。これからも頑張ります。

**26-Nov-09**

**Sayoko NAKAMURA**

Today, we had a lot of absentees and only two people attended the class, Miss Fujiura and me.

Since Miss Asaga was worried about moving on to the next part in the textbook because of many absentees, she decided to give us a special lesson of English conversation instead.

We felt how lucky we were!

We introduced each other's experience during the last long weekend.

I talked about my shopping and my cousin's birthday party at her friend's house.

Miss Fujiura talked about a golf competition game. It's sponsored by Professor Onituka in Surgery.

Miss Asaga went to her friend's wedding party which was held near Kumamoto Castle.

Lastly, we confirmed the next schedule.

Next week, we will study Day12(P62～)[Perioperative Care] in the textbook.

今日は欠席者が多く、参加者は藤浦さんと中村の2名のみでした。浅賀先生は欠席者が多い中、授業を予定通り進めるのを心配して、我々に特別授業として英会話レッスンをしてくださいました。私たちは、とても得した気

分になりました。3人で連休中に何をして過ごしたかを紹介しました。私は、買い物や、いとこの誕生日パーティに行ったこと、藤浦さんは外科の鬼塚教授杯のゴルフコンペに行ったこと、浅賀先生は熊本城近くで行われた友人の結婚式に参加したことを話しました。

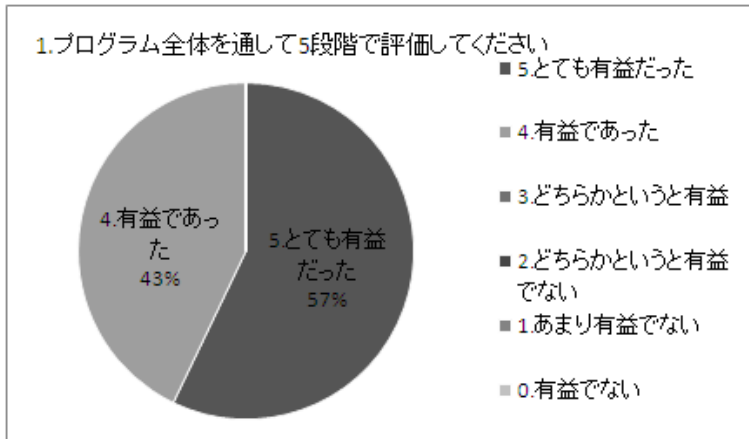
最後に、次回のスケジュールを確認しました。次週はテキストのDay 12 (p 62～)「周手術期ケア」について学習予定です。





## N-ENP [D] 2009 後期アンケート

### 31. プログラム全体を通して5段階で評価してください。



5. とても有益だった	4
4. 有益であった	3
3. どちらかという有益	0
2. どちらかという有益でない	0
1. あまり有益でない	0
0. 有益でない	0

### 32. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 看護師用の実践英語だったので、今後役に立つと思います。なかなか英語を覚えることが出来なかったが、ワークブックを携帯しておけば記憶をたどり活用できると思います。
- ・ 病院で勤務する中で、外国人の患者さんとのコミュニケーションをとるために必要な英語を学ぶことができてよかった。ゲームをしながら楽しく学ぶことができたこともよかった。
- ・ 浅賀先生の教え方が非常に判りやすく楽しかった。院内で使える英単語がいっぱい学べました。
- ・ 良かった部分：英語を話すことに対して抵抗感が少なくなった。理由：みんなが同じようなレベルであったこと、「この時間は英語しか話してはいけない」という取り決めがあったこと、クラスの雰囲気がとても良かったこと、間違っても恥ずかしくないという雰囲気があったこと。
- ・ 案内や、病状の質問の会話表現が良かったです。仕事や日常で、異国の方に接するときに、すぐに、役立ちます。自信ができました。
- ・ テキスト内容が、院内ですぐに使えるような内容が詰まっていた良かったです。
- ・ 自分たちの希望する授業や、段階をおって授業をしていただいて、良かったです。

### 33. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 特になし

### 34. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？

- ・ 時間設定は良いと思います。ただ、業務が忙しく開始時間に遅れたり、休んだりしたため申し訳なく思っております。
- ・ ちょうどよいと思います。
- ・ ちょうど良いと思います
- ・ 日勤のあとなどに授業があることもあるので、時間については丁度よいと思いますが、期間についてはもう少し長く同じクラスでいたいな・・・と思います。
- ・ 実施期間は、3ヶ月で集中しやすく、よかった。時間は、ちょうど良かった。
- ・ 適当であると思います。
- ・ 日勤の忙しい日では、間に合わないこともありますが、勤務希望等を出して、調整しています。

### 35. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。

- ・ 英会話の聞き取りがなかなか難しいため、頂いたCDを聴く機会を作るよう努めます。
- ・ 外国の患者さんがいらっしゃったときには積極的にコミュニケーションをとれるようになる。
- ・ 例えばどのようなことを記載すればよいか、答に困りました。頂いたテキストを活用し、また、習った英語

を忘れないように繰り返し見たり話したりしようと思います。長期的な具体的な目標はまだ立てていません。

- ・ ENP を継続するか、アドバンスなど ENP の次のコースに移行するかどうかはまだ迷っていますが、(できればまだベーシックでいたいので) 産婦人科は他の診療科よりも英語を必要とする場が多いと思うので、何らかの形で英語を続けていかなければいけないな・・・と思っています。具体的なこととしては、教材の CD をかけて英語が耳に自然に入ってくる環境を作る(車の運転中など)、最低限覚えておきたいテクニカルタームを覚え書きとして勤務中にポケットに入れておく、教材の内容を意識的に振り返るようにする・・・などです。
- ・ 外国の患者さまのプライマリナースとして、意思疎通が図ることができる程度に、英語力向上させる。外国の医師や、見学の方の案内ができる。入院などで、お困りの外国のかたに対して、ボランティアなどができる(と良い・・・)。
- ・ 学習した内容を忘れないよう、定期的に見直していきたいと思います。
- ・ 産婦人科は、日本人以外のかたも多いので、言葉でストレスを感じないように、入院生活をできるような、最低限の会話は出来るようになりたい。

### 36. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。

- ・ 学生時代の授業と異なり、和やかな雰囲気で、楽しんで参加できました。ありがとうございました。
- ・ 同じコースをもう一度習い、学習したいと思いました。
- ・ 南部先生、浅賀先生に出会えて、本当に良かったです。苦手な英語を面白く教えていただきありがとうございました。
- ・ 英語が話せるようになりたいという思いは以前から強くあったので、一般の英会話教室の医療英語コースなどの案内を調べてみたりしていたんですが、価格も非常に高く・・・と悩んでいたところに ENP の参加案内があり、受講することとしました。自分の働く職場内の授業であるため、自分が知りたい、学びたいと思う内容をダイレクトに勉強する事が出来て、本当にためになりました。短い期間でしたが本当にありがとうございました。次回 ENP を受講するかどうかはまだ迷っていますが(アドバンスにはとてもついていけないと思うので) 英語は続けていきたいとおもいます。
- ・ 看護師対象で、医療部門に絞ったカリキュラムでしたが、日常英会話になると、もっと楽しさがアップして、レッスン希望者が増えると思います。講師の先生が、いろいろと工夫してくださり、とてもわくわくしながら、なごやかな雰囲気で、勉強を進めることができました。これからも、続けていきます。間違ってもよいから、会話すること、続けることという、講師からのメッセージを大事に実行していきます。ありがとうございました。

## N-ENP[E] 授業報告

8-Oct-09

Kumiko NAGATOMO

Five people were present for the class.

Mrs Nakashima was absent because of her summer vacation.

First, we introduced each other telling our names, specialties, work places, hobbies, and a favorite thing.

Next, we decided our English pet names.

Mrs. Kurohara is Conan, Miss Tanimiya is Candy, Miss Kumeda is Samantha. Mr. Toyonaga is Andy, Miss Nagatomo is Diana, Mrs. Nakashima is Minnie,

Then, we decided on the content of the class from the textbook,

The contents are Day 5, Day 6, Day 7, Day 10, Day 11, Day 13, Day 14, Day 17, Day 20,

After we decided on the contents, we learned English name for the objects in the room, how to ask one's name and one's job.

Lastly, we learned how to explain the direction and location,

I spent happy time for the first time after a long time.

I don't know many words, but I understand contents in lesson through the teacher's advice,

I will listen to English every day so that I can understand them and express them in English.

出席者は5名で中島さんは夏季休暇により出席しなかった。

1回目の授業は、名前と職業、勤務している場所と趣味や好きなことを自己紹介した。

次にメンバーのアメリカ名を決めていった。黒原さんはコナン、谷宮さんはキャンディー、久米田さんはサマンサ、豊永さんはアンディー、長友はダイアナ、中島さんはミニーと決めた。

その次に、テキストの中から授業内容を多数決で選んだ。内容は Day 5、Day 6、Day 7、Day10、Day11、Day13、Day14、Day17、Day20 である。

内容を決めた後は、部屋にある物の名前の答え方、職業と人の名前の尋ね方について学習した。

最後に、方向や位置の言い方について学習した。

久しぶりに楽しい時間を過ごした。わからない単語があったが、先生のアドバイスで何とか授業の内容は理解できたと思う。日々英語を聞き、単語を覚えて表現できるようにしようと思う。

15-Oct-09

Mariko KUROHARA

Firstly, Mrs. Nakashima introduced herself because she was absent last week.

Next, We reviewed what we learned previous week. We translated facilities' names from Japanese to English, English to Japanese. We also studied "Direction" and "Location" while walking around, and we learned verbs, too.

Today, We mainly studied Day 5, "Medical Terminology".

We learned about the root of gastric or hepatic etc, the prefixes, such as hyper or pre- etc, and suffixes, like -it is or -logy etc.

We've finished Day2, and we feel we're becoming getting use to speaking English

まず、先週欠席した中島さんの自己紹介を行った。

次に、先週の復習を行った。

病院施設の名称を日本語から英語に、英語から日本語に換えていった。また、場所を説明するのに、「方向」「位置」について学び、実際に歩いた。動詞についても学んだ。

今日は、「Day 5」を学習した。

「Day 5」は、医療専門用語の構造である。胃や肝臓などの「語根」、高い、前のなどの「接頭辞」、そして炎症、学問などの「接尾辞」を学んだ。

2回目の授業が終了し、英語で話すことに少し慣れたと感じる。

**22-Oct-09**

**Shingo TOYONAGA**

We studied Day6 “patients Units” in the textbook today. The teacher taught us English word and explained clearly using cards. Today’s lesson was easier than the last lesson because, there were some words which we often hear at work. In the ending, we studied general grammar. The class is very much fruitful. look forward to the next week. We will study “Patients Observation and Vital Signs” next week.

今日は、テキストD a y 6 「入院患者の身の回り」について学習しました。単語はカードを使って、分かりやすく教えてくれました。今回は、普段良く耳にしているような単語もあり、前回の授業に比べて皆簡単だったと話していました。授業の最後には、一般的な文法について教えてもらいました。とても実りのある授業で、また、来週の授業も楽しみです。次週は、テキストD a y 「」について学習予定です。

**31-Oct-09 Tomomi KUMEDA**

This week’s lesson was ‘Patient Observation and vital sign.’ We use those word when we work, so easily understand them.

But, words of machines of vital signs are very hard to learn.

Especially ‘sphygmomanometer’ is very hard to remember.

English class is fun. I’ll do my best from now on!

今週の授業は「患者の観察とバイタル・サイン」でした。私たちが、普段使っている言葉なので、分かりやすかったです。しかし、バイタルサインを測る機械の名前が難しかったです。特に、「血圧計」は難しかったです。

授業は、いつも楽しいです。これからも、頑張りたいです。

**11-Nov-09**

**Chiho NAKASHIMA**

This week’s lesson was “Medication” .

There were some words we usually use, too.

Some pronunciations are difficult, too.

The lesson is fun.

今回のレッスンは「与薬」でした。

普段何気なく使っている単語もありました。発音が難しいのもありました。

レッスンは楽しいです。

**12-Nov-09**

**Manami YANIMIYA**

Medial English is very difficult, but I enjoy N-ENP.

I hope to speak English more.

体調不良のため、レポートの提出が遅くなり申し訳ありません。

テキストの学習は、私にとって難しく医療英語単語は難解です。

発音を聞くだけで必死です。

しかし、授業の前にする、一般的な日常会話の英会話は楽しく感じます。

日常英語に触れる機会がないため、研修に参加して英語に慣れていきたいと考えています。

**24-Nov-09**

Five people were present for the class.

Candy was absent because her son had a fever.

At first, we learned how to ask and answer about the schedule of the week.

Next, we studied expressions such as every week and every year, and made sentences in English.

Lastly, we learned Day13 "Chronic Care Nursing" in the textbook.

The content also had words with difficult pronunciation, and even familiar words at work didn't come out of the mouth.

After the class, we asked questions of Andy, who went to Tokyo Disneyland over the previous weekend for his vacation. He kindly brought some chocolate from TDL and gave them to us. It was very delicious.

Next week's class is postponed because our teacher will have to make a trip to South Korea. Therefore, the final class will be on December 17.

出席者は5名でキャンディは息子さんの発熱により欠席した。

今回の授業は、まず週間予定の尋ね方と答え方を学習した。次に毎週や毎年という表現を学習し、その例文を英語で作成した。

最後は、テキストの Day13 慢性期看護を学習した。

Day13 の内容は、普段よく使っている言葉もあるが発音が難しい言葉もあり、すぐ出てこない言葉があった。

授業終了後は、先週末に休暇で東京ディズニーランドに行ったアンディに質問をして、

お土産のチョコレートを皆でいただいた。とてもおいしかった。

先生が韓国旅行のため来週の授業は、休みとなった。そのため最終授業日が 12 月 17 日の予定となった。

### 3-Dec-09

**Tomomi KUMEDA**

This weeks' lesson was 'cancer nursing.'

The number of patients with cancer has increased these days. The side effect of chemotherapy, one of the treatments for cancer, is severe, and patients on this treatment look having hard time. There is an example sentence saying "when you talk to patients with cancer, be a good listener." How true it is! Although it is difficult to listen to when I am busy, I would like to try to do so any time.

I want to practice nursing with the tender mind.

We have only one class left. I'll enjoy until the very last moment.

今週の授業は「癌看護」についてでした。

今、癌の患者さんが増えています。癌の治療のひとつである、化学療法は副作用が強く、患者さんはきつそうです。例文で、「がん患者さんと話すときは、よく耳を傾けましょう。」とありましたが、まさに、そのとおりです。忙しいと、傾聴することが、難しいですが、できるようにしたいです。心のある看護をしていけるようにしたいです。

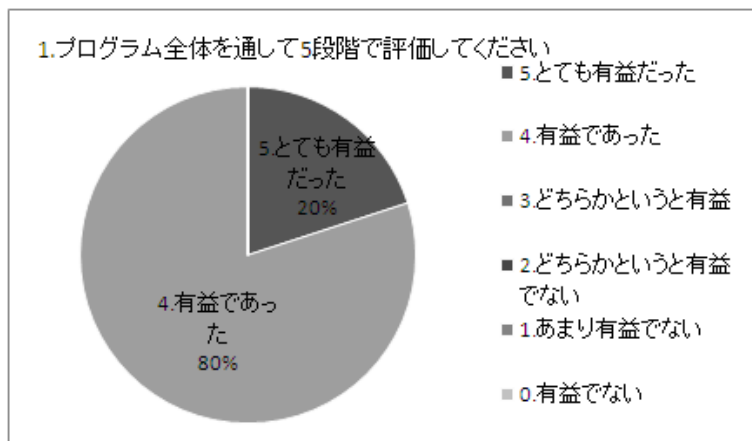
あと、授業も残り一回となりましたが、がんばっていきたいです。



## N-ENP[E] 2009 後期アンケート

### 37. プログラム全体を通して5段階で評価してください。

(未提出1名)



5. とても有益だった	1
4. 有益であった	4
3. どちらかという有益	0
2. どちらかという有益でない	0
1. あまり有益でない	0
0. 有益でない	0

### 38. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 少人数であったこと。みんなで考え、質問できるため。
- ・ 医学の英語と日常の英会話を組み合わせて学習させていたところ
- ・ 個人のレベルに合わせてレッスンが行われた事。
- ・ テキストとは別に、文法を教えていただいたこと
- ・ 病院の紹介や各診療科関連の単語などテキストの内容が実際に活用できるものである。

### 39. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 特になし

### 40. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？

- ・ 時間は丁度良かったです。
- ・ 60分程度でも良いのではないかと
- ・ 良いと思う
- ・ 適切だとは思いますが。あつと言う間に過ぎますが。
- ・ 実施期間は週1回、10回程度、90分で良い

### 41. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。

- ・ 子供と一緒に英語のTVなどや、洋楽が聞けるようにしたいです。英語に触れるようにしたいです。
- ・ 身近な英会話から再度学習していきたいと考えています。
- ・ 中期的には、英語になれること。長期的には患者さんに英語を話される方がいたら、積極的にコミュニケーションを取っていく。
- ・ 中期目標：いただいたCDを事ある毎に、聴くこと
- ・ 現在努力していること：①今は、車に乗せているので、長時間（トンネルの中は特に）のドライブなどには聴くことを心がけている。②日常英会話の本は購入した。③DVDは、英語と日本語の訳を比較しながら観る。④日常で英語を耳に入れる時間を多くする。
- ・ 長期目標：英語の研修に参加することで、①英語を少しでも聞き取れる、②英語を少しでも話せる。
- ・ 継続コースでの学習へ進めるように、まずベーシックコースで習ったテキストの内容を復習し、単語を覚えること。長期的には、患者や施設見学者へ英語で会話ができるようになるのが目標である

### 42. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。

- ・ 仕事の後なので、遅刻や欠席をしました。申し訳ありませんでした。少しでも自信を持って、英語で答えら

れるようになりたいと思っています。ありがとうございました。

- ・ 英語を学習する機会をいただきありがとうございます。今回、学習したことでやる気が出てテキストを振り返り復習しているところです。一度には覚えられないと思いますが、単語を覚えて会話になるようにしていきたいと思っています。



## 0-EMP[A] 授業報告

13-Oct-09

Akemi NAGATOMO

The class of the latter term began on today.

Firstly, there was the explanation of the class plan of this term.

All the members will give an English speech about specific theme for one minute every time, By the way, the first theme is "autumn". I look forward to listening to each one's "autumn".

Next, I learned it about the form of English e-mail.

There was the explanation about a basic format and we learned the forms of making a good title. It is important to write briefly and concretely when you decide it.

My aim is to become able to exchange English email with overseas universities at work, but I have a rough road before me and it will take a long way to go.

今日から後期の授業が始まりました。

始めに、後期の授業計画の説明がありました。

後期では、1つのテーマについて、全員が1分間スピーチすることとなりました。ちなみに、次回のテーマは「秋」です。みんなの「秋」が聞けるのが楽しみです。

次に、メールの書き方について学びました。

基本的なメールのフォームについて説明があった後、良い件名の書き方等について学びました。件名は簡潔に且つ具体的に書くことが重要です。

仕事で、海外の大学とメールのやりとりが出来るようになることが目標ですが、私にとって道のりは陰しく遠いようです。^^;;

20-Oct-09

Saori NASHIRO

First, we rehearsed a speech. Speech time was limited to one minutes per person, and today's theme was "Autumn." I was so nervous. One minutes sounds like a long time, but it goes by so fast.

Everyone likes autumn, and enjoy autumn in various ways. Hearing everyone's speech, I had a lot of fun. I want to get conversation skills of making other members interested more.

初めに、スピーチの練習をしました。スピーチの時間は、1人1分間で、今日のお題は「秋」でした。とても緊張したけれど、1分間という長いようで、あっという間でした。

みんな、秋が好きで、さまざまな方法で秋を楽しんでいました。みんなの話を聞いていて、とても楽しかったです。私ももっと、人の関心を引く会話をする能力を身につけたいです。

27-Oct-09

Kana IWASE

We made a speech about "Lunch" in front of the audience.

We introduced a special-restaurant and talked about a special-menu each other.

I putt what I'm interested into English to make a speech every time, so increasing talk material and my vocabularies are increasing. It's very informative.

Afterwards, we learned "how to write e-mail in English" and "how to handle phone calls"

I learned the way to ask someone's name in a formal phrase. I try out the formal phrase when I get a chance.

みんなの前で「ランチ」についてスピーチをしました。

それぞれ、おすすめのお店を紹介したり、好きなメニューを語りました。

毎回スピーチをすることで、自分が興味を持っている事柄を英語に訳すので、会話のネタや語彙が増えて、とて

も勉強になります。

その後、「Eメールの書き方」と「電話応対」を勉強しました。

名前を尋ねる際にもフォーマルな言い回しがあることを知って、機会があれば使ってみようと思いました。

**10-Nov-09**

**Nana YUMAE**

English Speech for one minute.

How to handle phone calls.

### **Impression**

I talked about my favorite movie for one minute. Translating/ Changing Japanese into English is very difficult.

I have a hard time writing in English. I've gradually become able to catch what the others say.

Learning how to handle phone calls is very helpful.

I want acquire skills for writing e-mail and handling phone calls more.

1 分間スピーチは、好きな映画について発表しましたが、言いたいこと全てを英語にするのはとても難しく、苦戦しました。他の人のスピーチを聞いていて、ちょっとずつはみんなの言ってることが分かるようになってきました。

電話応対の仕方は、いろんなパターンがでてきて、とても参考になりました。

メールの書き方や電話応対など、仕事でも使うようなものをもっと身につけていきたいです。

**24-Nov-09**

**Ayumi TANAKA**

We reviewed a previous lesson.

We practiced various expressions through business English telephone manners.

Because I was absent the previous week, I did not have the handout.

I thought I should have confirmed first.

However, the teacher handed it to me, so I managed to follow.

We learnt authentic pronunciation and repeated them paying attention to linkage.

But, I still cannot have much confidence to speak properly yet.

Five people including me came to the class today.

I'm looking forward to the next lesson.

**8-Dec-09**

**Yasuko NAGAMINE**

We made one minute speech and talked about "sweets and snack".

About Ms.Yumae's speech: She craves for "Rummy" chocolate in winter. When she eated this chocolate, she felt a year passes so fast.

About Ms.Tanaka's speech: She said that Offering sweets is one way to become friendly each other, If I didn't tell my favorite taste fast, I feel more uncomfortable.

Then, we talked about "fast"and"early".

Fast (Speed) for example fast food

Early (Time) for example early morning

New words: tidbits, all-you-can-eat, refuse=No

My one minute speech: I don't like very sweet foods. But recently, there are a lot of sweets not too much sweet. So, I eat sweets sometime. For example, I eat a desert after dinner. But when I eat a desert that I need a black coffee or black tea. Ms.Nashiro and I bought some doughnuts on last Friday night. I have not finished eating it yet. I guess that her family has finished eating it in a moment.

P.S She said, my children are like a hyena....

私たちは甘いものやお菓子について一分間スピーチをして、それについて話し合った。

湯前さんのスピーチについて：彼女は、冬になるとラミーチョコレートが食べたくなり、そのチョコレートを食

べるとき、一年は早いなあと感じるそうです。

田中さんのスピーチについて：彼女は、お菓子をわけたりするのはお互いに親しくなる一つの方法だけど、自分の好きな味の物を言わないでいると早くなくなってしまう、残念！と思うことになる。と言いました。

そこで、fast と early の使い分けを話し合った。

Fast 速度的なもの 速さ 例えば、ファストフード

Early 時間的なもの 早い 例えば、早朝

初めて知った単語

おつまみ(一口サイズの)・食べ放題・拒絶する

私のスピーチ

私はとても甘い食べ物が苦手です。でも、例えば、最近のケーキの多くは甘さ控えめのケーキが多いです。だから、時々スイーツを食べるようになりました。例えば、夕食のあとのデザートです。でも、そんな時、砂糖抜き

のコーヒーや紅茶が必要です。

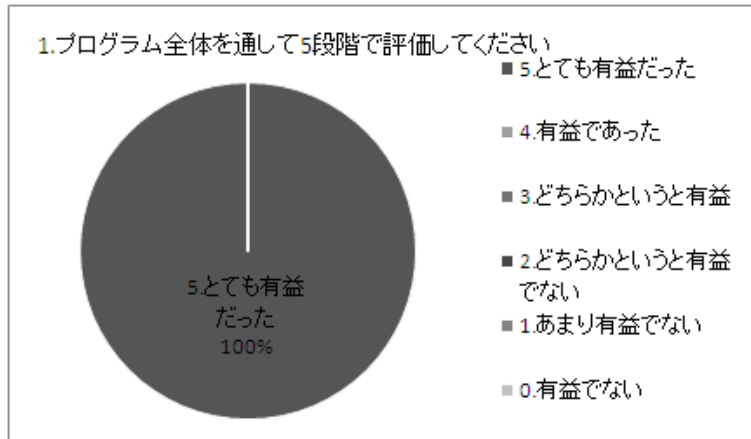
名城さんと私は、金曜日の夜、いくつかのドーナツを買いました。私はまだ全部食べていませんが、私が予想するに、彼女の家族は一瞬で食べてしまったでしょう。

追伸 彼女は「私の子供たちは、ハイエナのようにだ」と言いました。(笑)



## 0-EMP[A] 2009 後期アンケート

### 43. プログラム全体を通して5段階で評価してください。



5.とても有益だった	10
4.有益であった	0
3.どちらかという有益	0
2.どちらかという有益でない	0
1.あまり有益でない	0
0.有益でない	0

### 44. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 一分間スピーチのおかげで自宅学習をするきっかけが出来て良かったと思います。
- ・ 分担して作成した電話表現・施設案内・送付状などは、マニュアルとして形が出来たので大変有意義でした。一分間スピーチは、毎週の自主学習とすることができたので大変良かったです。
- ・ すぐに役立ちそうな会話を重点的に教えてくださるところです。また、声に出して練習させてくださるので、英語=勉強というイメージがなくなりました。
- ・ 電話対応の勉強ができたこと：…とっさにかかってくると思うので、いざというときの為にとても役に立つと思ったからです。教えていただいたことをまとめて医局の永久保存版にしたいと思いました。
- ・ ～英語の電話表現～基本的な電話対応の受け答えを皆さんと練習でき、それ以上に自分では勉強できない英語表現を学ぶことができたと思います。
- ・ 1分間スピーチ：各人のスピーチの内容も興味深く楽しめたことはもちろんですが、1分間周囲に自分の伝えたいことを話す、ことは結構難しくもあり、このような機会をもち、少しでも慣れることは大事だと思います。テーマに即した内容、時間をみて、取り組めたらよかったのですが、全くとっていいほどできなかったのは、反省すべき点です。
- ・ 電話での受け答え（英語表現）：これは実際大変役に立ちました。マニュアルづくりもいい勉強になりました。
- ・ 1分間スピーチで、内容を広げたり、よりよい言い回しを教えていただいたりした事は、とても身についたと思います。
- ・ 毎回の一分間スピーチが良かったです。皆さんの文章で初めての単語や言い回しが学べたのはもちろんのこと、お互いをより近く感じることができ、リラックスして授業に臨めました。
- ・ 他の講座の方と話す機会も増え、英語を使ってコミュニケーションがとれてよかった。
- ・ 実務に有益な会話の練習や筆記の勉強ができてとてもよかった。

### 45. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 同じ題材でスピーチをしあい、その中で表現方法を学んでいく…というのが私はとても楽しくて勉強になりましたが、それに時間をとられたりしていたので、スピーチ以外のコミュニケーション方法があればいいなと思いました。何かありますでしょうか…
- ・ すごく丁寧にご指導いただいてありがたく思います。すごく好きなクラスです。

### 46. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？

- ・ 一番多忙になる年末年始を空けてもらっているのも問題ありません。

- ・ 実施期間・時間とも適切であったと思います。
- ・ 期間も、時間もちょうど良いと思います。
- ・ 丁度よいと思います。
- ・ 今まで通りで問題ないと思います。
- ・ 後期はほとんど参加できませんでした。期間・時間ともこれでよい、と思います。
- ・ 前期に比べ、どうしても仕事の都合上行けない事があり残念でした。
- ・ ちょうどいいと思います。
- ・ 実施時期は平成21年度はよかったと思います。年度初めや年度末は業務が重なり出席が厳しくなるかもしれません。(大学院授業が夕方あるため)
- ・ 丁度良かった。

#### 47. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。

- ・ 英語で話したいことや英語で聞きたいことがあっても時間をかけないと言葉が出てこないのも、もっとイディオムやフレーズを覚えたいです。
- ・ 中期的には、毎日英語に触れる。DVD・CDでヒアリング、英語の本を読むなど。長期的には、英語の苦手意識の克服。
- ・ 自分の部署の説明を、外国からいらっしゃった方にもできるようにしたいです。また、一方的な説明ではなく、質問に答えたりと双方向でやり取りができるようにしたいと思います。
- ・ 友達が春から海外に行くことになったので、遊びに行くためにも日常会話を少しでも多くマスターするのが今後の長期目標です。中期目標は、linkingがもっとうまくできるようになりたいです。
- ・ <中期目標>日常生活で困らない程度の英語力を身につけたいです。前期と同様です(達成度が低くて。)
- ・ 中期目標: 研修で習得した内容を職務上効果的に活用すること(その一)(そのための自宅学習の時間を持つ努力をすること)。長期目標: 研修で習得した内容を職務上効果的に活用すること(その二)(上達したと実感できること)。
- ・ 伝えたいことを英語でちゃんと伝えられるようになる。
- ・ 前期同様もっと真面目にこつこつ取り組むこと、です。たまっている事が多すぎて何から手をつければいいのかわからなくてそのまま、という負の連鎖を断つためにAsahi WeeklyとそのCDを一時中断して今までの分を消化し、最初に先生からいただいたテキストをマスターして後期をむかえることが目標です。
- ・ 日常会話ができるようになりたい。文章を書くことも含めて。
- ・ 英語に対する苦手意識を無くし、積極的に自分から留学生や海外からのお客様と会話ができるようになる。

#### 48. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。

- ・ 後期から始まった一分間スピーチや先生への英語のメールは本当に勉強になりました。もっと英語に関わりたと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。
- ・ 音声CDが頂けるということでとても楽しみにしております。そして英語の電話がかかってこないかな〜と、心ひそかにワクワクしております。(・・・きつとかかってきたら慌てるのでしょうか。)
- ・ たまに皆様のスピーチのみで終わったりしたときは、とても楽しかったんですが、他にもいろいろ習いたかったなあと。時間を少し延長してほしかったなあと思うことがありました。
- ・ 翌週の予定の事前プリントとかは、穴埋めとかでやりやすかったのも、予習感覚でできたからよかったです。あれならやれるかなあと思いました。
- ・ 1日の日常生活に必要な英会話を学びたいです。朝起きてから夜寝るまでの日常会話で「おはよう」からスタートして「おやすみ」まで、自分なりに英語で表現してみたいです。これを毎日続けることにより、身に付いてくと思いますし、日々新しい表現を覚えることもできると思います。
- ・ 後期のカリキュラムにほとんど参加できなかったこと、それ以外での学習時間までをも大幅に欠いてしまったことは大きな反省点ですが、前期・後期での実践を通して話すことのイメージがより明確にでき、多少なりとも英語で話すことの不安が軽くなったこと、それが少しでも自信という確信につながれたら、という意識付けがもてたことは大変良かったです。
- ・ 先生の丁寧な御指導のお陰で、留学生が来ても構えることが少なくなったように思います。また、英語で会

話したいという思いも少しずつ出てきました。ただ、留学生から質問されて英語が理解できないことや、なんとなく理解できても、咄嗟に英語で伝えられない事があり、もどかしく感じました。

- ・ 授業の中で、英語の質問に、その場で英語で回答できるようになりたいと思います。

## 0-EMP [B] 2009 授業報告

13-Oct-09

Kyoko TOMATSU

Today, we started the second semester of EOP classes.

At the beginning of the class we enjoyed talking the party we had at the end of the first semester. We were especially amused to hear that Takako and Saki somehow got their shoes mixed up.

Today we focused on Rick's answers to the English questions we sent him by email.

1. Miki

In the expression "fill her up..." (e.g. at a gas station) why is the word "her" used?

2. Takako

When we open the bank account in North America, what ID should we bring to the bank.

3. Misa

How can I make sure people don't mistake my pronunciation of "m" and "n" at the beginning of words?

4. Kyoko

Situation, we're in the lobby at a meeting. A and B don't know each other. A is my boss. B is a guest. Which should I introduce first, A or B?

5. Haruna

When I send an e-mail that is same content for two person, should I write ① or ②?

① Dear Mr. A & Mr. B

② Dear Mr. A

Dear Mr. B

6. Saki

What's the difference between "bring" and "take"?

Lastly, we had a free conversation about Canada. This was the liveliest part of today's class.

20-Oct-09

Saki ISHIKAWA

We began today's class by telling each other how we spent our weekends, and then Rick answered the questions we had emailed him.

We found out how to respond to "tag" questions. Negative questions are sometimes tricky for us, so we need to be careful when we respond. We then talked about some English words that have the same basic meaning but different nuances when we use them. We also learned how to write the opening sentence of a Christmas greeting. I'd like to send Christmas or New Year's cards to the universities with which we have concluded international exchange agreements.

27-Oct-09

Miki TATSUNO

In today's class we began, as usual, with some free conversation talking about what we've been up to recently. I talked about our department moving into a new building, and how I had started packing files and documents into cartons. I was busy all that day doing this.

There were some absent members who had to work, so we spent the class going over some of the questions we had emailed Rick for homework. Some questions had to do with Japanese customs and rituals. Rick



explained that some phrases can't really be translated directly into English (for example, "omimai," and some words and phrases related to funerals).

Some of the questions were quite useful. We learned the difference between "much," "a lot of," and "many." I generally use these expressions without paying much attention. There are some basic rules to their usage, however, as well as a few exceptions. Knowing and following the rules can really improve our spoken and written English. Learning the difference between "going to" and "will" was also very useful.

Rick gives us a simple homework assignment every week: email him a question about English. I thought at first that it would be hard to think of a new question every week, but now I think of new questions every day. This has been beneficial because it gets me to think about English every day.

**10-Nov-09**

**Takako AMAN**

Today, Rick started the class with asking our "news" from last week as usual.

Some of the members moved their office on the weekends. My department also moved to the new building. It was hard difficult to decide which is necessary and not necessary.

Then we talked about our question about English. It was some questions that we asked Rick as homework. All of them were interesting questions.

For example, the place where we put adverb in the sentences, such as, usually, sometimes, always, never and so on. We know the words, but we didn't know exactly the right place put those words in the sentences.

Another is the meaning of "TOO BAD". I thought it means like "I'm sorry", in fact it was, but it has some different meanings of nuance beside "I'm sorry". It has also sarcastic meaning as well. I realized that phrases in the conversation have not only one simple meaning but also some different meaning. And there are many phrases like that. It is very useful to know those different meaning for us to speak English.

There was one more thing I didn't know! The word "emcee", the master of ceremonies, I thought it was "MC" like a rap man!!

Anyway, it was good chance to know what I didn't know.

**24-Nov-09**

**Haruna SAKAI**

Recently I haven't been able to participate in the EOP lessons. One week I had to attend a lecture and another I was sick with a cold. This made me nervous in today's class, but I tried to relax.

Rick answered some of the questions we email him each week. One had to do with names of Japanese products which Westerners might find strange. "Pocari Sweat," for example, is a Japanese sports drink. Many Westerners get an image of drinking sweat from this product's name! Rick said he thought there were many interesting product names in Japan, and we all thought there were many interesting product names around the world.

I asked Rick to explain the difference between "because" and "since." He explained that basically "because" refers to a direct cause between A and B. With "since" the causal relationship between A and B is less direct and more coincidental. It was a bit difficult to understand.

I also asked Rick about hospitals. In Japan, not all hospitals are open on holidays. If I get sick I have to check to see which hospitals are open. Rick explained that in Canada all hospitals are always open. Canadians don't have to pay for hospital visits, but they pay high taxes. I wish that many hospitals were open on holidays in Japan. When I'm sick I get worried and want to see my family doctor. At any rate, we all have to take care of our health.

**8-Dec-09**

**Miki TATSUNO**

In today's class we began, as usual, with some free conversation talking about what we've been up to recently. I mentioned that I went to a yoga session on Sunday morning, and had a pleasant time. However, everyone in the class thought that that was too early on a Sunday morning for it to be enjoyable!

Next we did a question and answer session, in which we went over everyone's weekly homework. Haruna asked Rick about entrance exam at schools in Canada (there are none). Surprisingly for us, in Canada there are no school fees until university. In addition, we found out that instead of university entrance exams, students in Canada must take particular "academic" courses (especially in math and sciences) in high school if they want to enter university.

For my homework I asked about the difference between "on the corner" and "at the corner". Rick told us that basically the meaning is the same, but that they might change a bit depending on the situation and the sentence we make.

Ex) The building is at/on the corner of East St. and First St.

Where is the building? It's on the corner.

Until Rick explained this usage, I didn't realize the difference, so this is useful to me.

We have two more lessons this year to finish the course. We don't know when next year's sessions will be held yet. I will keep studying English until next year's classes.

**15th Dec. 2009**

**Misa Wakimoto**

At the beginning of class we all caught up on each others' news. I talked about the end of the year party held by the medical affairs department. I was one of organizers of that party. It was a hard job to organize this party. We bought many prizes for a lucky draw event in the party. The most expensive prize was an iPod. Next was a bicycle and third was a 5000-yen gift card. The cheapest prize was a small towel. I wanted to win the iPod or the bicycle, but all I got was the cheapest towel! I was very sad...

Another member talked about a yoga class that she attended in the early morning on Sunday. She said it wasn't as enjoyable as before. Others discussed the charms of Korean drama. The characters have many troubles, and they are often "so close but so far away" in these dramas.

Then we went over our weekly English questions. We found out about some abbreviated English phrases, like "a.s.a.p.," "p.d.q.," "R.S.V.P." etc. These are a little bit difficult to understand if we don't know what they letters stand for.

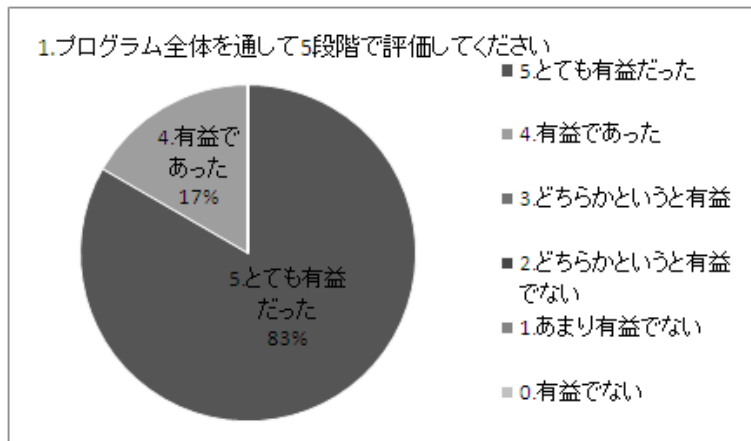
We can use "city hall", "city office" or "city council" to talk about the public office in English. "Legislature" or "parliament", usually refers to the government. But "legislative office" or "parliamentary office" refers to a building.

We found out about the difference between “must” and “have to”. These are very common phrases, but sometimes I wasn’t sure which was the correct one to use.



## 0-EMP[B] 2009 後期アンケート

### 49. プログラム全体を通して5段階で評価してください。



5. とても有益だった	5
4. 有益であった	1
3. どちらかという有益	0
2. どちらかという有益でない	0
1. あまり有益でない	0
0. 有益でない	0

### 50. プログラム全体を通して最も良かった部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 定期的に英語に触れる機会が設けられたこと。
- ・ 良かった部分：毎回、E-mail の課題を作成する点とその週の What's new を話す点。理由：自主的に英文作成等に取り組むようになったから。
- ・ 毎回各自が質問を考えてくる宿題があり、必然的に英語の事を考えるようになった。
- ・ 英語を話す場があること。共通の目標がある人たちと楽しみながら勉強ができること。
- ・ とても基本的なことですが、リック先生と緊張せずに普通に話せるようになったことです。理由としては、先生が文法上は多少おかしくても、大体の意味が分かれば大丈夫とあって、できるだけ英語で話すようにしてくれたからだと思います。

### 51. プログラム全体を通して改善すべき部分とその理由があれば書いてください。

- ・ 今の少人数態勢が、とてもやりやすいです。
- ・ Writing や Reading もあれば総合的な英語力が身に付くと思います。
- ・ これは私だけかもしれませんが・・・今回の研修のスタイルは各自質問を事前に先生にメールしてその回答みんなにする形式でした。その質問自体が質問者以外の人にはわからないので、解答を聞いて初めて質問がわかります。ですから、自分にはまったく関係のないもしくは興味のない質問に関してはあまり勉強にならない感じがしました。
- ・ 毎回、英語に関する質問を提出し、それについて学習をするのですが、他の人の質問はとても勉強になりますが、自分の質問がいつも思いつかなくて、結局どうでもいいようなものになってしまいました。いつも英語に接していないと（自己学習含め）、内容のある質問はなかなか難しいです。また、文法などについてももう少し勉強できたらよかったです。我ながら、すごいめっちゃくちゃな文法だと思うので。。。
- ・ 講座に出ている時は、みんなでいい雰囲気です。学習出来たと思うのですが、自宅での自主的な学習が足りなかったように思いました。講座で、勉強をした気になっていた部分が大きいです。反省すべき点だと思います。

### 52. プログラムの実施期間（時間）についてどう思いますか？

- ・ 就業時間外のため、とても助かっています。（先生たちはとても大変だと思いますが。。）
- ・ 後期分については、今回の実施期間で良かったと思います。1月を過ぎると、入試等の行事があるので、来年度も同様の実施期間で実施されることを希望します。
- ・ 今のままでよいと思います。
- ・ 実施期間・時間については適当だと思います。
- ・ 期間、時間ともによいと思います。
- ・ 適切だと思います。

**53. 自分自身の中・長期的な具体目標を立て、それを書いてください。**

- ・ 英語に対する恐怖心(?)はかなり薄れてきたと思うので、相手にしっかり伝わる英語を話せるようになりたい。
- ・ 語彙を増やして、日常英会話ができるだけスムーズに話せるようになりたいです。(CD等を使用してヒヤリング及びスピーキングの練習を行う。)
- ・ TOEIC受験などの具体的な目標を立てたいと思っていますが、具体的にはまだ考えていません。
- ・ NHKのテレビや通勤途中の車の中でCDを聞くなど、できるだけ英語に接するように努力し、近い将来海外にも行ってみたいと思っています。
- ・ これまではなんとなく、英語に係わって仕事ができたらいいな~程度でしたが、もっと強く、英語に係わる職場に異動したいと思い始めました。そのためにはまず、英語の勉強ですが、とりあえず、目に見える目標や成果がある方が頑張れると思うので、英語検定を受けることを目標に勉強して行きたいと思います。
- ・ 来期の講座では、長い英文を読んだり(例えば新聞など)、書いたり、ということをしてみたいです。将来的には、留学生のお世話をするような仕事をしたいと思っているので、受け入れる際に必要な英語(Eメールのやりとりなど)を身につけられれば、と思っています。今年は自宅での学習をもうすこしががんばって、TOEIC受験などにも挑戦するつもりです。

**54. その他、気がついたことや意見があったら、何でも書いてください。**

- ・ もう一つのクラスがどのような勉強をしているのか興味があります。
- ・ 南部先生の講義も受講したい希望があります。
- ・ 特にありません。これから楽しみながら頑張ります。

#### IV プリンス・オブ・ソングラ大学研修・視察レポート

##### Prince of Songkla University を見学して

宮崎大学医学部生殖発達医学講座産婦人科学分野 児玉由紀

平成 22 年 2 月 14 日から 20 日まで、ENP program の一環として看護部から総合周産期母子医療センター助産師の堀内さんと濱砂さんがソングラ大学病院を見学するのに帯同する形で、私のソングラ行きが決まった。

以前からソングラ大学の学生さんが産婦人科の実習に来ていたときに、その知識レベルの高さにたいへん感心させられていたので、どんな卒前・卒後教育をしているのだろうかに興味を持っていた。

パスポートの期限が 2010 年 2 月 16 日であることに気がつき、年末の慌ただしい中、急ぎパスポートの申請に県庁へ走った。航空券の手配やソングラ大学の Peter との連絡は南部先生や総務課の石川さんにしていただいた。また私の見学希望をふまえて、15～20 日までのスケジュールを立てていただいた。

2 月 14 日に福岡空港からタイのスワンナプール空港を経て、現地時間の午後 8 時ごろハジャイ空港に到着した。そこには、ソングラ大学から Peter が迎えにきてくれていた。その夜から、ソングラ大学の寮の 1 室を借りて 1 週間を過ごした。その中で、興味深かった点について記したいと思う。

##### Ultrasound and Fetal Diagnosis Clinic

女性医師の Dr. Tharangrut Hanprasertpong が chief をしている clinic の見学をした。学生時代の教科書でしか読んだことのなかったサラセミアが、タイでは大変頻度が高く、産科的には胎児水腫など重篤な児の合併症を引き起こすことを知った。遺伝性の疾患であるためカウンセリングが熱心に行われていた。教科書だけの知識が実際にみることによって身近に感じられた。また、別の場所では、若い fellow が助手に手伝ってもらいながら羊水穿刺や臍帯穿刺を堂々とやっていたのに驚いた。

##### NICU

広い NICU であった。Fellow について round させてもらった。心疾患の術後や未熟児を含め、様々な児がいた。話によると MRSA は多くないが、Acinetobacter や Pseudomonas などの院内感染があるということであった。未熟児は臍帯動脈カテーテルと末梢ルートが確保されていた。動脈カテーテルからは、採血が行われ、イントラリピッドのような栄養補給路としても使用されていた。我々がよく使う PI カテーテルは使ったことがないということであった。

ちょうど見学中に、33～34 週頃の新生児の入院があり、5 人ほどの看護師が児を取り囲んで処置やルート確保を行っていた。なかなか末梢ルートがとれず、頭皮ルートとなった。「医師はどこにいるのだろうか？」と見回すと、研修医がひとり指示をコンピュータに入力したり、ルート確保の合間に血液培養を採取したりしていた。処置や採血が終わると、児はインファントウォーマーからクベースへ移された。

「NICU の看護師は点滴が上手にとれる」と fellow が言っていたが、日本とタイにおける医師と看護師の役割の違いをみることができた。

##### 産婦人科オスキー試験

3 日目の午後から医学部 5 年生の産婦人科オスキー試験があるというので、お願いして実際の現場を見学させてもらうことにした。どんなオスキーの試験をどのような形にするのだろうか疑問に思っていたが、心底驚いた。

試験は、すべて口頭とモデルを使って器具を実際に使いながら説明するというものであった。10 程度の部屋に分かれ、10 分毎（くらい）のベルに合わせて各部屋を学生たちが移動していく形で行われていた。各部屋には 1 つの問題が出されていて、学生はそれを読み、試験官（産婦人科医）の前で手技を行いながら説明していく。その問題の難易度の高さに圧倒された。成熟児骨盤位の娩出方法、肩甲難産の時の娩出法、吸引分娩の仕方、鉗子分娩の仕方、吸引アウスの方法、胎盤用手剥離の行い方、Pudendal block の仕方等々産科的な問題の他、「患者さんに pill の服用の仕方を説明してください」といった問題が出されていた。医学部 5 年生でこんなにハイレベルなのか、と思ったが、学生は緊張しながらも皆答えていたのにはさらに驚かされた。研修医以上のレベルだと

思った。

いつこのような勉強をするのかと尋ねると、空いている時間にモデルがおいてある実習室でいつでも勉強できるのだ、という。このような手技を説明しながら行えるのは相当勉強しなければ難しいと思われた。

教える立場から、こうしたソンクラ大学の実習試験は非常に興味深く、今後の参考になった。

全体を通して、教育の熱心さ（教える側、教えられる側ともに）を強く感じた。日本の外の世界で、同じ医学生が、医者が、看護師が、こんなことをしているのだ、と知る非常に貴重な機会であった。

最後に、ソンクラ大学の先生方、看護スタッフの方々、事務局の方々からたいへん親切にいただいた。また患者さん方は、我々が見学することに対してとても協力的であり、有意義なソンクラでの滞在であった。

今回、池ノ上先生と玉田先生からこのような機会をいただき、心から感謝申し上げます。

#### オスキー試験の風景



#### 研修医による新生児診察





1. 目的

- 1) ENP で学んだ英語を活用し、交流をはかる
- 2) PSU の看護、特に産科における病棟と外来の連携を学ぶ

2. 研修期間

2010 年 2 月 15 日～2 月 19 日の 5 日間

3. 実際のスケジュール

2 月 15 日 (1 日目): Visit Maternal Fetal Medicine Unit

2 月 16 日 (2 日目): Visit Labor Ward

2 月 17 日 (3 日目): Visit Antenatal Care Clinic and Primary Care Unit

2 月 18 日 (4 日目): Visit Obstetric Ward

2 月 19 日 (5 日目): Visit Faculty of Aura and Reiki

4. 研修内容

1) Maternal Fetal Medicine Unit



【羊水穿刺を行っているところ】



【胎児心拍監視装置】

ここには、産科のハイリスク妊婦や重症の婦人科の患者さんがいました。ちょうど羊水穿刺が行われているところに立ち会い、穿刺のリスクは、日本とほぼ同じでした。別室で羊水穿刺の説明がビデオを用いて行われ、インフォームドコンセントも行われるようになっていました。タイでは、妊娠 28 週までは妊娠中絶が許されているそうです。タイでは、サラセミアが多く遺伝するため、別室のカウンセリングルームで遺伝率や症状についての説明が行われていました。



2) Labor Ward

タイの助産師教育については、看護学校を卒業後、病院で 5 年間のトレーニング期間を経て試験に合格後、助産業務に関われるようです (Registered Nurse)。

Labor Ward では、分娩だけではなく、外来や救急部から運ばれた妊婦の診察や胎児心拍モニタリングが行われていました。分娩になりそうであればそのままここで様子を見て、分娩の進行がない場合は Obstetric Ward へ、ハイリスク妊婦 (PIH、HT、DM など) であれば Maternal Fetal Medicine Unit へ移されていました。この日

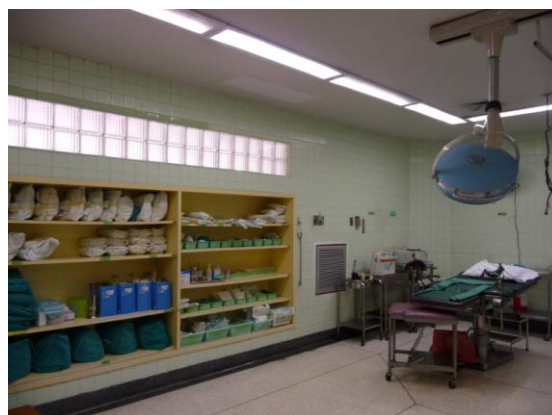
は分娩誘導、発熱、IUGRの妊婦さんが入室していましたが、残念ながら分娩は全くありませんでした。胎児心拍モニタリングは、用紙への記録は5分程で終了し、その後は胎児心音のみきいており、子宮収縮の間隔は医師が妊婦の腹部を触診し確認していました。

分娩第1期は、産婦に深呼吸や音楽でリラックスを促し、腰や背中中のマッサージを専用の道具を用いて行うそうです。分娩室に移動するタイミングは、日本と同じでした。HIV等感染のある産婦に対しては、分娩時、助産師や医師は、上腕まで長さのある手袋とゴーグル付きのヘルメットを着用し、長靴を履いて感染防止に努めるとのことでした。また、HIVに対しては、抗ウイルス剤を妊娠中から内服していくのだそうです。

記録については、5～6年前から電子カルテを使用しており、看護記録も医師記録も共有されていました。看護記録については、アセスメントやケアプラン等、日本と同様な様子でした。



【診察やモニタリングが行われるベッド】



【分娩室】



【分娩時に購入してもらうセットの中身】

- ・パット
- ・トイレットペーパー
- ・歯ブラシと歯磨き粉
- ・ベビーパウダー など

### 3) Antenatal Care Clinic



【指導に用いられるカード】



【スタッフ手作りの乳頭のモデル】

妊婦への教育・指導については、外来の待ち時間にビデオを見てもらったり、写真のような母乳分泌の仕組みや授乳時の児の抱き方などが書かれたカードを用いて行われていました。また、乳頭チェックについては、乳頭モデル（スタッフの手作り）を用いて説明し、正常乳頭でない場合はブレストシールドを用いるなどして、妊娠中から必要なケアを行っているとのことでした。1日に60～70人の外来患者さんが来られるので、その中から指導を要する患者さんを選択して指導にあたっており、アメニティが大変充実していると感じました。外来・分娩室・病棟の、患者情報を含めた部署間の連携については、毎月1回行われる師長さん同士の話し合いと、電子カルテでの情報の共有で、特に問題ないとのことでした。

#### 4) Primary Care Unit

タイはバイクでの交通事故が非常に多く、交通事故後のリハビリや在宅治療における看護、健康教育に携わるということでした。

その他の外来も案内してもらい、Skin Clinic, Counseling Clinic, Treatment Clinic, Eye clinic, Complain Service Center, Medicine Clinic, Pediatric Clinic などがありました。とにかく病院全体が大変広く、ここにあげた外来はほんの一部です。

PICU(Perinatal Intensive Care Unit) の師長さんには、ICU, NICU, SICU(Surgery Intensive Care Unit), SRCU( Surgery Respiratory Intensive Care Unit), Executive Ward を案内していただきました。

#### 5) Obstetric Ward

Private Ward と General Ward があり、Private Ward はすべて個室で16床ありました。1割は婦人科、9割は産科が占めるということでした。経膈分娩の場合も帝王切開術の場合も、分娩後6時間から母児同室が開始となり、帝王切開術後については看護師が授乳の介助にあたっていました。看護師は日勤者4人、夜勤者2人ですが、大勢の家族の付き添いもあるので育児も手伝ってもらえ、母乳栄養も比較的スムーズにすすめることができるのではないかと思います。



【乳首が取り外された哺乳瓶】



【改良した注射器で乳頭を引き出しているところ】

どうしても母乳が足りない時にはミルクを足すそうですが、ここにあった哺乳瓶はすべて写真のように乳首が取り外してあり、哺乳瓶のふたをカップにして、カップ授乳を行っているとのことでした。ほとんどの人が母乳栄養ですすめられていることは素晴らしいことだと思いました。

退院指導の様子も、実際に見学することができました。児は、オムツをつけておらず、布のようなもので上半身から下半身まで包んでおり、退院指導ではオムツの包み方や、母乳をあげるときの姿勢、沐浴などについて説明されていました。退院が早いと、退院後わからないことは電話での相談を受け付けており、そこでも指導を行っているとのことでした。

児の臍結紮に使われていたのは太めの紐であり、その紐を使って臍結紮の仕方を教わるすることができました。その方法だと、7日～14日で臍脱するそうです。タイでは日本のように、とれたへその緒を大切にとっておくという習慣はないとのことでした。



昼食時には、Private Ward の看護師の方たちに、私が準備してきた「私の職場の紹介と骨盤ケアについての紹介」をパワーポイントで発表しました。皆、真剣にきいてくれたので嬉しく思いました。

General Ward は、Private Ward とは違うフロアにあり、妊婦、褥婦や児のケアは Private Ward と同じとのことでした。外科が満床になると、外科の患者さんも入られるということでした。】



【退院指導の場所にて】



【General Ward】

#### 6) Faculty of Aura and Reiki

ここでは、精神と身体のバランスの重要性について、とても考えさせられました。実際に私もみてもらいましたが、パワーの強さが私の自覚する症状と一致してみられ、とても不思議な感覚でした。「気」を送ったり、もらったりすることも実際にやってみましたが、とても気持ちよく、私はすっかり眠ってしまいました。患者さんにも実際に行われているとのことであり、身体だけへのアプローチではなく精神から身体に及ぼす影響に視点が置かれ、とても自然で大切な療法なのではないかと思いました。

#### 5. おわりに

今回の研修は、私にとって ENP で学んだ英語を活用する最高の機会となりました。英語を使ってうまくコミュニケーションをとれた時の喜び、逆にコミュニケーションがとれないときの自分への歯がゆさを感じ、英語を使うには、まだまだこれからも学習が必要であると痛感しました。今回の研修は新たな課題も見つかりましたが、目的については、私なりに達成できたのではないかと思います。

今回、タイ語も一緒に覚えようと思い本を持参してきていたのですが、日本からハジャイに向かう際の機内に忘れてしまい、肝心な時に使えなかったのが本当に残念でした。「サワディカア（こんにちは）」と「コップンカア（ありがとう）」はよく使ったので覚えました！楽しみにしていたタイ料理は、予想以上に辛かったですが、辛い料理もあり、どちらもとても美味しかったです。毎日おなか一杯いただけて幸せでした。そして、フルーツの種類がとても多いのにとても驚きました。今回の研修では、以前、私たちの病院に研修でこられていたトトさんと再会することもでき、人の縁を感じました。

あっという間の5日間でしたが、楽しく無事に研修を終えることができたのは、一緒に参加した濱砂さんや同行してくださった児玉先生のおかげだと思います。PSU の peter や看護部長さん、案内してくださった看護師長さん方、産科の先生方達とも出会うことができ、これからもこの縁を大切にしていきたいと思います。そして、最後にこのような機会をつくってくださった玉田先生、ENP の先生方に心から感謝いたします。そして、これからもご指導どうぞよろしくお願い致します。

はじめに

今回、2010年2月15日～19日の日程で、タイのソンクラ大学病院での研修を行った。  
タイ（PSU）では、妊産婦に対してどのような看護を行っているのか、主な合併症は何で、どのようなケア・指導を行っているのかを知る。特に、産褥の乳房ケアの実際についてを知ることを目的とした。また、患者の安全の確保を含めた新規採用の助産師の分娩介助に関する教育について知ることを目的として出発した。

日程

2月15日：Maternal Fetal Medicine Unit にて Assist. Prof. Tharangrut Hanprasertpong より羊水穿刺や感染症のカウンセリング室の案内などを受ける  
同部署の Prof. Ounjai Kor-anantakul より説明を受ける

2月16日：Labor Ward にて一日研修

2月17日：Antenatal Care Clinic にて研修後、院内案内を受ける

2月18日：Obstetric Ward にて一日研修

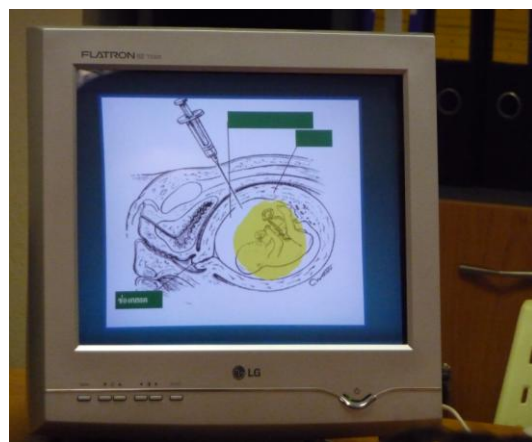
2月19日：Faculty of Nursing にて、Dr. Preya Kaewpimon より Aura and Reiki の説明を受ける

### <Maternal Fetal Medicine Unit>

ここは、外来からの患者が、産婦人科共に検査・処置のために訪室していた。6台のベッドと3台の経腹超音波、NSTが配置されている。産科では、主に超音波やモニター、羊水穿刺を実施しているとのことであった。PSUでは、完全電子カルテである。NST所見は、同室内のモニターへ表示され、超音波所見は映像がそのままカルテへ取り込まれていた。羊水穿刺は、約6～8人/日実施しており、費用は1回1万円であるとの事であった。待合室には、様々なポスターや妊娠中の注意事項などが表示されていた。また、羊水穿刺に関しては、パンフレットだけでなく、患者指導の部屋で説明ビデオが鑑賞できるようになっていた。内容は、検査の時間や具体的な穿刺についてまで説明されていた。タイ語のわからない私にも、わかりやすいとわかるほど、詳しく説明されているようであった。



患者さんがビデオを見ている様子

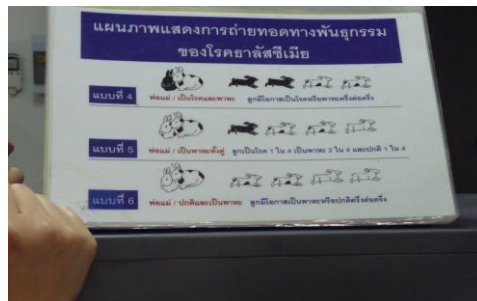


羊水穿刺のビデオの一部

穿刺の結果は、すぐに同院にて検査することができていた。処置の手技・使用物品は、ほぼ同じであるが、看護助手が処置台を準備する程度で、ほとんど全てを医師一人で行っていた。患者は布を顔に巻き、実施していた。終了後は、必ず胎児心拍を経腹超音波にて患者へ見せて終了していた。看護師は、実施中に声掛けなどを行う様子はなかったが、事前のオリエンテーションや、実施前後の声かけにて患者指導を行っていた。

## <感染症カウンセリング室>

タイにおいては、1人2～3人の割合で、タラシミアが認められるとの事であった。同割合で、HIV患者も認められる。そのため、妊婦全員にスクリーニングを行うとの事であった。このカウンセリング室では、遺伝性の感染症を持つ夫婦に対して専門のカウンセラーが、遺伝性や発生率、新生児におこる合併症などを説明していた。ここで使用されているような資料は、ANCにおいても、MFM Unitにおいても使用されており、タラシミアが一般的な感染症であることを感じた。同室横には、SDCもあり、外科手術専用のカウンセリング室が整っていた。



タラシミア説明の為の教材

## <Labor Ward>

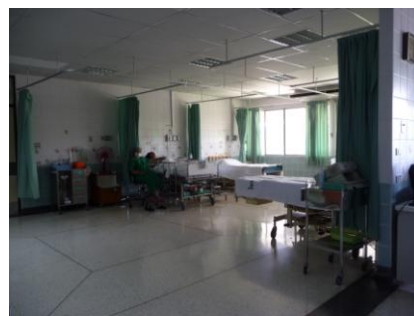
分娩は、70～80例／月ある。分娩室は、2台の分娩台があり、感染専用の分娩室が別に一部屋ある。分娩室とは別に広いフロアがあり、8床のベッドがある。そこでは、陣痛発来 of 患者だけでなく、誘導分娩や、Maternal Fetal Medicine Unit からの患者搬送なども受け入れていた。研修した日はとても静かな日であったが、忙しい日には全てのベッドがうまってしまふほどの患者がいるときもあるとの事であった。そのため、待機の助産師が決められているとの事であった。残念ながら分娩も無く、見学することができなかったが、患者搬送の場面は見る事ができた。患者の情報は、先に電話にて申し送られ、患者が到着した際には簡単な申し送りのみされていた。患者が到着してから医師と協力して搬送を受ける様子は、普段の私の仕事場面とほぼ同じであったが、違うのはフロアが広いので動きやすく、静かな環境のため、全体的に落ち着いた雰囲気の中で受け入れていたことであった。研修中は、誘導分娩、自然陣痛発来、IUGR の患者搬送などの患者さんに会うことができた。患者さんのモニター（胎児心拍監視装置）はテープで固定し、ベルトは使用していなかった。誘導分娩の患者さんは、モニター装着はしているが、児心音を拾っているのみで、紙への記録はなかった。時折助産師がお腹に触れ、子宮収縮を確認し、子宮収縮が頻回である時には、手動であわせている輸液を調節していた。連続モニタリングを行って誘導分娩を管理している私には、とても驚きであった。しかし、モニターベルトを使用しないのは、患者への負担は少ないだろうと感じた。助産師は、この患者さんへ時折声をかけていたが、とても優しい口調で話しかけ、患者も笑顔を見せていた。この雰囲気は、日本でも変わらないなと感じた。自然陣痛発来 of 患者さんは、リスクが少ないため、自由に Labor Ward 内を歩いていた。

PSU では、希望が無い限りは、一度配属された部署から異動することは少ないとのことであった。専門性を高めるためには異動は勧めないとの理由であった。そのため、分娩室では、看護師免許以外に専門の授業を受けた後、分娩を経験していくことで、5年の経験で助産師として働くことができるとの事であった。分娩には、新生児を介助する助産師が入るため、助言ができるとの事であった。



フロアの様子 →

← 分娩室の様子





## <Antenatal Care Clinic>

ANC は、産科外来である。ここでは、70 人/日の患者が訪れていた。ANC では、日本の外来と同様に、ハイリスクの妊婦をスクリーニングすることを目的とするとのことであった。PSU での主な合併症は、切迫早産が圧倒的に多いが、PROM、前置胎盤、DM、心疾患が多いとの事であった。ANC において、妊婦健診は医師が行うため、看護師は主に患者指導を業務としていた。患者用の教材がたくさん表示してあったり、パンフレットが自由にもらえるようになっていた。

基本的には、指導は妊娠 28 週以降に実施しているとの事であった。これは、タイ王国の中絶が妊娠 28 週まで認められているからである。指導内容は、日本と大きく違わなかったが、妊娠 32 週以降では毎朝食後に胎動カウントを実施してもらうなどの指導もあった。乳房ケアについては、患者自身が行えることを意識して指導が行われていた。教材として、自作の乳房モデルや紙芝居を使用していた。



母乳指導に使用されている紙の教材

ここでは、同じ外来フロアにある、Gynecology Clinic と Primary Care Unit も見学させていただいた。Gynecology では、180 人/日の患者が訪れるため、とても忙しそうであった。週に 3 回は午後の時間に oncology 専用の外来になるとの事であった。

PCU は、“Near Home Near Heart”をモットーに、患者さんの生活に添ったケアが行われていた。健康増進や DM などの家庭でのケアなどを目的とした食事会や activity などの、地域での活動内容も説明を受けることができた。

## <Obstetric Ward>

Private Ward と General Ward の二種類があった。Private Ward は、全個室になっており、各部屋にテレビとエアコン、冷蔵庫、家族が泊まれるスペースがあった。General Ward は広くオープンスペースになっており、カーテンで仕切れるようになってはいるが、使っている様子はなかった。個室はないため、面会は 11 時から 7 時に行えるとの事であった。婦人科の化学療法患者が入る場合は、離れた場所のベッドを使用するなどの工夫を行っているとの事であった。入院患者は、褥婦が 90% であるが、DM 合併や PIH、切迫早産の患者も入院していた。病床の関係で婦人科患者が入院することもあるとのことであった。出生後 6 時間で母児同室が開始となる。この際には、ベッドサイドで本人、夫と児の標識を確認し、書類にサインをもらっていた。サインは、退院のときにもしてもらおうとの事であった。入院中は、朝、児をコットに乗せて患者がひとつの部屋に集まり、沐浴後、授乳、小児科医の回診を行っていた。コットをしようしている様子は同じであったが、児は薄手の布で巻かれており、オムツは使用しない。そのため、コットの下半身部分には防水シートがかけてあった。また、基本的には母乳育児を推進しており、術後体位変換が困難な場合でも 6 時間後には児を部屋へ連れて行き、直接授乳を実施していた。また、短乳頭に対する援助として、乳頭吸引機、ニップルシールドなども使用しているが、自作の乳頭吸引機なども工夫して使用していた。ミルクを与える場合にはカップ授乳を行っていた。冷蔵庫に用意されたミルクは、キャップを外すとすでに乳首は外されている状態であった。児が入院の患者は、搾乳を行い、

冷凍母乳を持参しており、これは日本とほぼ変わらない光景であった。臍は、分娩室にて紐を用いて結び（臍クリップはないので、へその緒を切った後に看護師二人で結ぶそうです）、以後は 2 回／日消毒を実施し、臍脱は約 7 日後とのことであった。入院期間はどちらも経産婦 2～3 日、帝王切開術は 4～6 日で退院である。そのため、退院指導は産後一日目（帝王切開術は 2 日目）にパンフレットを用いて行われていた。退院指導は毎日実施しており、時間になると患者さんが集まってきていた。退院指導が早いように感じるが、患者は術後 2 日目には腹帯を使用しスタスタと歩いていた（疼痛は、硬膜外麻酔と経口内服薬にてコントロールしていた。）また、退院後のフォローとして、電話対応を 24 時間行っており、80～100 件／月対応しているとの事であった。

Private Ward において、プレゼンテーションを実施する機会をいただいた。内容は、日本で行っている SMC の考え方と実施方法を行った。手技と一緒にしながらのプレゼンテーションであり、タイにはない考え方と手技に、1, 2, 3・・・と声を出しながら、終始笑顔で実施することができた。また、乳頭マッサージに関しては同じであった。



SMC のプレゼンテーションを行っている様子



コットの児の様子

## <そのほか病院内の様々な病棟について>

予定していた病棟の他にも、外来スペースをはじめ、NICU、PICU、SRCU、SICU、Orthopedic Ward などの見学を行った。どの病棟も必ず入り口に師長をはじめとするスタッフの顔写真と名前が張ってあった。ICU は、病床は各約 10 床であった。各病棟で、呼吸器がついていたらここに入る、そこからどの程度回復したら病棟へ戻るなどの基準がはっきりと設けられていて、少ない病床数でも患者を効率良く受け入れることができていた。また、ここでも、心電図や患者の経過の情報は全て電子カルテとなっており、患者情報はどの病棟でもすぐに確認できるようになっていた。新たに建設されたタワー内の 7 階から 12 階にある EXECUTIVE Ward も見学することができた。ここは、7 階から吹き抜けになっており、吹き抜け部分にグランドピアノが置いてある専用の中庭があった。1 2 階からの眺めはすばらしく、設備も最新のものが整っていた。研修させていただいた一般病棟、private 病棟とは、また違う一面を見ることができた。

## <Aura and Reiki>

霊気は、日本が発祥のものであった。7 つのチャクラの考え方を学び、自分自身の Aura を見てもらった。その後、受ける側、送る側それぞれの霊気を体験した。先生からの気が送られると、体が温くなる感じがして、とても不思議な体験であった。これは、分娩時のリラクゼーションにも使用されるとのことであり、疲れもあったためか、眠気が襲ってきた私の経験からは、リラックスすることができるように思えた。

## <少しだけ、タイでの生活について>

私は、2 月に訪問しましたが、タイは、暑いです。最も過ごしやすい季節に訪問しましたが、半そででも暑いぐらいでした。白衣すら暑いと感じました。宿舎はとても広いですが、タオルをはじめ、日常生活品は持参もしくはテスコで購入する必要があります。しかし、冷蔵庫、シャワーやコンロ、食器は揃っていました。お食事は、



いつもご招待していただいていたのですが、とても美味しいものばかりで、帰ってみたら体重が大変なことになっていました。お魚も美味しいですが、辛いものと、大きな魚（名前がどうしても覚えられませんでした）、ココナッツジュースが印象的でした。決してそればかりではありませんが！そして、タイの人は朝食に飲茶を食べることも多いようですので、もしお時間が許せば、朝の飲茶もお勧めします。あ、お茶はもちろん、飲み物はほぼ全て甘くて、私には大変でした。PSUの敷地内はとても広く、様々な特徴ある学部もあり、宿舍もあり、湖もあります。朝や夕方涼しい時間にはたくさんの関係者が湖の周囲を走っていました。夕日もとても綺麗ですので、よかったら経験してみてください。あ、蚊もいます。堀内さん特製蚊取り線香が役に立ちました。

## おわりに

今回の研修では、妊産婦への看護場면을快く見せていただき、周産期の看護を体感することができました。妊娠中の合併症は日本と似ていたが、タイでは患者教育のための媒体が充実しており、感染症の患者へのケアも深く行われていることも実感することができた。これは、タイでの妊産婦の知識不足、情報不足もあるとの事であったが、日本でも患者個人の知識の差は認められるところではあり、今後の自分の看護の参考にしたいと感じた。産褥の乳房ケアの実際については、プレゼンテーション内で、日本の援助の一部を紹介することができ、またタイと日本の相違点について学ぶことができ、目的を達成できた。助産師の分娩教育に関しては、タイには助産師という専門職はないが、教育の中に分娩助産などの専門的な学びが行えるプログラムがあり、卒業後も同じ部署での継続した教育が行われていることや、分娩数が多く経験をつむことができることが当院との違いであった。しかし、助産師という仕事内容にタイにも日本にも大きな差は無く、お互いに良い看護を行っていききたいという気持ちは一緒であることを改めて感じる事ができた。

タイでは、本当にどこに行っても、スタッフの方々はいつも優しい笑顔で「サワディーカー」と声をかけてくれました。また、患者さんと医療者の関係が良く、私たちの見学も、笑顔で受け入れてくれました。タイの人々の優しさに触れた一週間の生活でした。また、英語を使うという意味で、今回の研修の中では、私自身の英語力の不足により悔しい思いをしました。と同時に、母国語が何であっても、英語が話せればコミュニケーションがとれ、相手を理解することができるという実感もありました。これは本当に楽しい経験でした。是非、多くの医療に関わる方に、この体験をしてもらって、日本に来る英語を使用する患者さんにも同じ安心感を味わって頂けたらいいなと思います。

最後になりましたが、現地で御世話になった、医学部長さん、病院長さん、看護部長さんをはじめとするタイの皆様、患者さんたち、英語を始めた時から御世話になっている玉田先生をはじめとする英語科の先生方そして、このような貴重な経験をさせていただいた看護部の皆様、応援してくれた友人達、一緒に貴重な一週間を過ごし、助けてくださった児玉先生、そして堀内さんに心から感謝を申し上げ、この経験を活かす看護を今後も行っていききたいと思います。

5年目が終わりました。

後期の EMP には、タイから Matinee さんと Sakchai さん、アーバインから Murata さん、東京の日赤から加藤さん、それに卒業生の夏目くんと蓮見くんと野溝さんを招待しました。

Matinee さんは EMP には今回が 2 度目で、前回は一人だけの招待でしたので 5 年生と 4 年生に 4 コマずつ計 8 コマも授業をしてもらいました。EMP を始めた 2 年目に、一度はソククラでの実習風景を見ておかないとプログラムをやっていけない、と思い、何とかソククラに行きました。(92 年にハレレに行っていて以来、外国行きは避けたいという思いが強かったので、よく出かけたと思いますが。) 予め折衝して行くとスケジュールが大変になるようで、横山さんが行ってる間にこっそりと(?) 出かけました。実習風景を一目見れば充分でした。国際交流担当の Teerha さん以外は誰とも会わなかったのですが、唯一会う必要があったのが、同じく国際交流担当の Matinee さんでした。学生が実習している小児科と産婦人科の病棟に見学に行くのに承諾が要ったからです。そのとき Matinee さんと話をしながら、いつか日本にお呼びしようと思いました。今回は 4 年生の再試験で予定を変更したこともあって、結果的に 3 コマの授業をお願いするだけで済んで幸い(?) でした。

Sakchai さんは去年ソククラに行ったゲストさんの推薦です。Murata さんは、アーバインでお世話になった成田くんが、是非呼んで下さいということで招待しました。部屋でお話する機会もあり、優しく繊細な方だなと思いました。今度別所くんと篠原くんがお世話になりますが、Murata さんでよかったと思います。前回来られた方の話を聞いた時は、アーバイン、どうなるんやろと心配しましたが、池ノ上さんとファイザルさんの絆は強く、ビデオカンファランスなどを経た難産の末に、何とか宮崎版の受け入れを引き受けてもらえそうです。

日赤の加藤さんは、ハイチへの緊急出動の可能性もあったなか、また来て下さいました。ジンバブエに行かれたり、ややアウトロー的なところもおありで、話がはずみます。学生にも貴重な機会になっています。

夏目くんと蓮見くんはよく部屋に出入りしていた卒業生で、久しぶりに宮崎に来てくれました。野溝さんは EMP を始めた時の 4 年生で、ファイザルさんの NICU での実習の時に産婦人科医になろうと決めたそうです。ソククラ報告記を本格的に書いてくれた第一号で、去年の 3 月、宮崎を離れる前に結婚相手の野溝くんといっしょに部屋に来てくれて、その時に EMP の約束をしました。

3 人とも論文を読む以外、日頃英語を使う機会はほとんどないと言っていました。その意味では、ソククラやアーバインに向けて、無理をしてでも EMP をきっかけに英語を学び、使う機会が持てるのは、長い将来を考えると、希有な機会なのかも知れないと思いました。

今回ソククラ報告を書いてくれた濱砂さんと堀内さんは、EMP を始めた 4 年前からいっしょにやっている看護師さんで、4 年間を見てただけに嬉しいです。産婦人科の児玉さんには、ファイザルさんの NICU での実習をはじめ、ソククラ大生の受け入れで日頃から大変お世話になっています。濱砂さんと堀内さんといっしょに行って下さって感謝しています。今後ともよろしくお願いします。

元々英語も好きではありませんし、極めて否定的な見方をする人間ですし、集団行動が苦手ですので、本音のところでは、かなりきついのは確かです。英語は侵略者の言葉で、英語を話す人たちの侵略は形を変えて今も続いていると考えていますので、英語を手段と割り切っても、なかなか心がついていきません。一年生の授業では、たまたまアフリカの話をしていますが、実はタイも同じような状況で、日本はタイから貿易を通じてかなりの利益を得ています。卒業生の玄くんが、中央大学理工学部卒の友人が大林組に就職してタイで働いている話をしてくれたことがあります。日本の ODA 予算でタイに橋を造るとき、大林組が入札で権利を得て、資材を三井汽船とヤマト運輸が運び、お金は三菱銀行が取り扱う、実際は ODA の大半は日本に戻って来るんですよ、そんな内容でした。実は、学生交流のあるタイは、授業で話をしたアフリカと構図の上ではいっしょです。先進国と呼ばれる国が発展途上国と呼ばれる国を搾取しているわけです。

実際にタイに行けば日本とタイとの経済的不均衡がすぐに分かると思いますが、折角行くのですから、その現実も見えて来て、社会と自分について考えてほしいと思います。

変な空間に迷い込んでしまいましたが、大学が学生のためにあるのですから、少しでも学生のためになるように、お役に立てればとは思っています。

2010 年 3 月 14 日

たま



発行者：宮崎大学医学部社会医学講座英語分野

玉田吉行（教授）・横山彰三（准教授）・  
**Michael Guest**（准教授）・**Richard White**（講師）  
南部みゆき（講師）・白坂佳代（非常勤講師）

宮崎大学医学部：  
〒889-1692 宮崎県宮崎郡清武町大字木原 5200（代表）0985-85-1510

英語科ホームページ：<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/>  
EMP ホームページ（大学教育プログラム（教育 GP）専用のホームページ）  
<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/english/index.html>